荒尾市まちづくりアンケート
報告書

「第２期あらお創生総合戦略」達成度評価等のためのアンケート調査

令和５年３月
荒尾市

＜目　次＞

第１章 調査の概要……1
１．　調査の目的……1
２．　調査設計と回収結果……1
３．　調査結果の見方……1
第２章 調査結果……2
１．　対象者の基本属性……2
（１）　基本属性……2
（２）　移住の有無……3
２．健康・福祉について……8
（１）朝食の摂取状況……8
（２）栄養バランスへの関心……9
（３）日常的な運動の状況……10
（４）健康診断や人間ドックの受診状況……11
（５）保健や医療体制の満足度……13
３．結婚・出産・子育てについて……15
（１）結婚について……15
（２）出産について……17
（３）子育てについて……22
４．生活全般について……24
（１）給与・労働環境……24
（２）公共交通の利用状況・満足度……28
（３）街並みの評価……30
（４）「荒尾干潟」の親しみやすさ……30
（５）文化・教養に関する満足度……31
（６）スポーツに関する環境の満足度……33
（７）防犯や防災に関する地域の安全性……34
（８）多様性の尊重……35
（９）障がい者への理解や関心……36
（１０）地域社会との交流……37
５．市民と行政との協働のまちづくりについて……38
（１）まちづくりに関する市民と行政の役割分担について……43
（２）地域活動への参加……45
６．荒尾市の住みやすさについて……48
（１）荒尾市の住みやすさ……49
（２）荒尾市への定住意向……57
７．自由意見……60
【保健・医療・福祉分野】……60
【産業・観光分野】……60
【子育て・教育分野】……61
【スポーツ・文化・生涯学習分野】……61
【交通安全・防災・防犯分野】……62
【都市基盤・定住環境・公共交通分野】……62
【協働分野】……63
【市政全般・その他の分野】……63
第３章 調査票……65

第１章 調査の概要

１．調査の目的

「第6次荒尾市総合計画（第2期あらお創生総合戦略）」に関する取組みの効果を検証するとともに、市民のニーズや課題を抽出することを目的とした。

２．調査設計と回収結果

調査対象	荒尾市内に居住する18歳以上90歳以下の方
抽出方法	郵送分：無作為抽出　※地区ごとの人口比率に応じ抽出 市公式 LINE：友達登録者全て
調査方法	郵送による配布・回収、市公式 LINE による回答
配布数	郵送分：1,000通（うち、不達数4通） 市公式 LINE：8,359人　※R4.9.20時点（荒尾市外住民含む）
有効回収数・回収率	郵送分：345件（34.5%） 市公式 LINE による回答数72件（0.9%）
調査期間	令和4年9月20日（火）～10月11日（火） ※ただし、10月21日（金）までの回収分を含む。

※例年、郵送により2,000人を対象に調査を行っていたが、今回初の市公式 LINE による調査を行った。

３．調査結果の見方

○回答は、原則として各質問の調査数を基数とした百分率（%）で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。

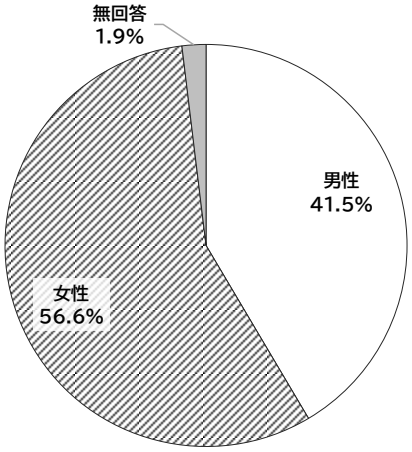
○本文または図表中の質問文及び回答選択肢については、省略して表記している場合があるため、詳細は「第3章　調査票」を参照のこと。

第２章 調査結果

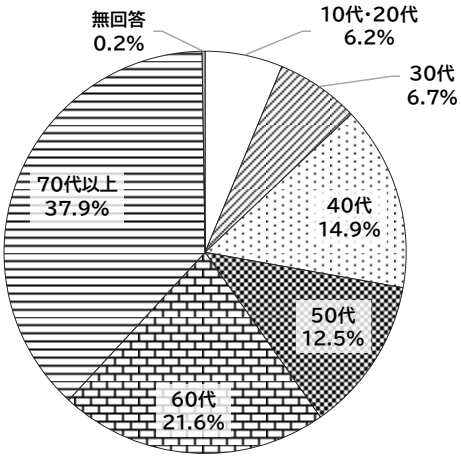
１．対象者の基本属性

（１）基本属性

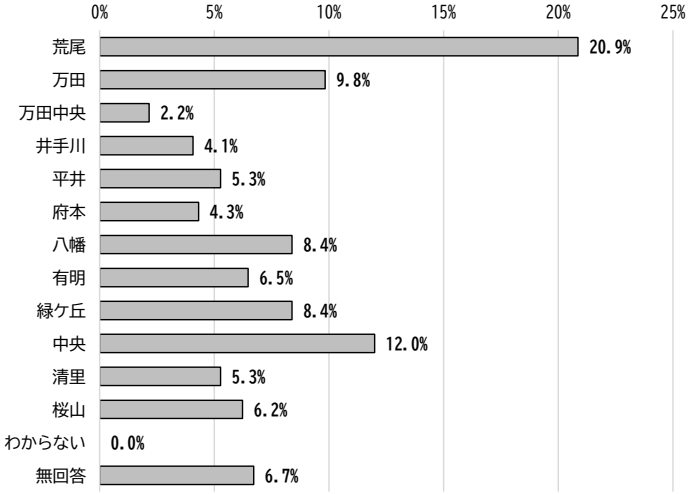
【性別】



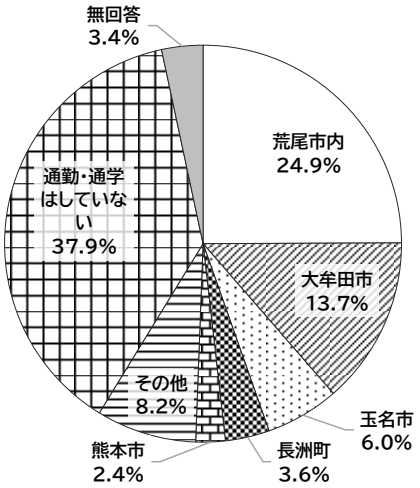
【年齢】



【居住地区】



【通勤地・通学地】



回答者の性別は、「女性」（56.6%）が過半数を占める。

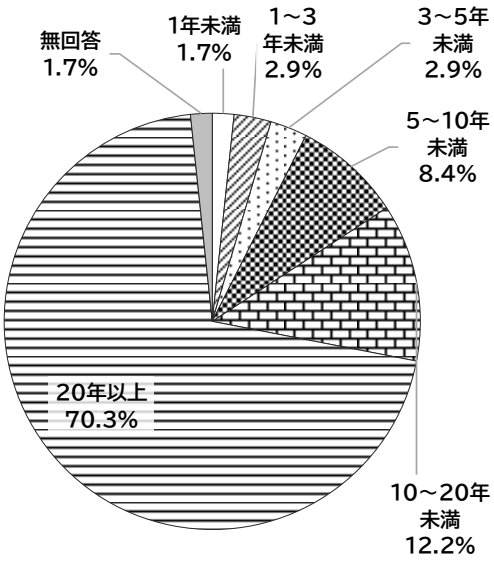
年齢は「70 代以上」（37.9%）が最も高く、これに続く「60 代」（21.6%）を合わせると回答者全体の半数以上（59.5%）になる。次いで「40 代」（14.9%）、「50 代」（12.5%）となっている。

居住地区は、「荒尾」（20.9%）が最も高く、次いで「中央」（12.0%）、「万田」（9.8%）となっている。

勤務地・通学地は、「荒尾市内」（24.9%）が最も高く、次いで「大牟田市」（13.7%）となっている。

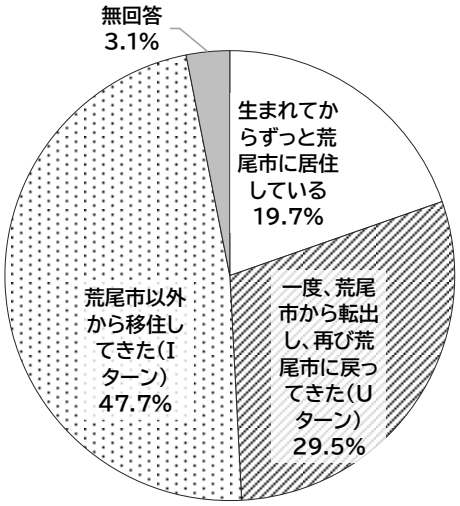
（２）移住の有無

【荒尾市での居住年数】



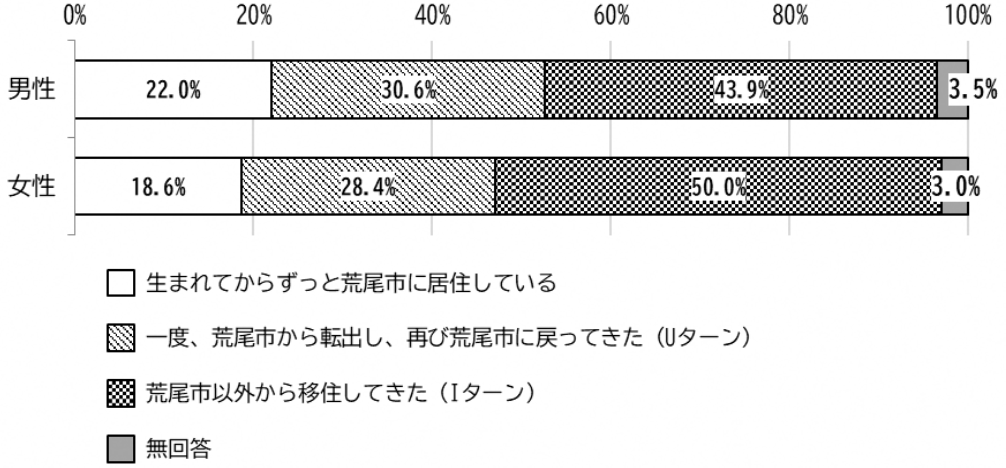
荒尾市での居住年数をみると、「20年以上」（70.3%）が最も高い。
以下、居住年数が短くなるにつれて、割合も少なくなる傾向がある。

【移住の有無】



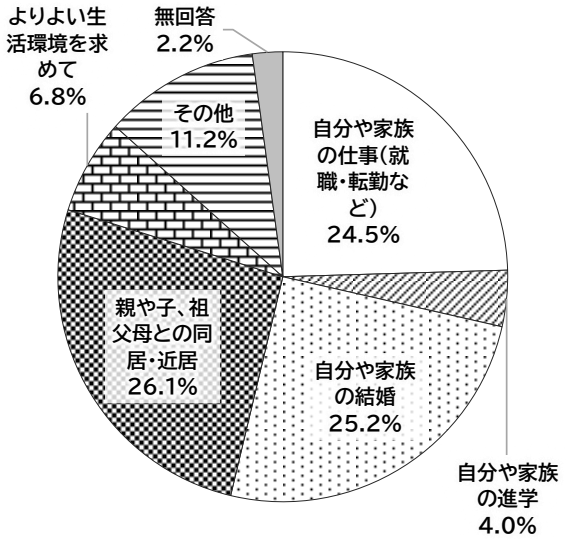
移住の有無をみると、「荒尾市以外から移住してきた（I ターン）」（47.7%）が最も高く、次いで「一度、荒尾市から転出し、再び荒尾市に戻ってきた（U ターン）」（29.5%）と、移住経験のある方が 7 割超となっている。

【男女別】



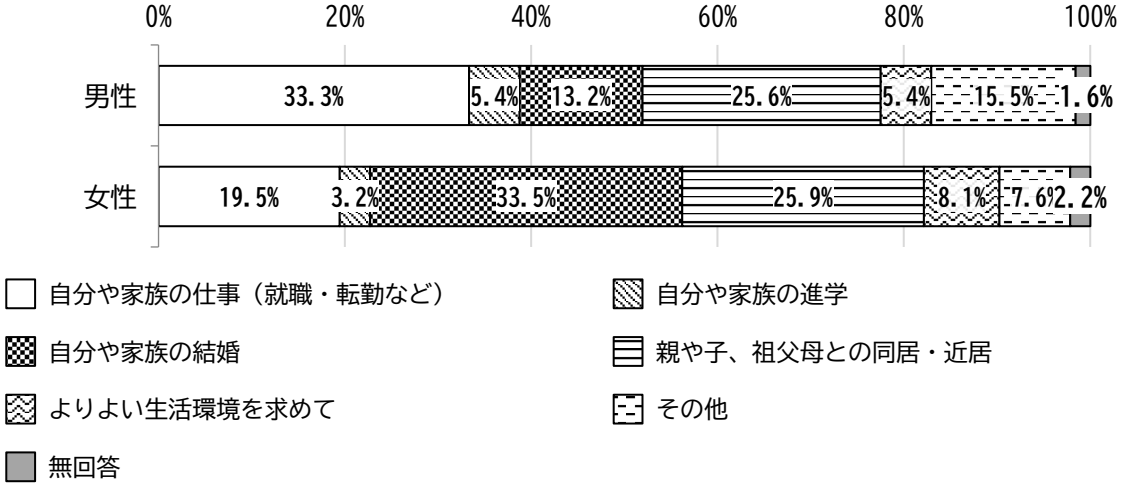
男女別にみると、男女ともに「荒尾市以外から移住してきた（I ターン）」の割合が最も高い。なお、移住経験の視点からみると、女性は「I ターン」の割合が男性よりも高くなっている。

【移住の目的・きっかけ】



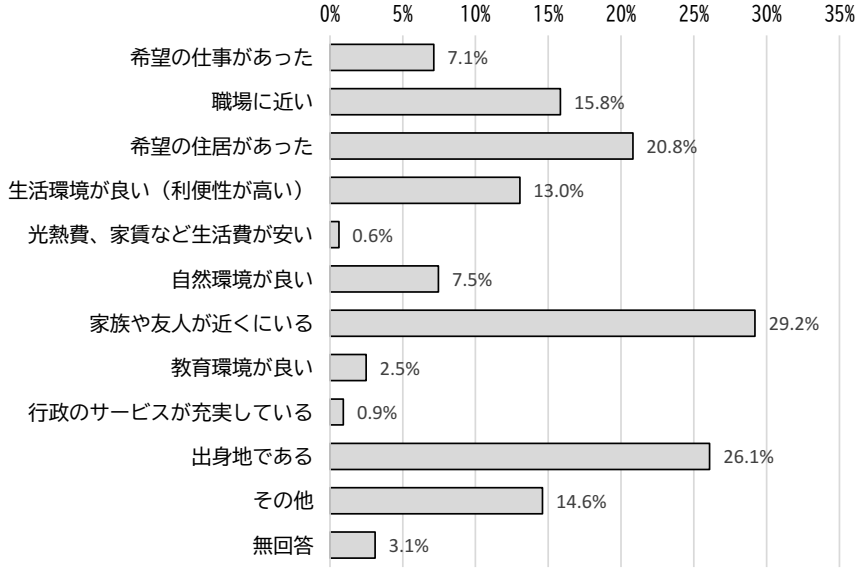
移住の目的・きっかけは、「親や子、祖父母との同居・近居」（26.1%）が最も高く、次いで「自分や家族の結婚」（25.2%）、「自分や家族の仕事（就職・転勤など）」（24.5%）となっている。

【男女別】



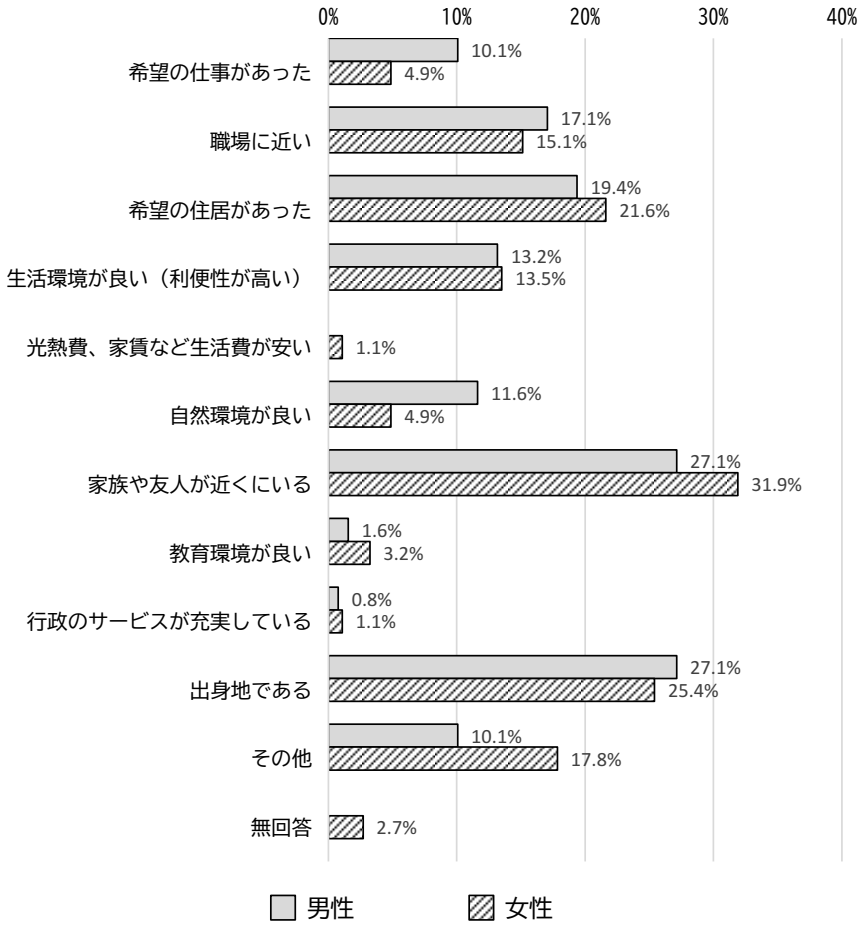
移住の目的・きっかけを男女別にみると、男性は「自分や家族の仕事（転職・転勤など）」（33.3%）の割合が最も高い。一方、女性は「自分や家族の結婚」（33.5%）をきっかけに移住する割合が最も高い。

【転居先を荒尾市に決めた理由】



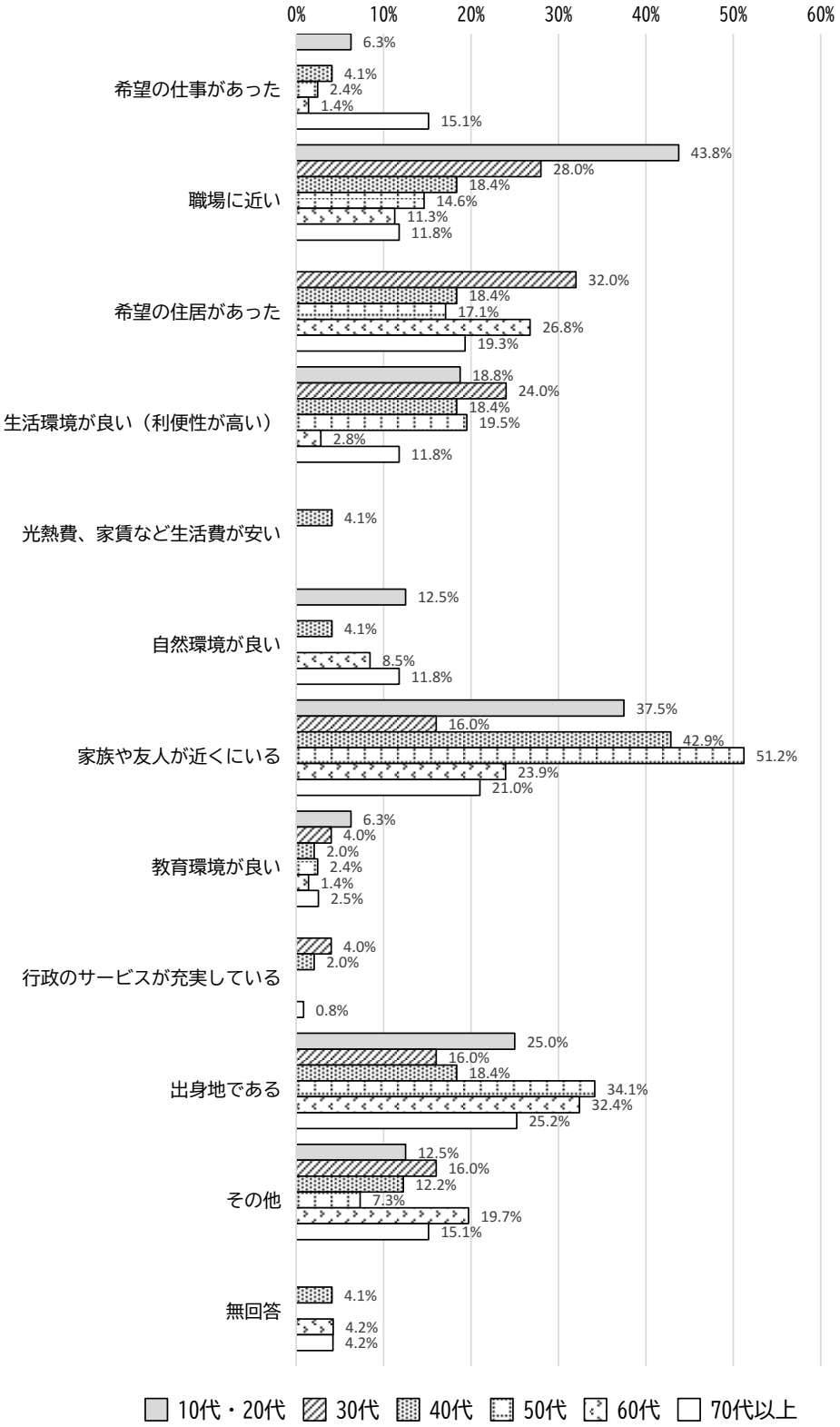
転居先を荒尾市に決めた理由は、「家族や友人が近くにいる」（29.2%）が最も高く、次いで「出身地である」（26.1%）、「希望の住居があった」（20.8%）となっている。

【男女別】



転居先を荒尾市に決めた理由を男女別にみると、男性は「家族や友人が近くにいる」「出身地である」（ともに 27.1%）が最も高く、女性は「家族や友人が近くにいる」（31.9%）、次いで「出身地である」（25.4%）が高くなっている。

【年代別】



転居先を荒尾市に決めた理由を年代別にみると、10 代・20 代は「職場に近い」（43.8%）が突出して最も高くなっている。

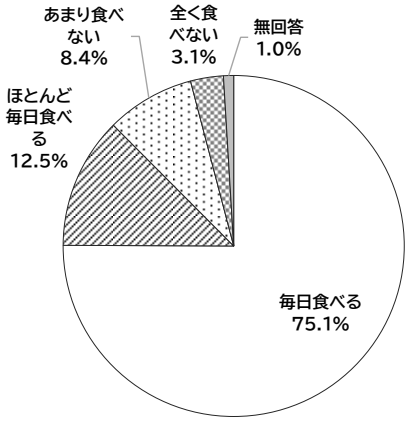
また、30 代は「希望の住居があった」（32.0%）、40 代～50 代は「家族や友人が近くにいる」、60 代～70 代以上は「出身地である」が最も高くなっており、年代によって理由に差がみられる。

２．健康・福祉について

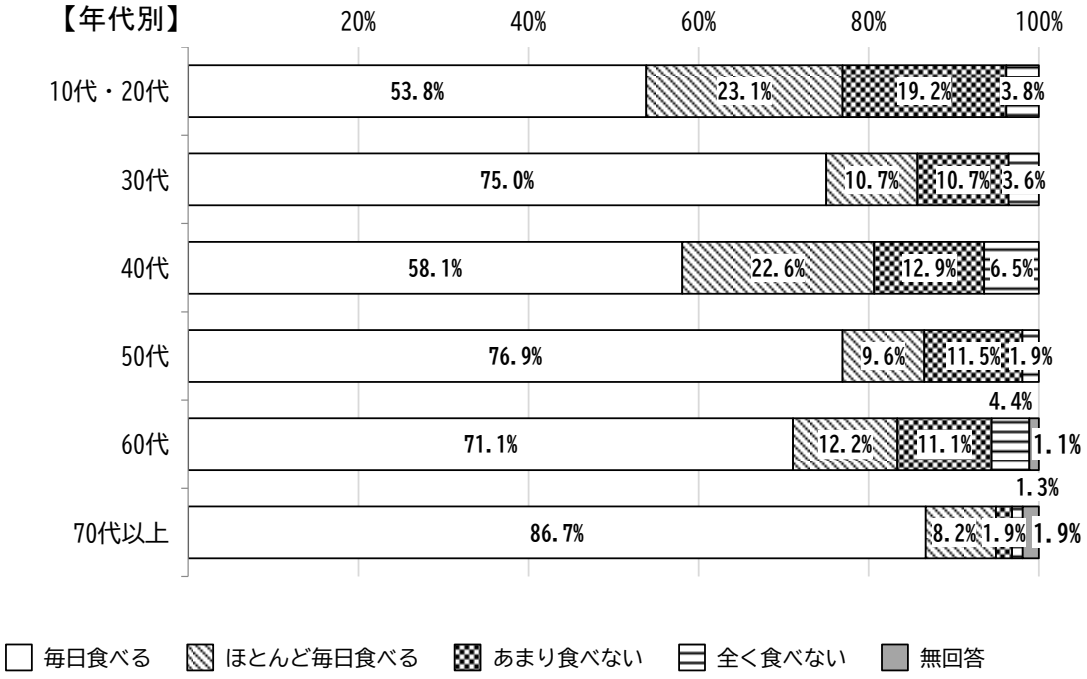
（１）朝食の摂取状況

問１　あなたは、普段朝食を食べていますか。

【朝食の摂取状況】



朝食の摂取状況は、「毎日食べる」（75.1%）が７割以上を占めており、前回（76.1%）同様の傾向となっている。これに、「ほとんど毎日食べる」を加えると、約９割が普段朝食を摂取していることが分かる。



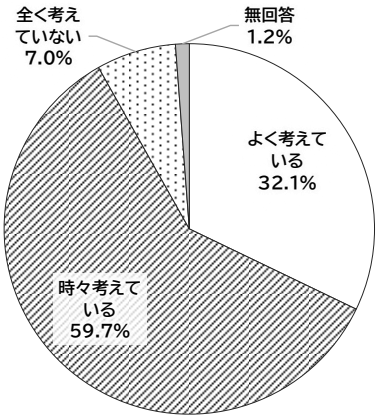
年代別にみると、30 代、50 代～70 代以上は「毎日食べる」の割合が７割以上と高く、「ほとんど毎日食べる」も加えると 30 代、50 代～70 代以上では８割以上が普段朝食を摂取していることが分かる。

一方、「毎日食べる」の割合は、昨年同様、10 代・20 代（53.8%）が最も低くなっている。

（２）栄養バランスへの関心

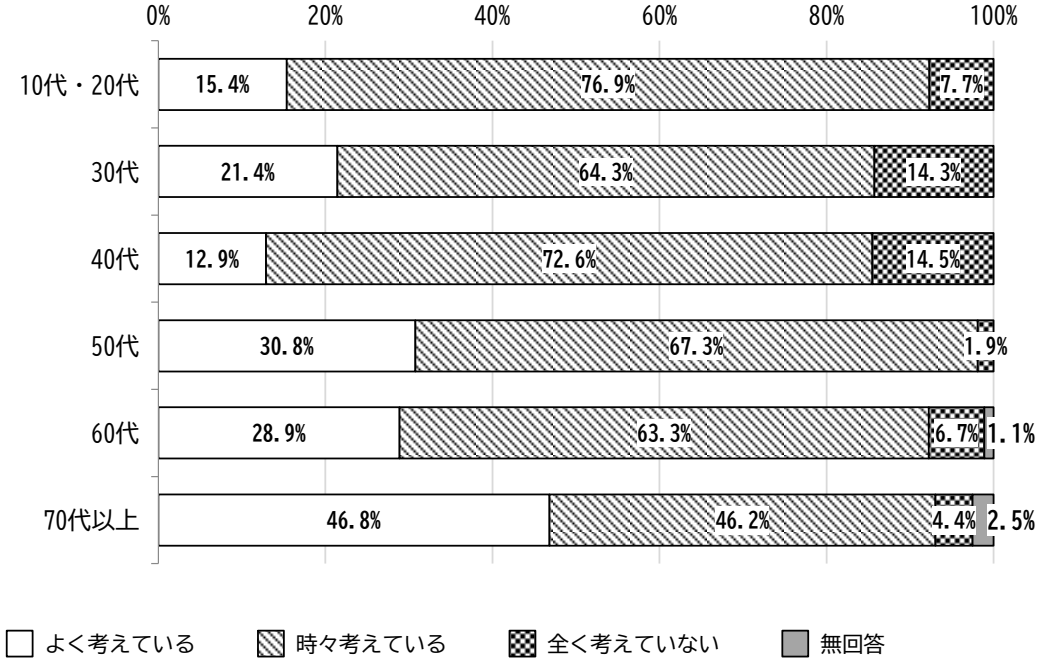
問２　あなたは、食事をとるときに栄養のバランスを考えて食べていますか。

【栄養のバランスへの関心】



栄養のバランスの関心については、「よく考えている」「時々考えている」を合わせた割合が９割以上を占めており、市民の関心が非常に高いことがうかがえる。

【年代別】



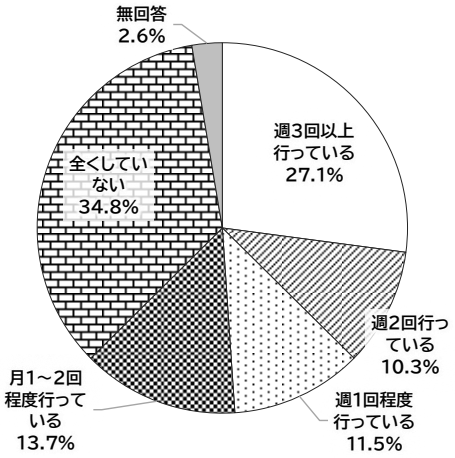
年代別にみると、年代が上がるにつれ、栄養のバランスへの関心が高くなる傾向にある。

また、「よく考えている」と答えた回答者では40代（12.9%）が最も低く、10代・20代（15.4%）より関心が低いことがうかがえる。

（３）日常的な運動の状況

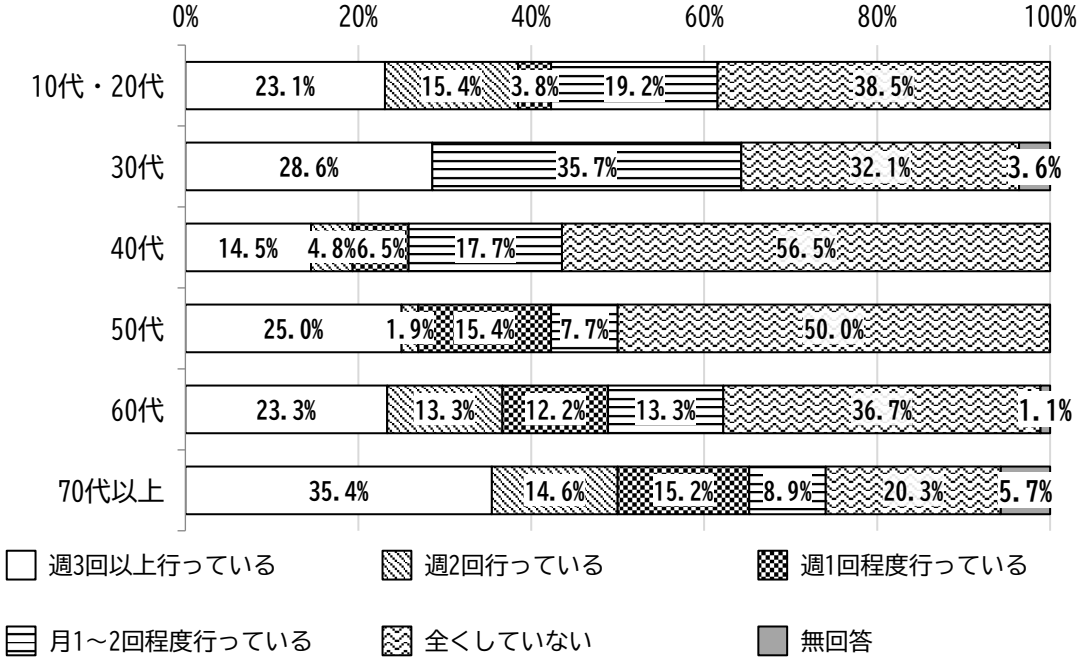
問３　あなたは、日常的に１回３０分以上の汗ばむ程度の運動をしていますか。

【日常的な運動の状況】



日常的な運動の状況は、「全くしていない」（34.8%）が最も高く、前回（36.2%）同様の傾向となっており、次いで、「週 3 回以上行っている」(27.1%)、「週 1～2 回程度行っている（13.7%）となっている。

【年代別】

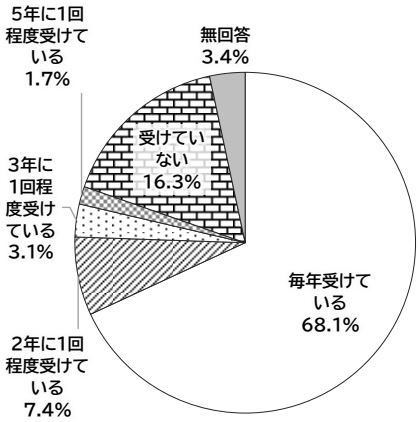


年代別にみると、40 代、50 代では「全くしていない」が 5 割を超えており、勤労世代の運動頻度が少なくなっているため、日常的な運動につなげる切っ掛けづくりを行うことが必要だと考える。

（４）健康診断や人間ドックの受診状況

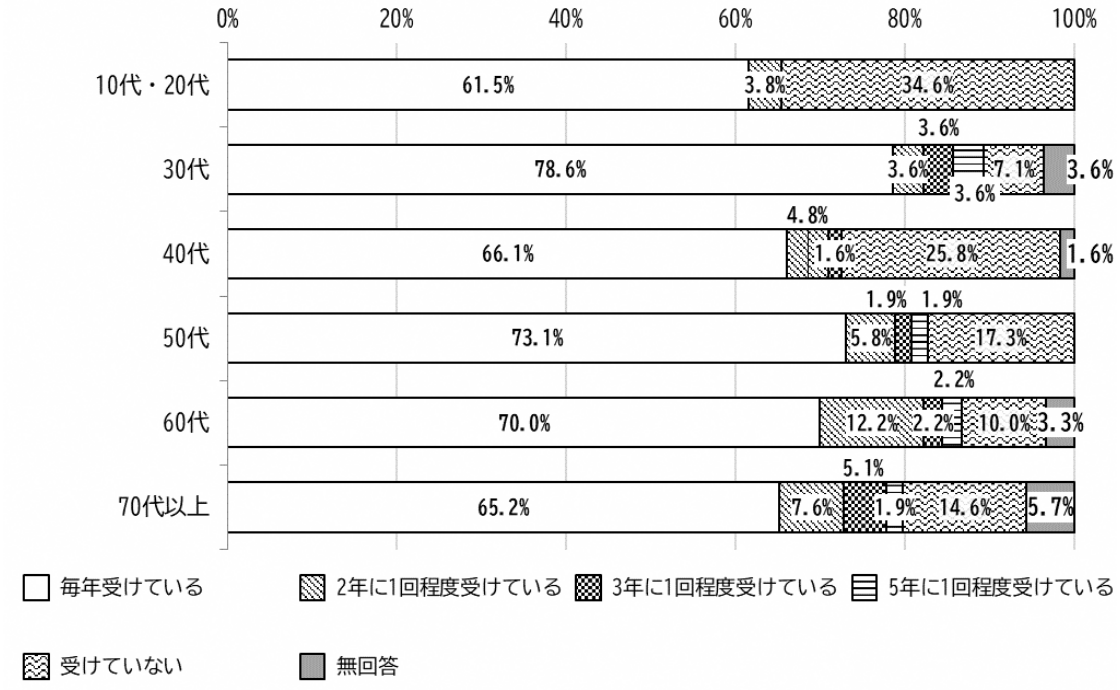
問４―１　あなたは、どれくらいの間隔で健康診断や人間ドックを受けていますか。

【健康診断や人間ドックの受診状況】



健康診断や人間ドックの受診状況は、「毎年受けている」（68.1%）が最も高く、次いで「受けていない」（16.3%）、「2 年に 1 回程度受けている」（7.4%）となっており、前回とほぼ同様の傾向であった。

【年代別】

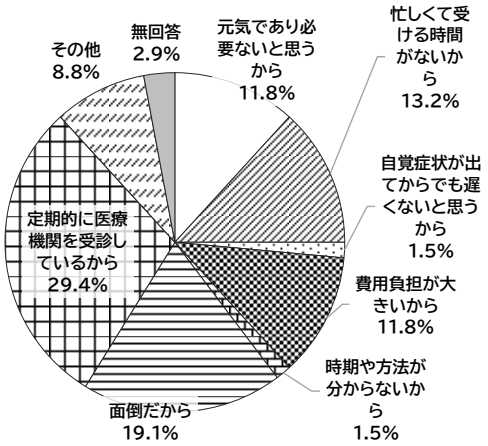


年代別にみると、30 代の「毎年受けている」（78.6%）割合が前回（65.3%）より増加している一方、40 代では（66.1%）と前回（77.1%）より 11.0%減少している。

生活習慣病を発症しやすくなる 40 代・50 代については、「受けていない」の割合が多く、早期発見・予防につなげるため、受診率を上げる効果的な取組みが必要である。

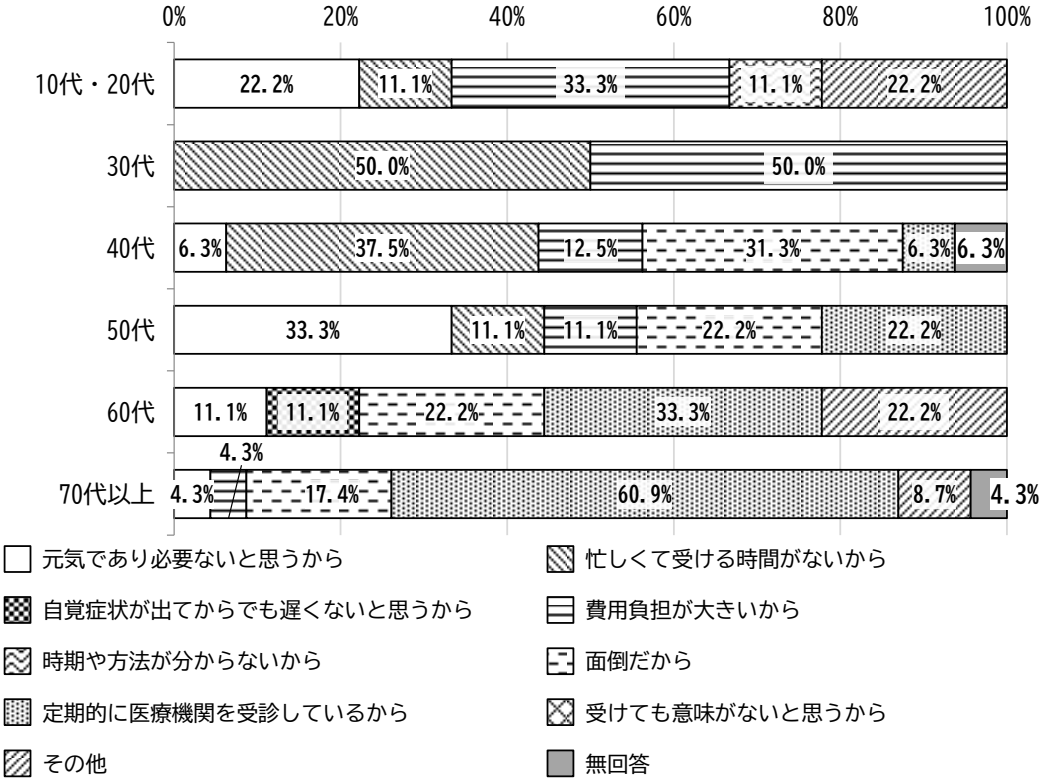
問４－２　（問４-1 で「５．受けていない」と回答した方）
その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【健康診断や人間ドックを受けていない理由】



健康診断や人間ドックを受けていない理由は、「定期的に医療機関を受診しているから」（29.4%）が最も高くなっているが、前回（51.7%）と比べ大きく減少し、「面倒だから」（19.1%（前回 8.2%））、「費用負担が大きいから」（11.8%（前回 6.1%））、「忙しくて受ける時間がないから」（13.2%（前回 7.5%））の理由が、大きく増加している。

【年代別】



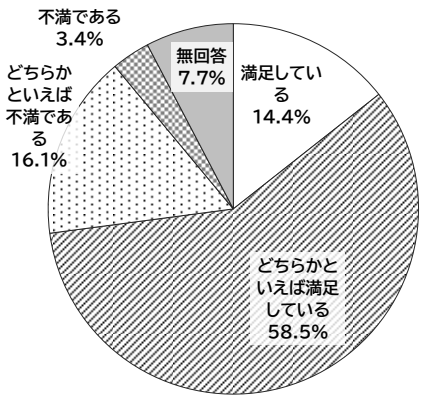
年代別にみると、特定健診の対象となる 30 代においては、「忙しくて受ける時間がないから」「費用負担が大きいから」（ともに 50.0%）が高くなっており、時間の確保や費用負担の軽減が課題である。

一方で、40 代は「忙しくて受ける時間がないから」（30.5%）、「面倒だから」（31.3%）が、50 代は「元気であり必要ないと思うから」（33.3%）、「面倒だから」（22.2%）が比較的高く、世代で受けない理由が大きく異なる。

（５）保健や医療体制の満足度

問５－１　あなたは、荒尾市の保健サービスや医療体制についてどのように思いますか。

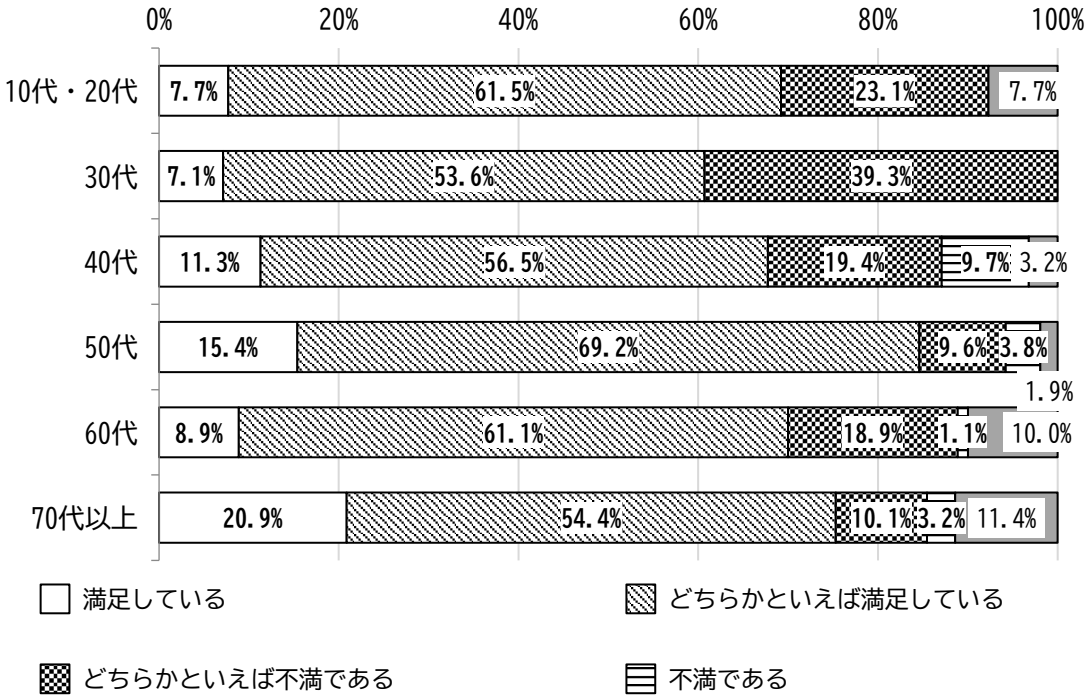
【保健サービスや医療体制の満足度】



荒尾市の保健サービスや医療体制の満足度は、「どちらかといえば満足している」（58.5%）が最も高く、これに「満足している」を合わせた『満足』層が７割以上（72.9%）となっている。

一方、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた『不満』層は 19.5%となっており、前回（『満足』層：73.8%、『不満』層：17.1%）から満足度が下降し、不満度が上昇している。

【年代別】

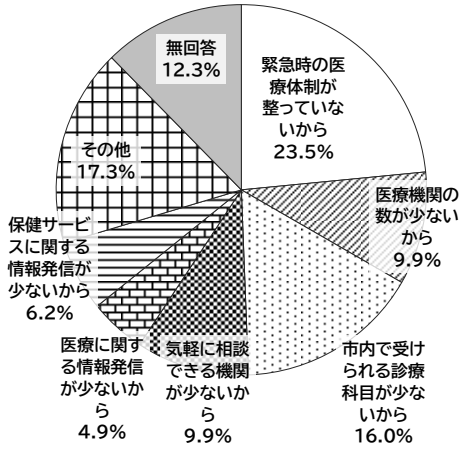


保健サービスや医療体制の満足度を年代別にみると、『満足』している層では 50 代（84.6%）が８割を超えて高くなっている。

また、『不足』の層では、30 代（39.3%）が他の年代より高くなっている。

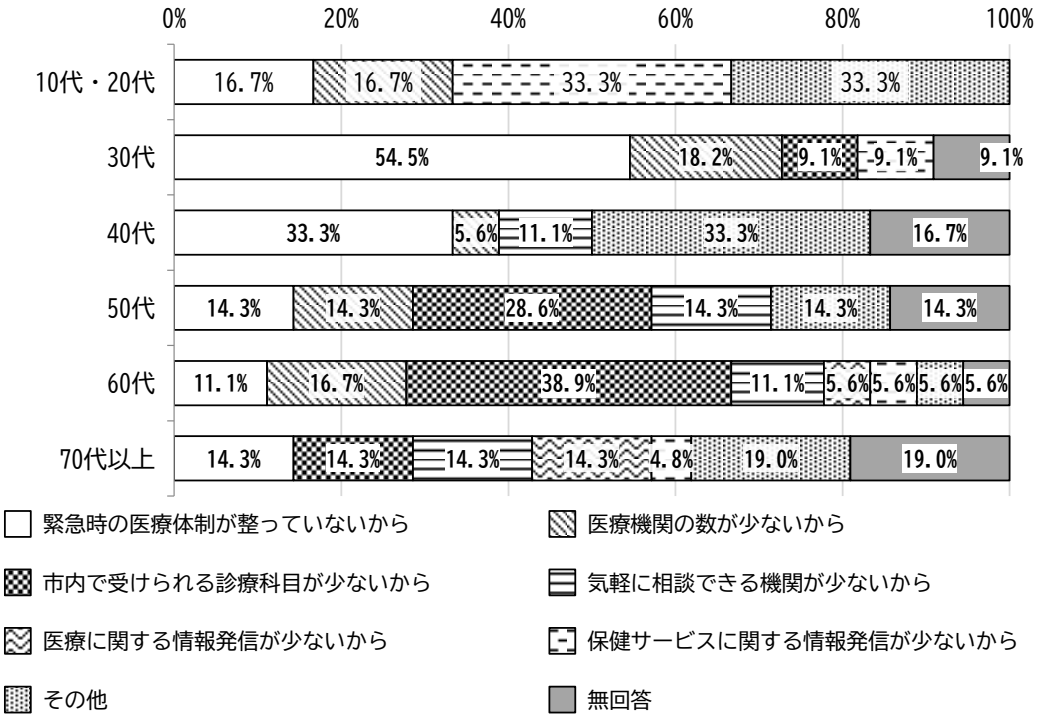
問５－２　（問５-1 で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【保健サービス・医療体制に不満な理由】



荒尾市の保健サービスや医療体制に不満な理由は、「緊急時の医療体制が整っていないから」（23.5%）が最も高く、次いで「その他」（17.3%）、「市内で受けられる診療科目が少ないから」（16.0%）となっており、医療体制の充実が求められている。

【年代別】



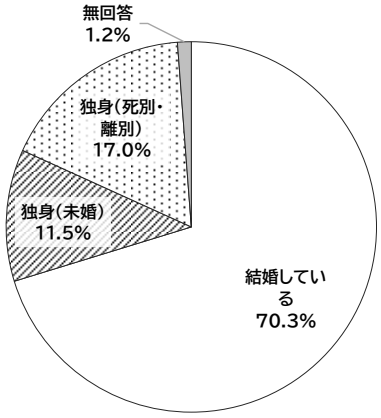
年代別にみると、30 代から 40 代の子育て世代においては、「緊急時の医療体制が整っていないから」の割合が他の年代より高くなっていることから、医療体制を充実させ、安心して子どもを育てられる環境づくりを目指す必要がある。

３．結婚・出産・子育てについて

（１）結婚について

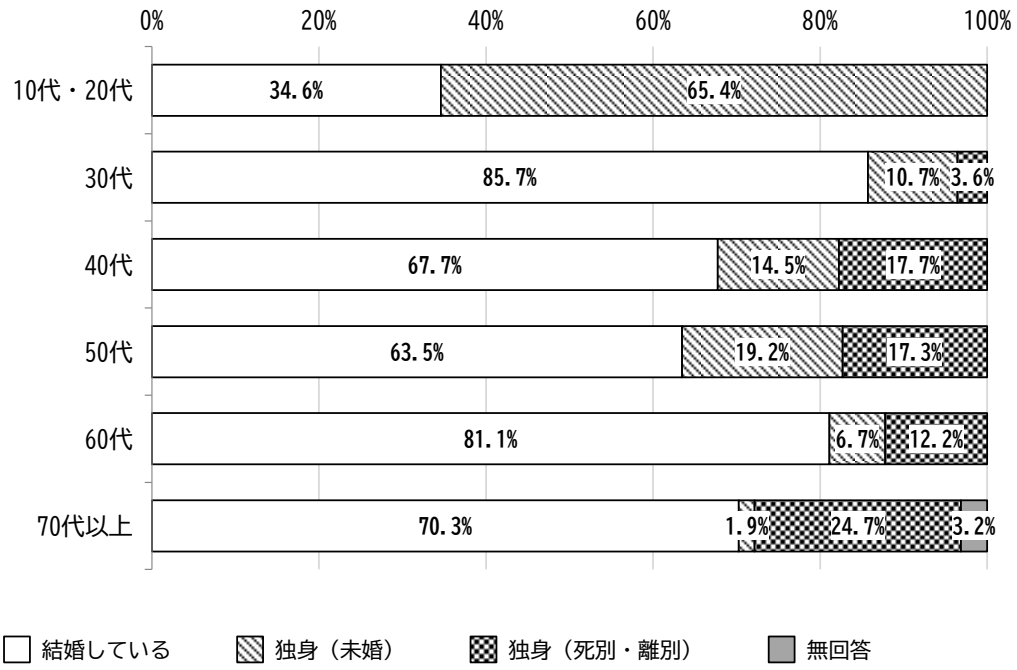
問６　あなたは、結婚していますか。

【婚姻状況】



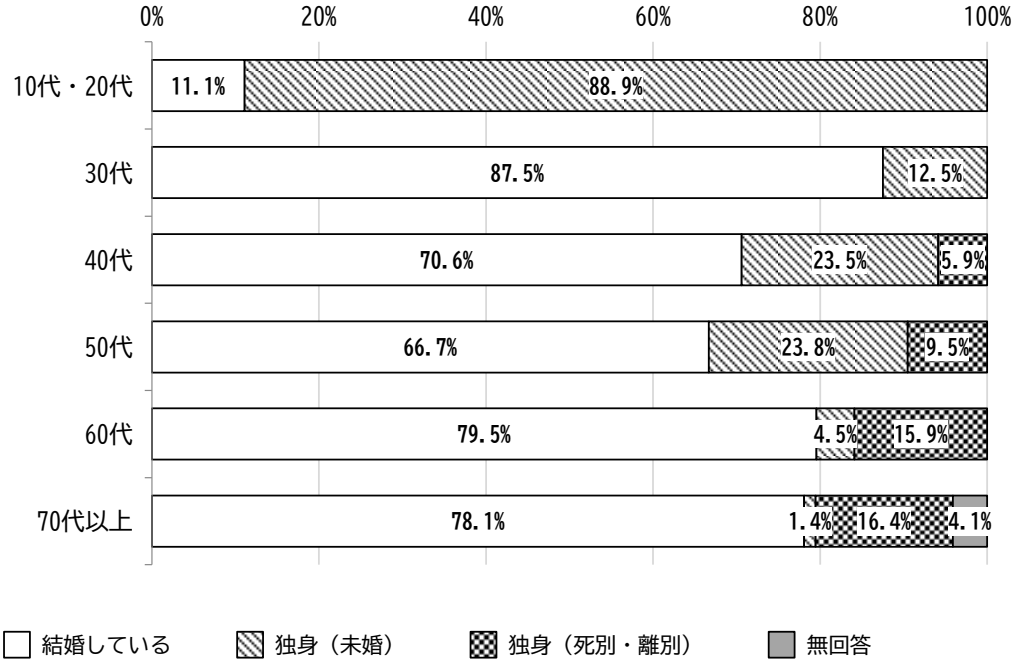
婚姻状況をみると、「結婚している」（70.3%）が７割、「独身（未婚、離別・死別の合計）」（28.5%）が３割弱となっている。

【年代別】

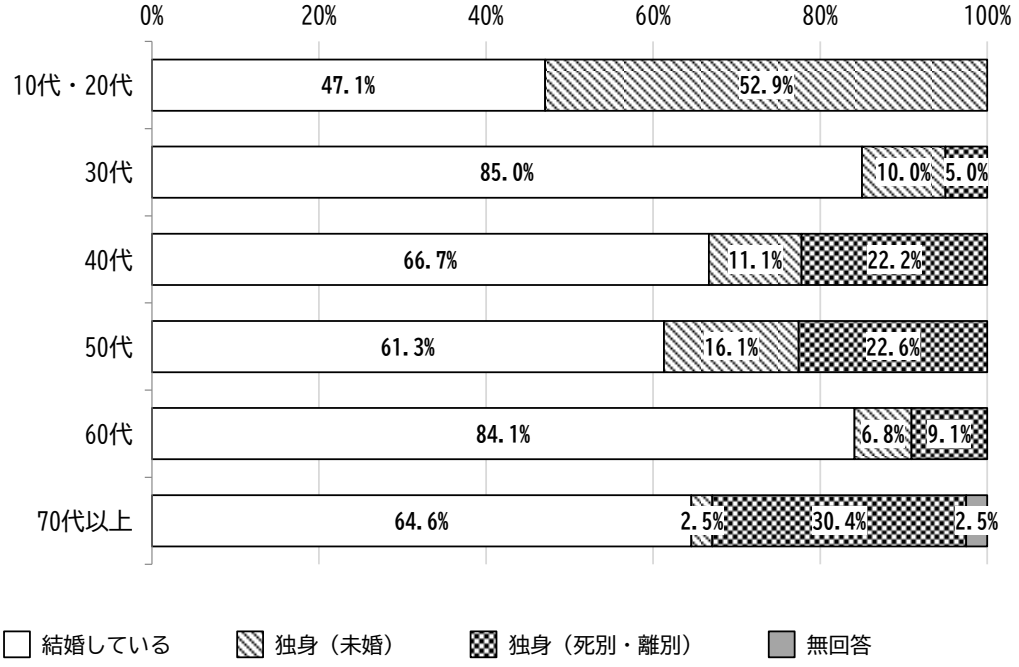


年代別にみると、10 代・20 代までは「独身（未婚）」（65.4%）が全体の約６割を占めるが、30 代になると「結婚している」（85.7%）が８割を占めるようになり、30 代で結婚する方が多いことが分かる。一方で、40 代、50 代になると独身（未婚）、独身（死別・離別）がそれぞれ２割弱と大きくなっている。

【年代別（男性）】



【年代別（女性）】

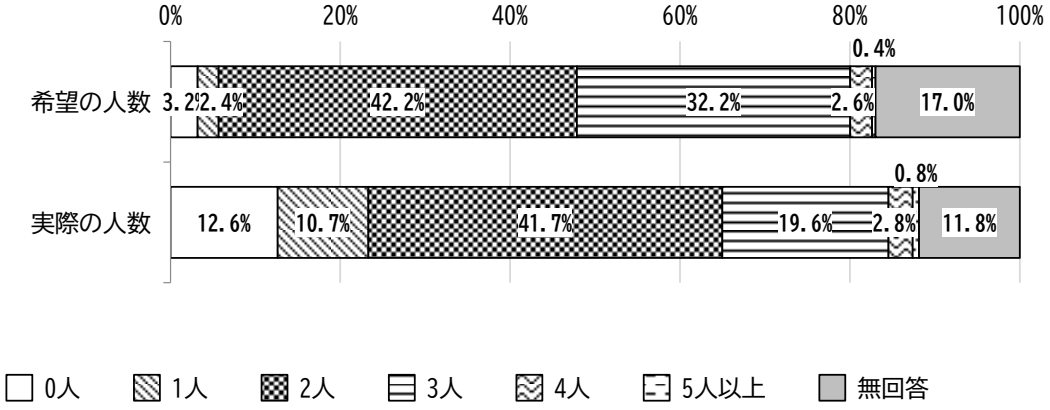


男女別では 10 代・20 代の男性の婚姻率（11.1%）が女性（47.1%）より 36.0 ポイント低くなっており、未婚率が高いことが分かる。また、男性は 40 代、50 代の独身（未婚）が独身（死別・離別）を大きく上回っているのに対し、女性の 40 代、50 代は独身（死別・離別）が大きく上回っている。

（２）出産について

問７－１　現在の子どもの有無に関わらず、あなたの希望する（希望していた）子どもの人数は何人くらいですか。
また、実際の子どもの人数は何人ですか。

【希望する（希望していた）子どもの人数・実際の子どもの人数】



希望する（希望していた）子どもの人数と実際の子どもの人数をみると、希望では「2 人」（42.2%）が最も高く、次いで「3 人」（32.2%）となっており、2～3 人を希望する人が 74.4%と 7 割を超えている。

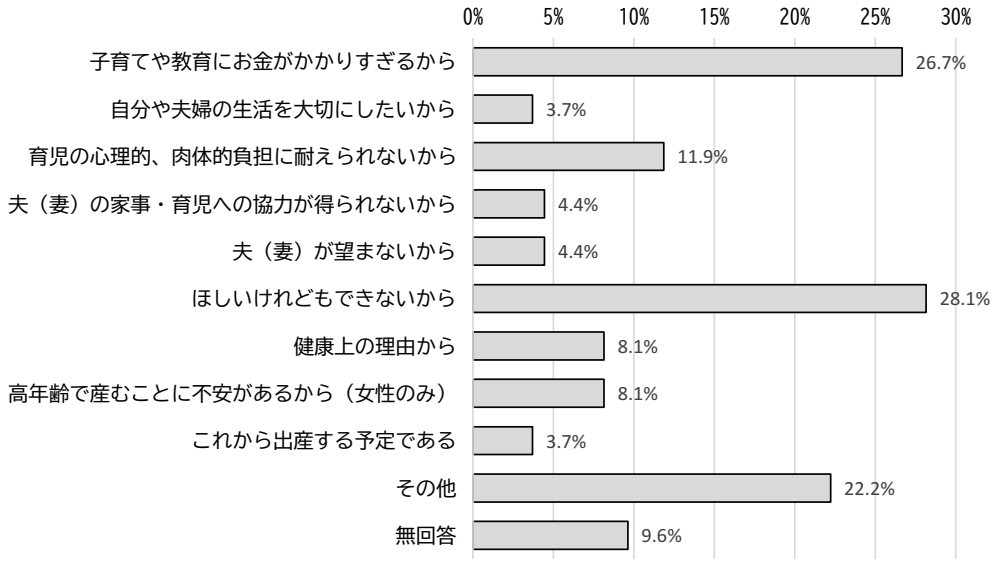
一方、実際の子どもの人数では「2 人」（41.7%）が最も高く、希望よりも 0.5%低い。「0 人」については、希望の人数（3.2%）に対し、実際の人数（12.6%）が 9.4 ポイント高い。

また、希望と実際の子どもの人数をみると、0 人～1 人までは、実際の人数が希望の人数を上回り、2 人以上になると、実際の人数が希望の人数を下回る傾向にある。

さらに、10 代・20 代から 40 代までの結婚している男女 75 人のデータを見ると、希望の人数よりも実際の人数が少ない人は 26 人（34.7%）、希望の人数と実際の人数が同じ人は 34 人（45.3%）となっている。

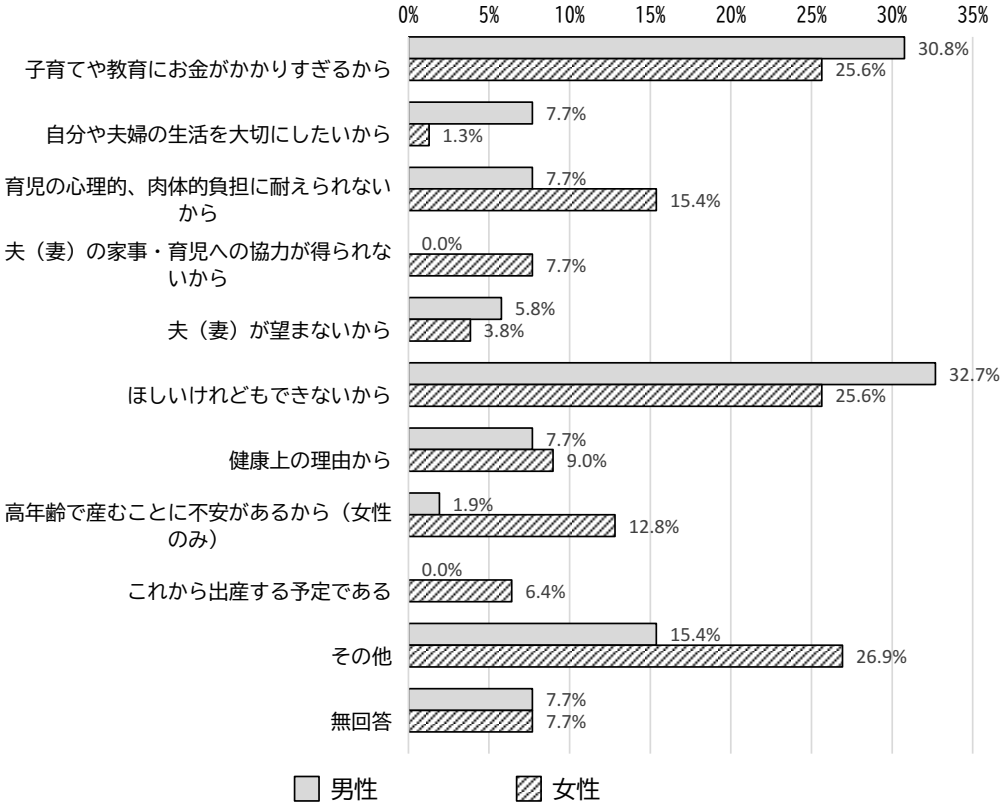
問７－２　（問７－１で「希望する（希望していた）子どもの人数」より「実際」の方が少ない方）「実際の子どもの人数」の方が少ない理由として、どのようなことが考えられると思いますか。【３つまで】

【希望する子どもの人数より実際の子どもの人数が少ない理由】



希望する子どもの人数より実際の子どもの人数の方が少ない理由は、「ほしいけれどもできないから」（28.1%）が最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（26.7%）となっている。

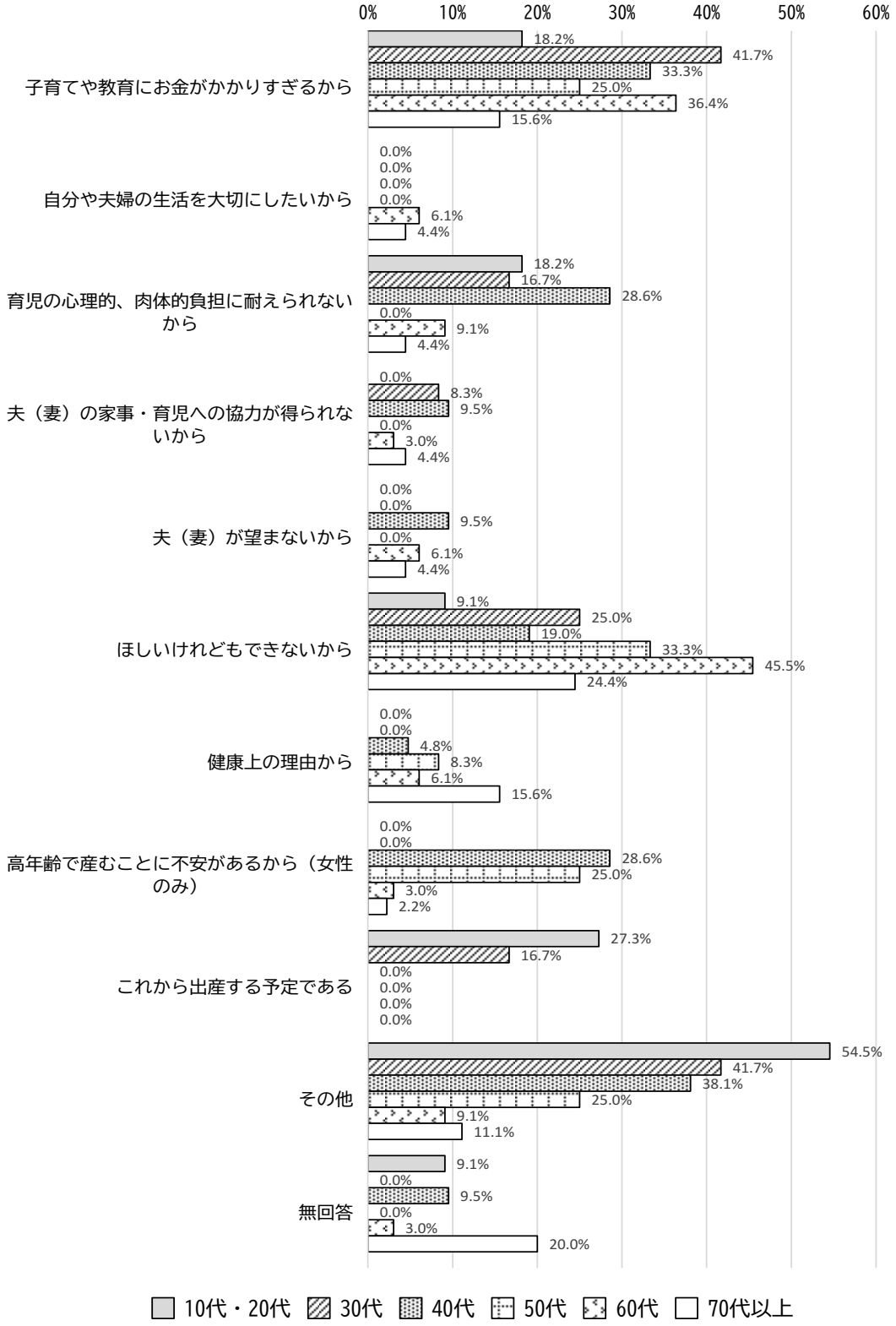
【男女別】



男女ともに、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「ほしいけれどもできないから」との回答が多いが、「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」、「夫（妻）の家事・育児への協力が得られないから」の回答では、男女の差異が顕著にみられた。

女性は、育児や家事に対する負担を感じる回答が多く、子育て支援策を考える上で、経済的支援だけでなく、男性も育児や家事に積極的に参画するよう働きかけを行うとともに、幼少期から男女の役割を固定化させない男女共同の視点での家庭教育の必要もあると考える。

【年代別】

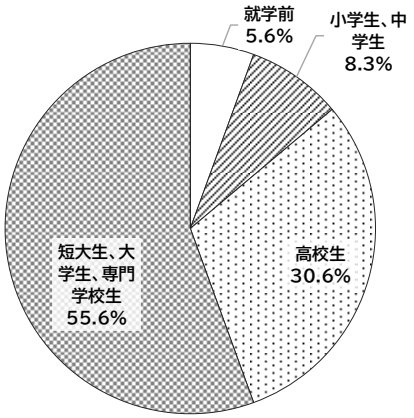


年代別にみると、子育て世代の 30 代及び 40 代では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。その他の答えとしては、「まだ独身だから」という答えが多かった。

10 代・20 代から 40 代までの結婚している男女については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」が多かった。

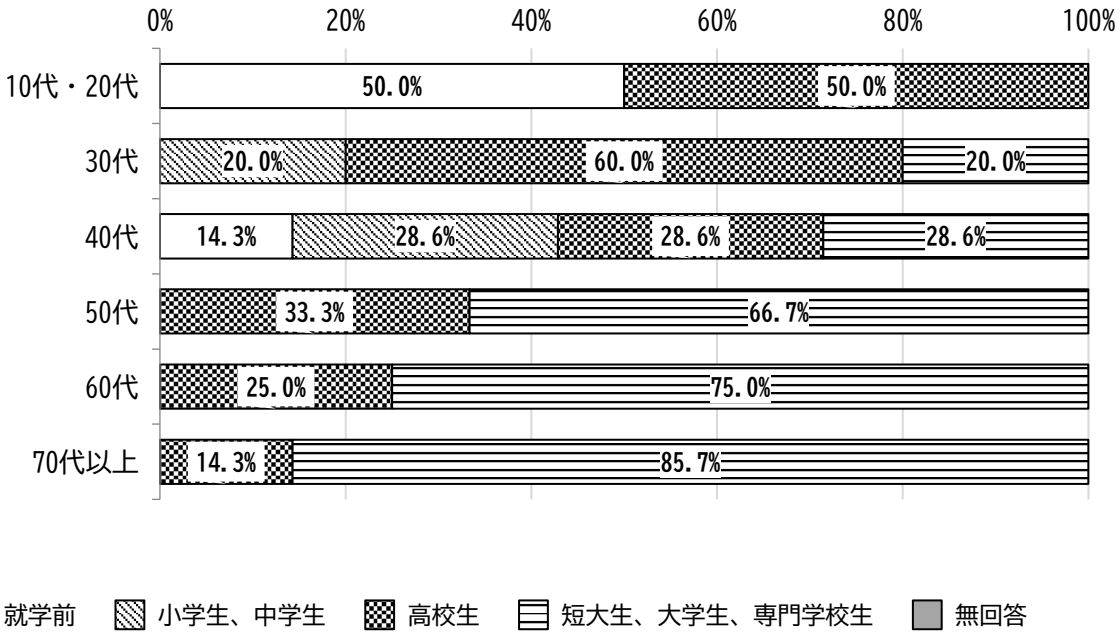
問７－３　（問７－２で「１．子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した方）
最も経済的負担に感じる年代はどれですか。【主なもの１つ】

【最も経済的負担に感じる年代】



最も経済的負担に感じる子育ての年代は、「短大生、大学生、専門学校生」（55.6%）が最も高く、次いで「高校生」（30.6%）となっており、児童手当の支給対象から外れた年代の割合が高くなっている。

【年代別】



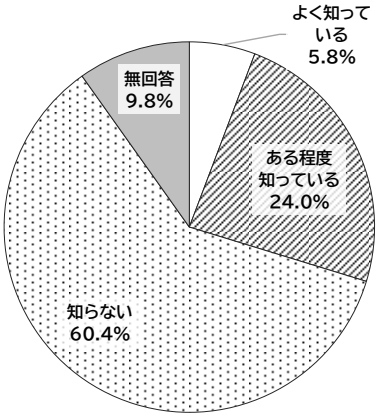
年代別にみると、50 代以上は「短大生、大学生、専門学校生」と答える方の割合が突出して高く、その割合は年代が上がるにつれ、顕著になる傾向がある。

一方、40 代以下の若年層は、他の年代と比較して、「高校生」と答える方の割合が高く、中学生以下の子どもがいる世帯だけでなく、高校生以上の子どもがいる世帯にも経済的支援の強化を検討する必要がある。

（３）子育てについて

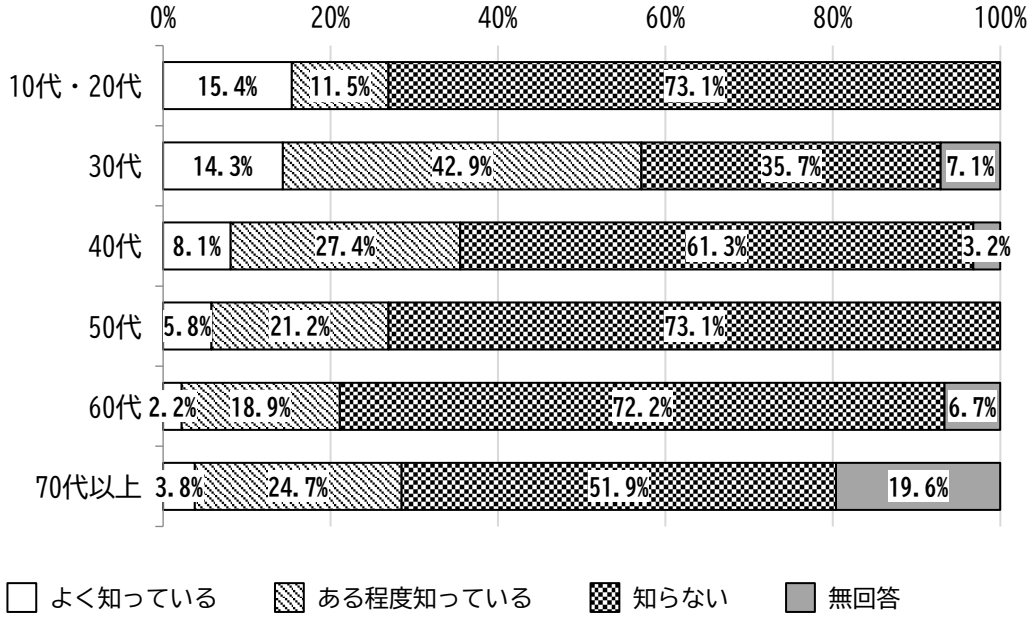
問８　あなたは、荒尾市の「子育て世代包括支援センター（すこやか未来課保健センター）」が妊娠期から子育て期の支援を行っていることを知っていますか。

【子育て世代包括支援センターの認知度】



子育て世代包括支援センターを「知らない」(60.4%）と回答した割合が６割を超えており、前回（64.4%）と前回とほぼ同様の傾向であった。

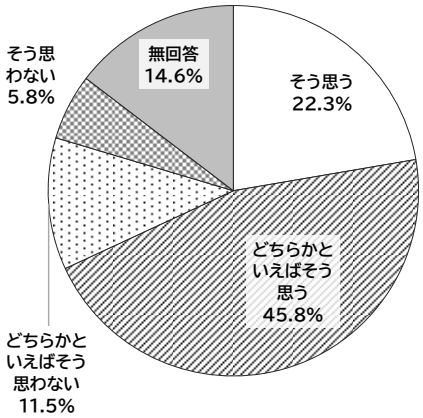
【年代別】



年代別にみると、30 代以外のすべての世代において、「知らない」と回答する方の割合が過半数を占めているが、30 代は「よく知っている」、「ある程度知っている」を合わせた『知っている』層（57.2%）が６割近くとなっており、就学前の子どもを多く抱えていると思われる世代には、認知されつつあることがうかがえる。

問９－１　あなたは、荒尾市で子育てをしたいと思いますか。

【荒尾市での子育て意向】

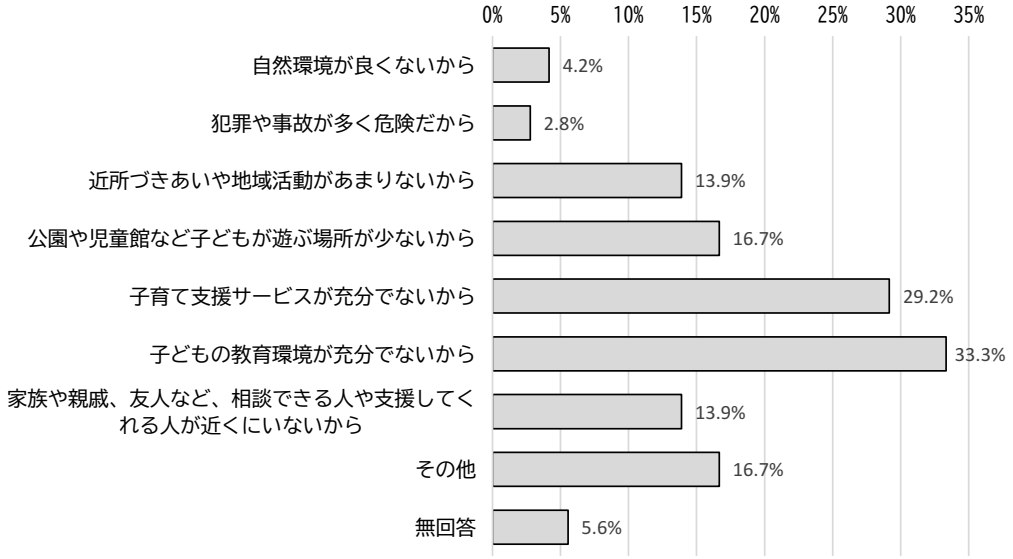


荒尾市で子育てをしたいかどうかを尋ねたところ、「どちらかといえばそう思う」(45.8%)が最も高く、次いで「そう思う」（22.3%）と7 割近い方が荒尾市での子育ての意向があることが分かる。

一方、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた『したいと思わない』層（17.3%）は前回（13.4%）より微増傾向となっている。

問９－２　（問９-1 で「３. どちらかといえばそう思わない」「４. そう思わない」と回答した方）その理由はなぜですか。【２つまで】

【荒尾市での子育てをしたいと思わない理由】



荒尾市で子育てをしたいと思わない理由をみると、「子どもの教育環境が充分でないから」（33.3%）が最も高く、次いで「子育て支援サービスが充分でないから」（29.2%）が主な理由として挙げられており、「子育て支援サービスが充分でないから」については、前回（16.3%）から 12.9 ポイント増加している。

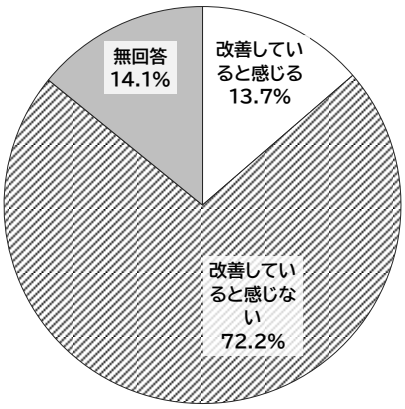
幼児期から青年期における遊び場所の提供のほか、学力向上等の取組みなど、教育環境の改善及び子育て支援サービスの拡充が必須であると思われる。

４．生活全般について

（１）給与・労働環境

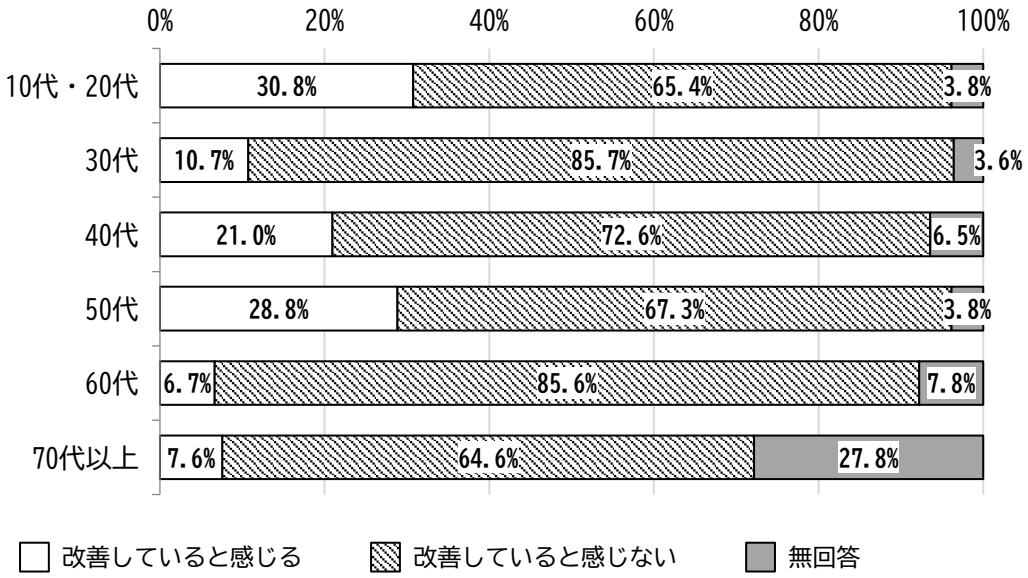
問１０　あなたや、あなたの家族（荒尾市に居住の方のみ）の給与について、前年と比べて、改善していると感じますか。

【給与の改善状況】



給与の改善状況をみると、「改善していると感じない」（72.2%）が７割を超えており、前回（65.6%）よりも多くの市民が給与の改善を実感できていないことが分かる。

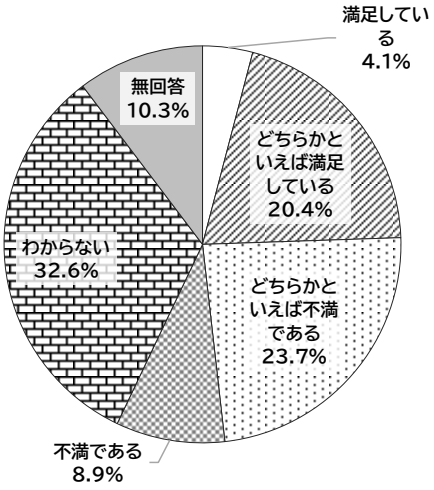
【年代別】



年代別にみると、現役世代では、30 代が「改善していると感じない」（85.7%）の割合が大きくなっている。

問１１－１　あなたは、荒尾市における労働環境について、どのように思いますか。

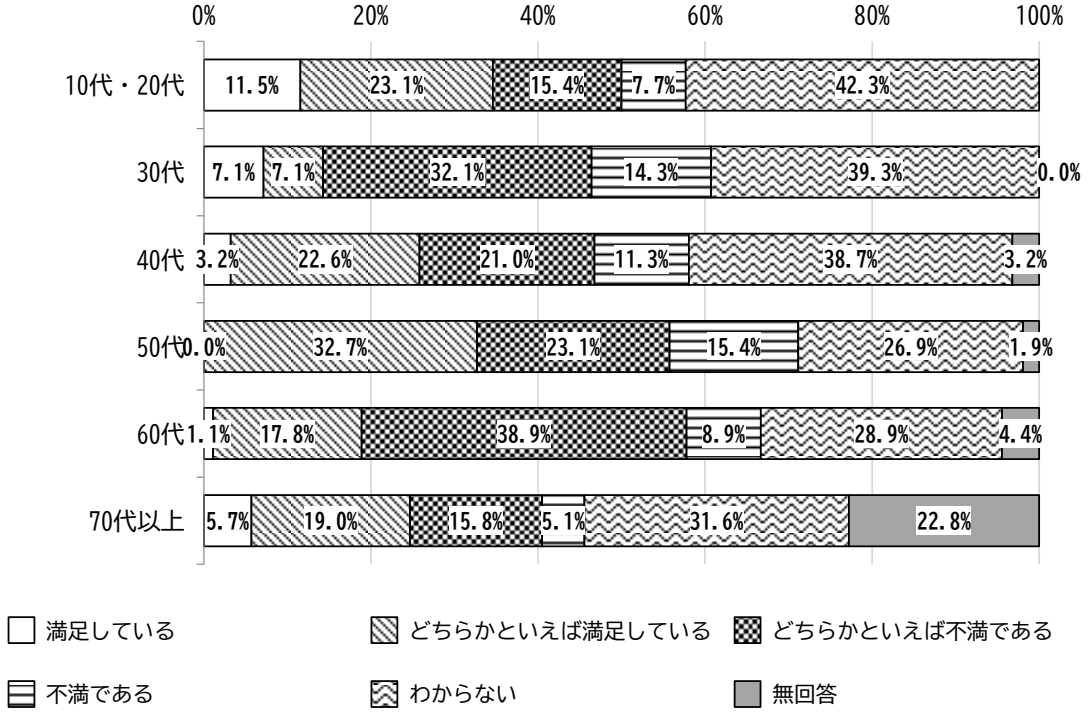
【荒尾市の労働環境の満足度】



荒尾市の労働環境の満足度は、「どちらかといえば満足している」、「満足している」を合わせた『満足』層が 24.5%に対し、「どちらかといえば不満である」、「不満である」を合わせた『不満』層は 32.6%となっており、『不満』層が 8.1 ポイント高かった。

一方、「わからない」と答えた方は 32.6%となっており、選択肢中では最も高くなっている。

【年代別】

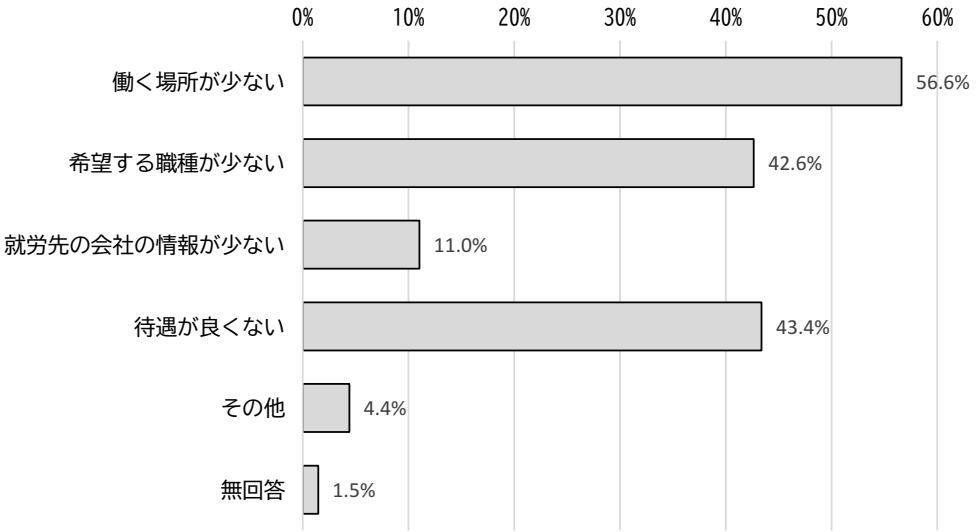


『満足』層と『不満』層の割合を年代別にみると、10 代・20 代及び 70 代以上では『満足』層の割合が高くなっているが、30 代～60 代では『不満』層の割合が高く、特に 30 代と 60 代では 4 割を超えて高くなっている。

問１１－２

（問１１-１で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）
その理由はなぜですか。【いくつでも】

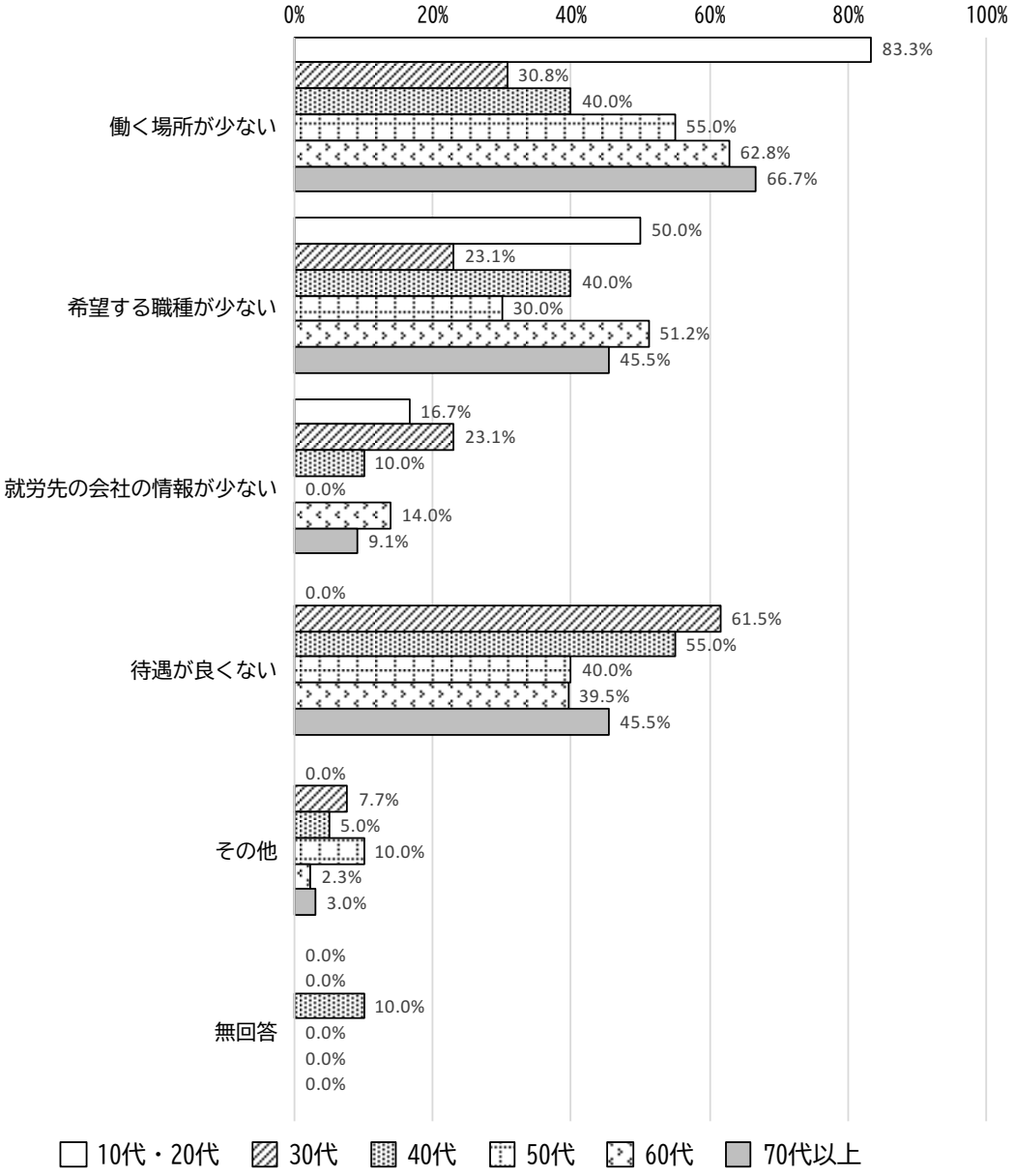
【荒尾市の労働環境に不満な理由】



荒尾市の労働環境に不満な理由は、「働く場所が少ない」（56.6%）が最も高く、次いで「待遇が良くない」（43.4%）、「希望する職種が少ない」（42.6%）となっている。

若年層の人口流出に歯止めをかけるために、引き続き働く場所を確保していくとともに、待遇改善に向けた取組が必要がある。

【年代別】



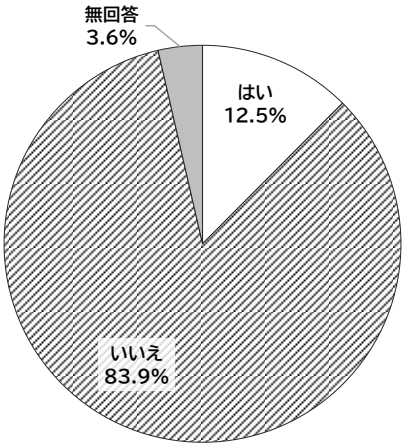
年代別にみると、20 代までと 50 代以降では「働く場所が少ない」が最も高く、特に 10 代・20 代では８割を超えて高くなっている。

また、子育て世代である 30 代及び 40 代では「待遇が良くない」の割合が最も高くなっていることから、雇用の創出及び雇用形態、給与の改善や福利厚生等の充実が求められている。

（２）公共交通の利用状況・満足度

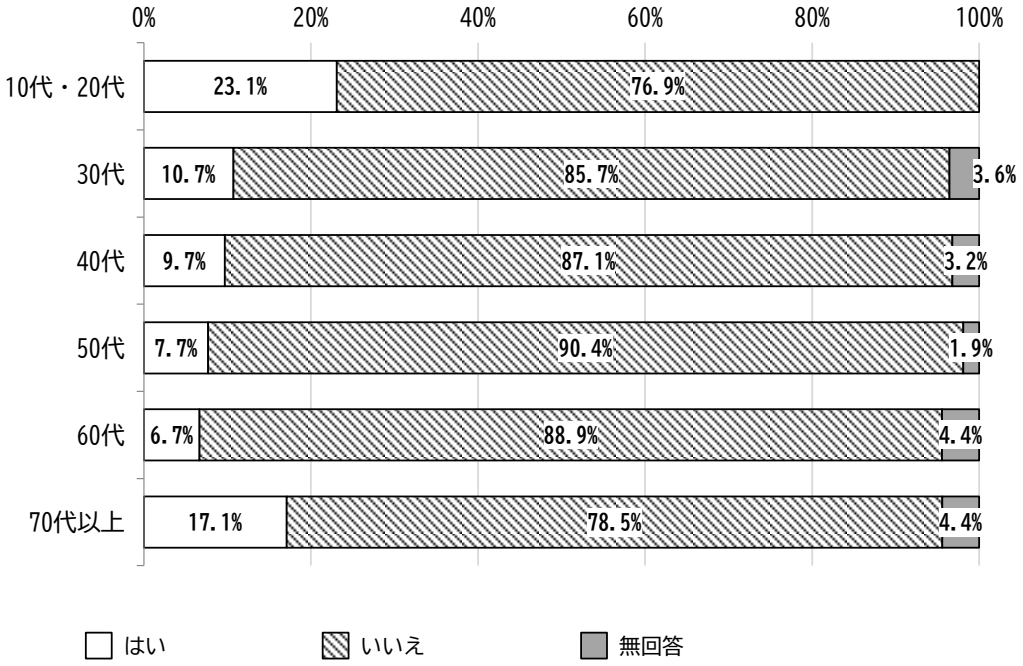
問１２　あなたは、この１年間で路線バス、乗合タクシー、おもやいタクシーのいずれかを利用しましたか。

【公共交通利用の有無】



直近 1 年間で公共交通を利用した方は 12.5%となっており、前回（10.2%）より微増傾向にある。

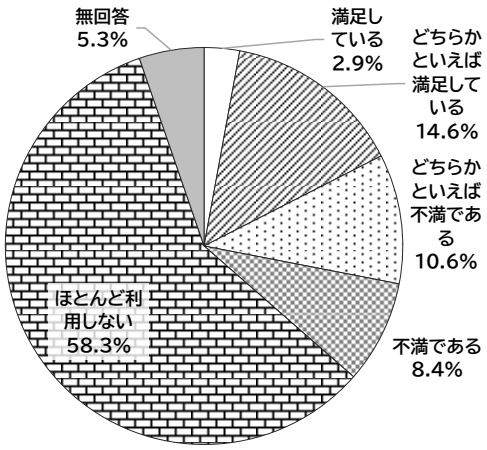
【年代別】



利用した方の割合を年代別にみると、10 代・20 代及び 70 代以上では利用者が他の年代より高くなっており、学生や高齢者の利用が多いことが分かる。他の年代は 10%以下となっており、年代が高くなるにつれ低くなっている。

問１３　荒尾市の公共交通（電車、路線バス、乗合タクシー、おもやいタクシーなど）の利便性について、どのように思いますか。

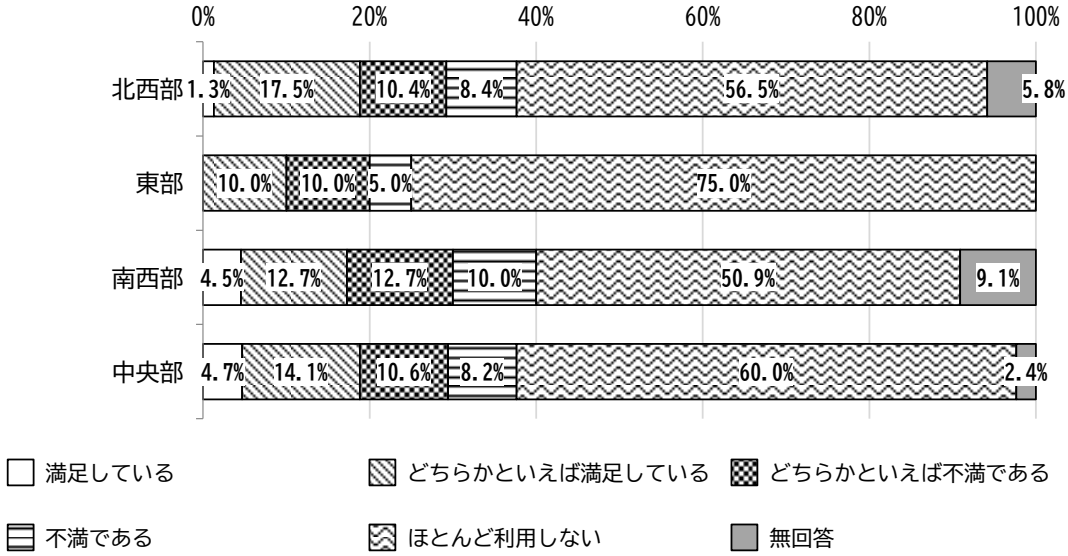
【公共交通に関する満足度】



荒尾市の公共交通の満足度は、「ほとんど利用しない」が 58.3%（前回 63.6%）と前回より 5.3 ポイント低いが、依然 6 割弱を占め最も高くなっている。

また、「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』層は 17.5%、「どちらかといえば不満である」、「不満である」を合わせた『不満足』層は 19.0% となっており、前回（『満足』層：16.7%、『不満足』層：15.1%）より不満層が高い。

【居住地区別】



【居住地区】

北西部	荒尾・万田・万田中央・井手川	東　部	平井・府本
南西部	八幡・有明・清里・桜山	中央部	緑ケ丘・中央

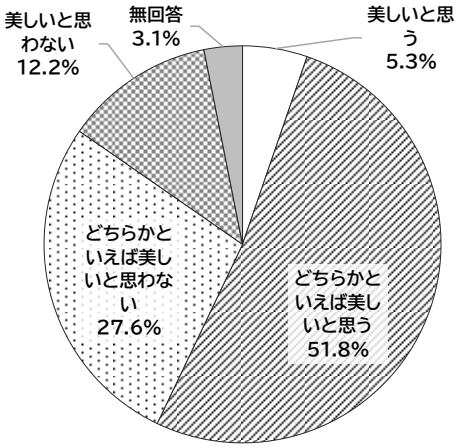
居住地区別でみると、どの地区も「ほとんど利用しない」が５割以上を占めており、東部においては乗合タクシーを導入しているものの、ほとんど利用していない方が 75.0%と他の地区よりも高い。

また、南西部では『不満足』層の割合が高く、利便性向上に向けた取組が必要である。

（３）街並みの評価

問１４　荒尾市の街並み（道路の植栽などの景観）について、どのように思いますか。

【街並みの評価】



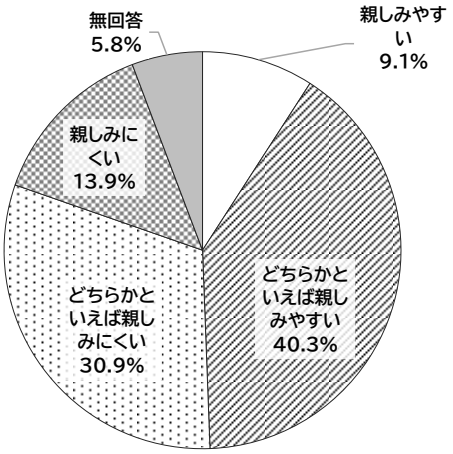
荒尾市の街並みの評価は、「どちらかといえば美しいと思う」（51.8%）が最も高く、次いで「どちらかといえば美しいと思わない」（27.6%）となっている。

また、「美しいと思う」、「どちらかといえば美しいと思う」を合わせた割合は、前回同様過半数を占めている。

（４）「荒尾干潟」の親しみやすさ

問１５　荒尾市の地域資源である、ラムサール条約湿地の「荒尾干潟」について、親しみやすいと感じますか。

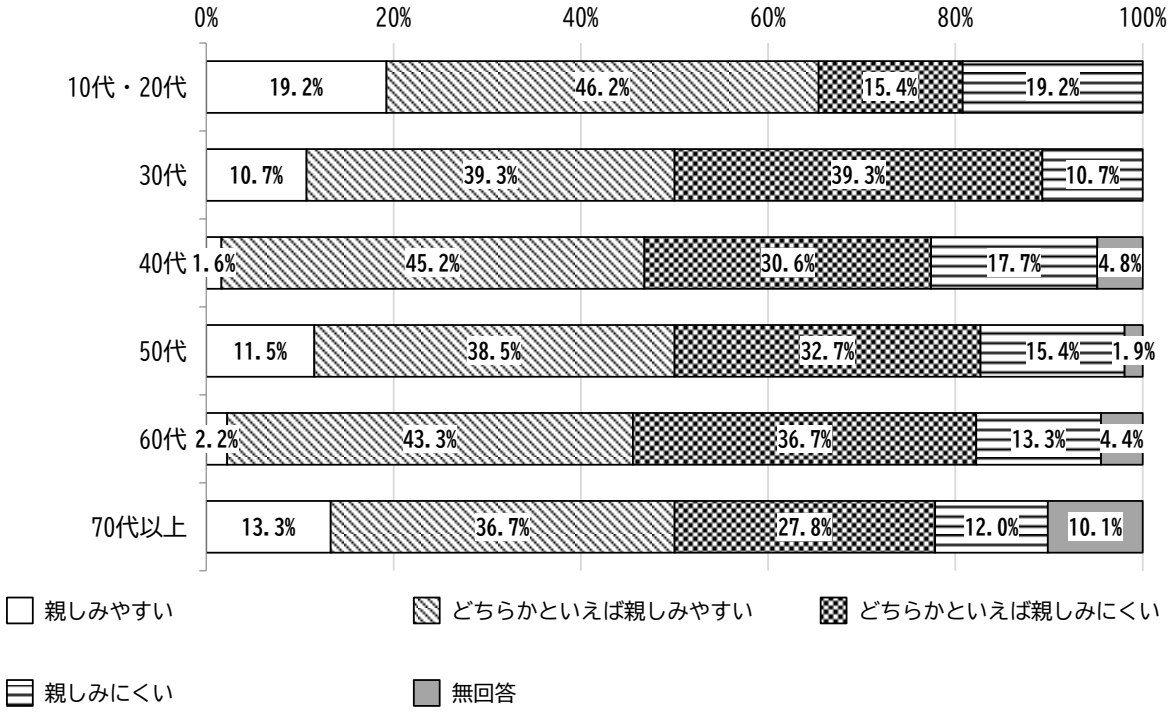
【荒尾干潟の親しみやすさ】



荒尾市の地域資源である「荒尾干潟」の親しみやすさは、「どちらかといえば親しみやすい」（40.3%）が最も高く、次いで「どちらかといえば親しみにくい」（30.9%）となっている。

「どちらかといえば親しみにくい」、「親しみにくい」を合わせた『親しみにくい』層は44.8%と前回（42.6%）より高くなっており、引き続き地域資源としての誇りの醸成に繋げる施策を行う必要がある。

【年代別】

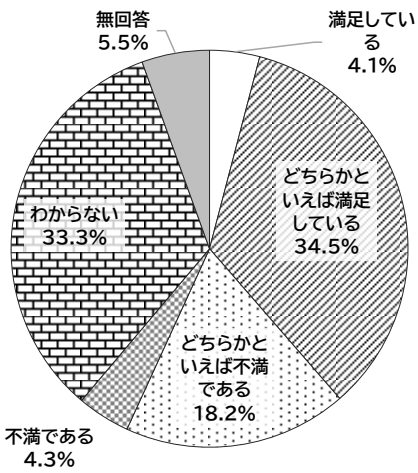


年代別にみると、40 代と 60 代以外は、『親しみやすい』層の割合が過半数を超えているが、40 代と 60 代は「『親しみにくい』層が過半数を超えており、世代間に差が生じている。

（５）文化・教養に関する満足度

問１６－１　荒尾市の文化・教養に関する環境について、どのように思いますか。

【文化・教養に関する環境の満足度】

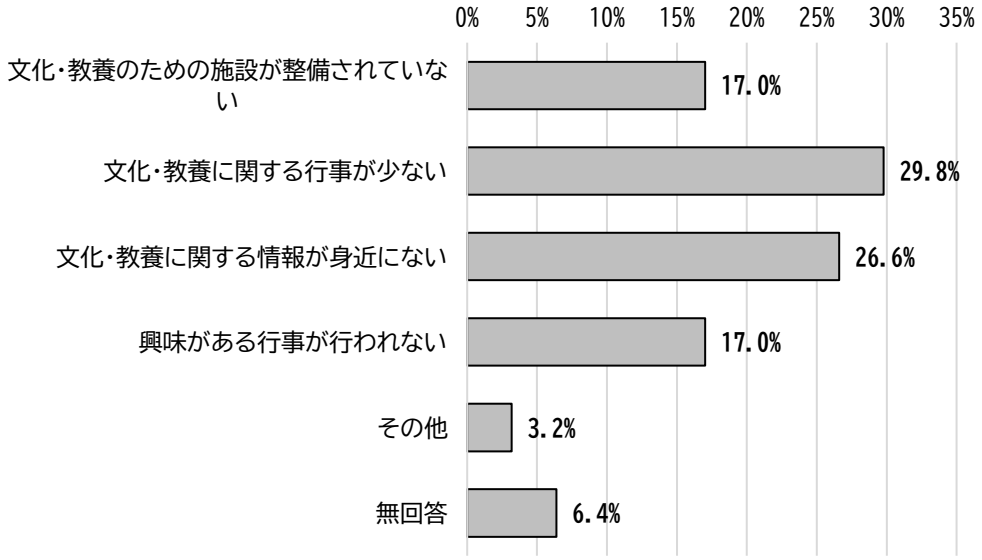


荒尾市の文化・教養に関する満足度は、「どちらかといえば満足している」（34.5%）が最も高く、次いで「わからない」（33.3%）となっている。

また、「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』層は 38.6%と前回（34.9%）より高くなっている。

問１６－２　（問16-1で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【文化・教養に関する環境に不満な理由】



荒尾市の文化・教養に関する環境に不満な理由は、「文化・教養に関する行事が少ない」（29.8%）が最も高く、次いで「文化・教養に関する情報が身近にない」（26.6%）、「文化・教養のための施設が整備されていない」「興味がある行事が行われない」（ともに 17.0%）となっている。

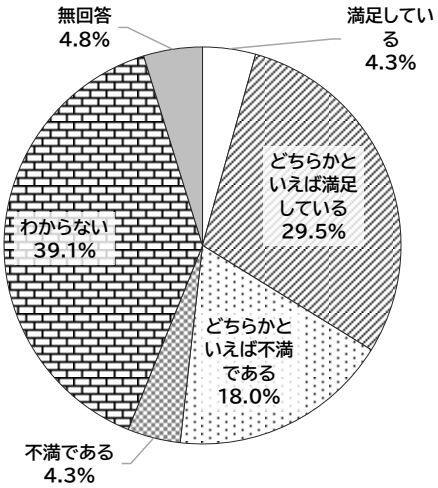
図書館の移転による施設面での改善を行ったことに伴い、前回最も高かった「文化・教養のための施設が整備されていない」の割合が 14.7 ポイント低くなっていることから、市民の満足度が向上したものと思われる。

一方で、「文化・教養に関する行事が少ない」と答えた人が 11.5 ポイント高くなったため、今後はニーズを捉えた魅力ある行事を行うとともに、情報発信についても強化する必要がある。

（６）スポーツに関する環境の満足度

問１７－１　荒尾市のスポーツに関する環境について、どのように思いますか。

【スポーツに関する環境の満足度】

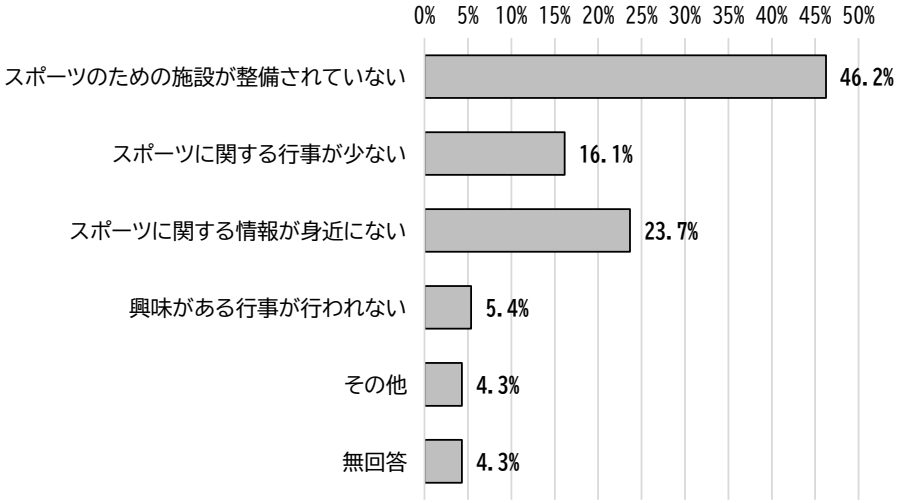


荒尾市のスポーツに関する環境の満足度は、「わからない」（39.1%）が最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」（29.5%）となっている。

また、「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』層は 33.8%となっている。

問１７－２　（問１７-1 で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【スポーツに関する環境に不満な理由】



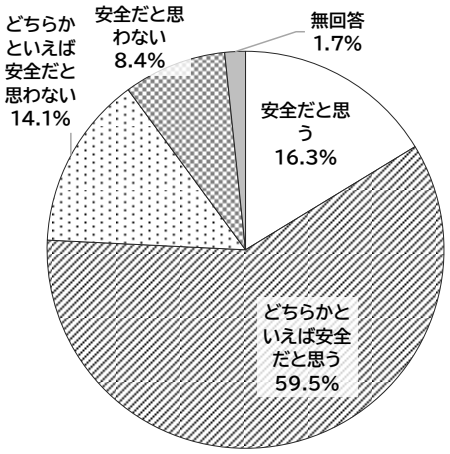
荒尾市のスポーツに関する環境に不満な理由は、「スポーツのための施設が整備されていない」（46.2%)が最も高く、次いで「スポーツに関する情報が身近にない」（23.7%）と前回同様の結果となっている。

文化・教養に関する環境と同様、魅力ある行事の実施と情報発信を併せて行いながら、施設整備についても検討する必要がある。

（７）防犯や防災に関する地域の安全性

問１８　防犯や防災の観点から、あなたのお住まいの地域は安全だと思いますか。

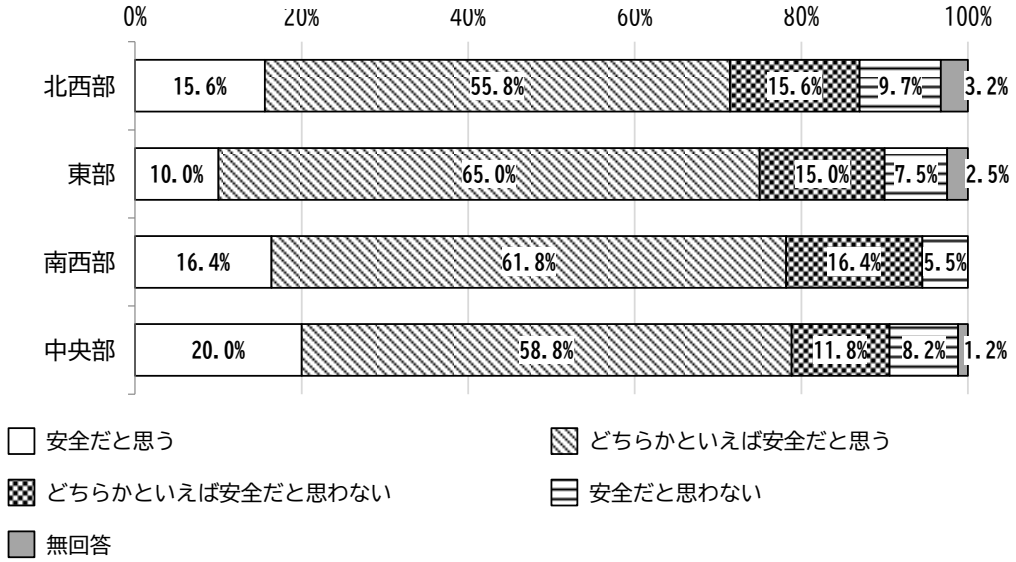
【防犯や防災に関する地域の安全性】



自身が住んでいる地域の安全性は、「どちらかといえば安全だと思う」(59.5%) が最も高く、次いで「安全だと思う」(16.3%) となっている。

「安全だと思う」、「どちらかといえば安全だと思う」を合わせた『安全だと思う』層は75.8%となっており、令和２年７月豪雨以降においても、高い数値を維持している。

【居住地区別】



【居住地区】

北西部	荒尾・万田・万田中央・井手川	東　部	平井・府本
南西部	八幡・有明・清里・桜山	中央部	緑ケ丘・中央

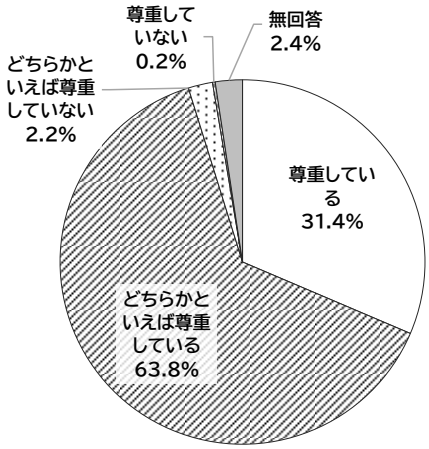
居住地区別にみると、『安全だと思う』層は、中央部で 78.8%と最も高くなっており、前回同様の結果となっている。

一方、『安全だと思わない』層は、前回は山間部である東部が最も高くなっていたが、今回は北西部（25.3%）が最も高くなっている。

（８）多様性の尊重

問１９　あなたは、普段から性別や障がいの有無などに関わらず相手を尊重して接していると思いますか。

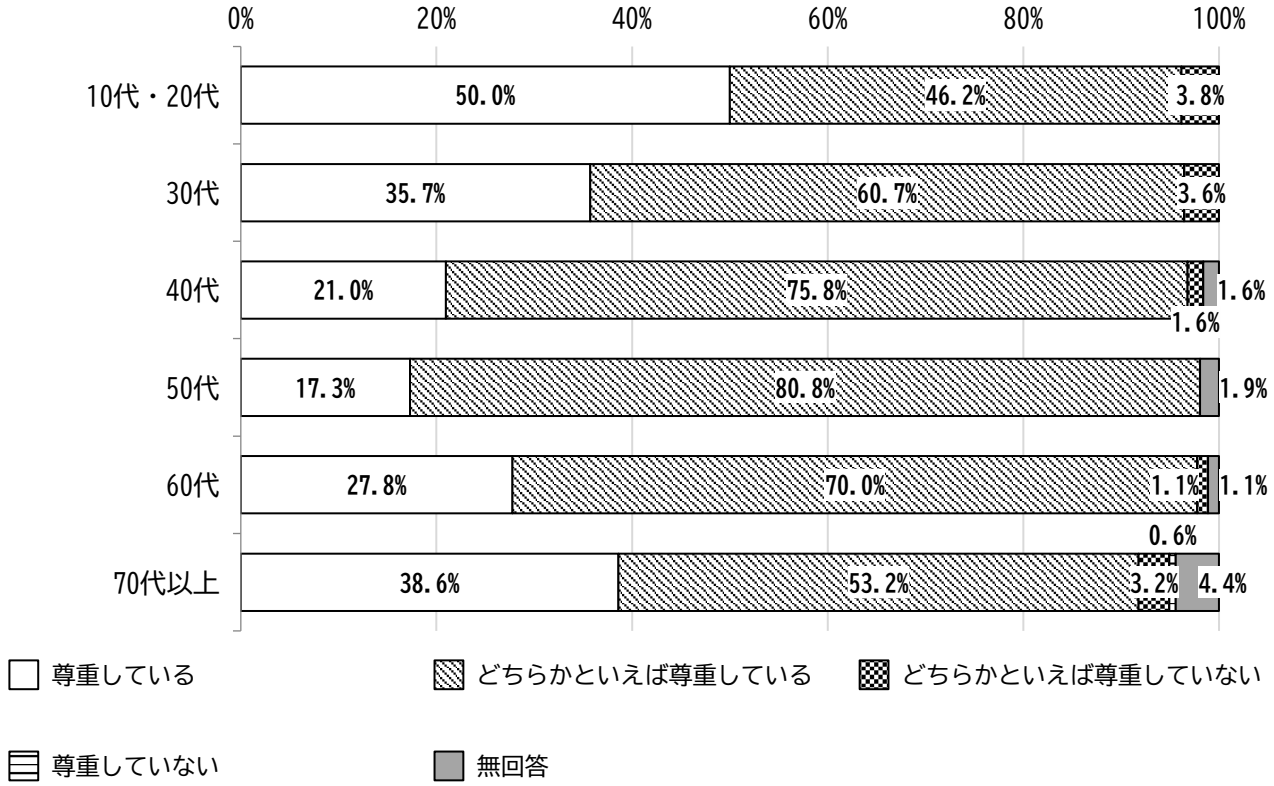
【多様性の尊重】



普段から性別や障がいの有無などに関わらず相手を尊重している市民の割合は、「どちらかといえば尊重している」（63.8%）が最も高く、次いで「尊重している」（31.4%）となっている。

「尊重している」、「どちらかといえば尊重している」を合わせた『尊重している』層は95.2%となっており、前回同様９割強の市民が多様性を尊重していることが分かる。

【年代別】

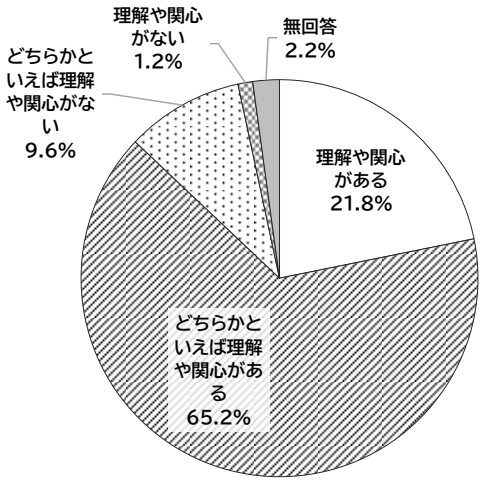


年代別でみても、どの年代も『尊重している』層が９割を超えて高くなっている。

（９）障がい者への理解や関心

問２０　あなたは、障がい者への理解や関心があると思いますか。

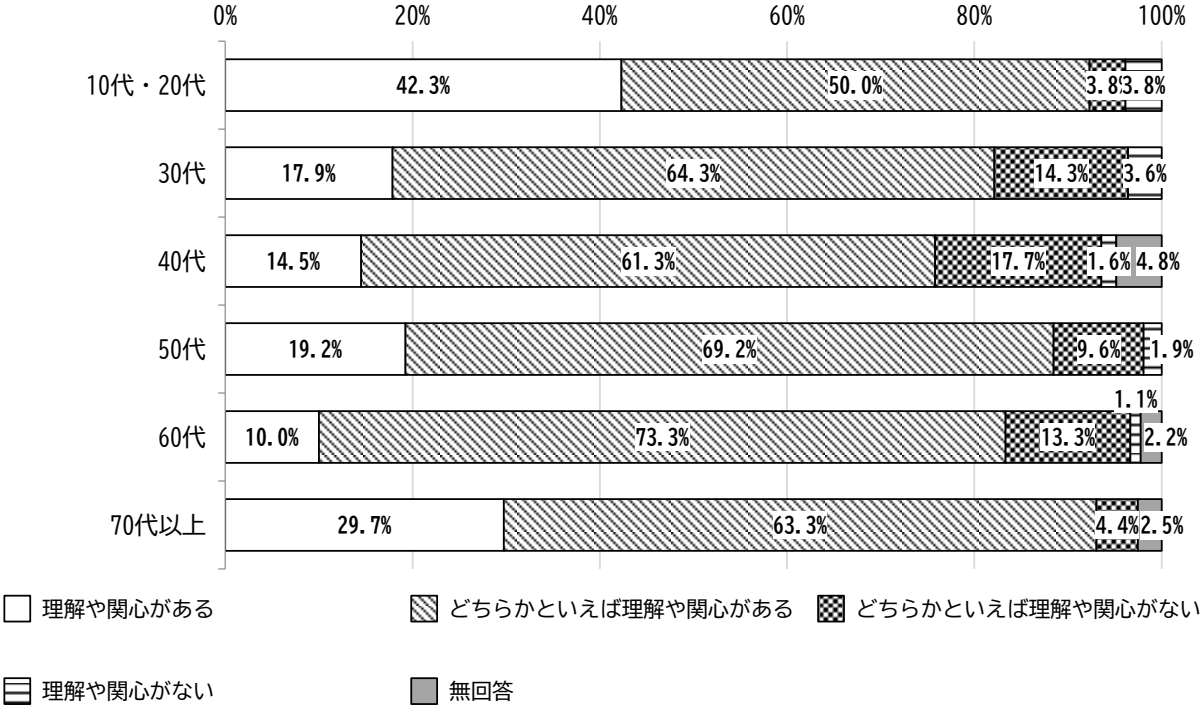
【障がい者への理解や関心】



障がい者への理解や関心がある市民の割合は、「どちらかといえば理解や関心がある」（65.2%）が最も高く、次いで「理解や関心がある」（21.8%）となっている。

「理解や関心がある」、「どちらかといえば理解や関心がある」を合わせた『関心がある』層は 87.0%となっており、8 割強の市民が障がい者への配慮があることが分かる。

【年代別】

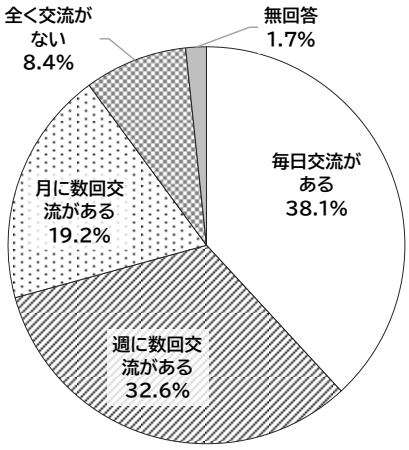


年代別にみても、すべての年代において『関心がある』層の割合が高いが、30 代、40 代では『関心がない』層が他の年代より高くなっている。

（１０）地域社会との交流

問２１　あなたは、日常生活において、家族以外の人と交流がありますか。

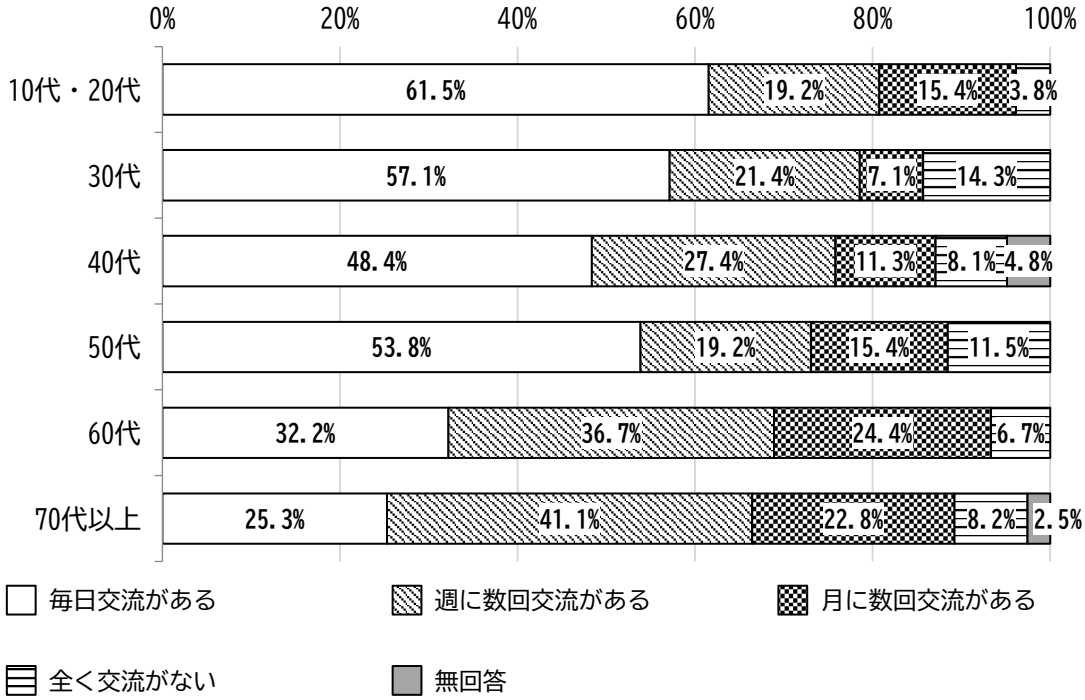
【地域社会との交流】



地域社会との交流については、「毎日交流がある」（38.1%）が最も高く、次いで「週に数回交流がある」（32.6%）となっている。

「毎日交流がある」、「週に数回交流がある」を合わせた『交流がある』層は 70.7%となっており、7 割の市民が日常的な交流があることが分かる。

【年代別】



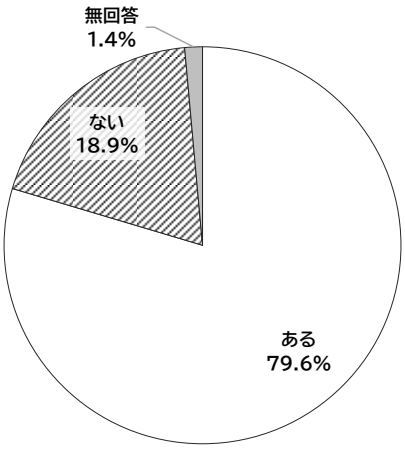
年代別にみると、年代が上がるにつれ、日常的な交流がある方の割合が下がっていく傾向にある。

一方、どの世代でも、「月に数回交流がある」「全く交流がない」と回答した人が一定数いるため、中高年層だけでなく、すべての世代において社会的な孤立を防止するための対策が必要である。その中でも、前回同様「全く交流がない」と回答した人が多かった 30 代に対しては注視する必要があると考える。

（１１）情報化について

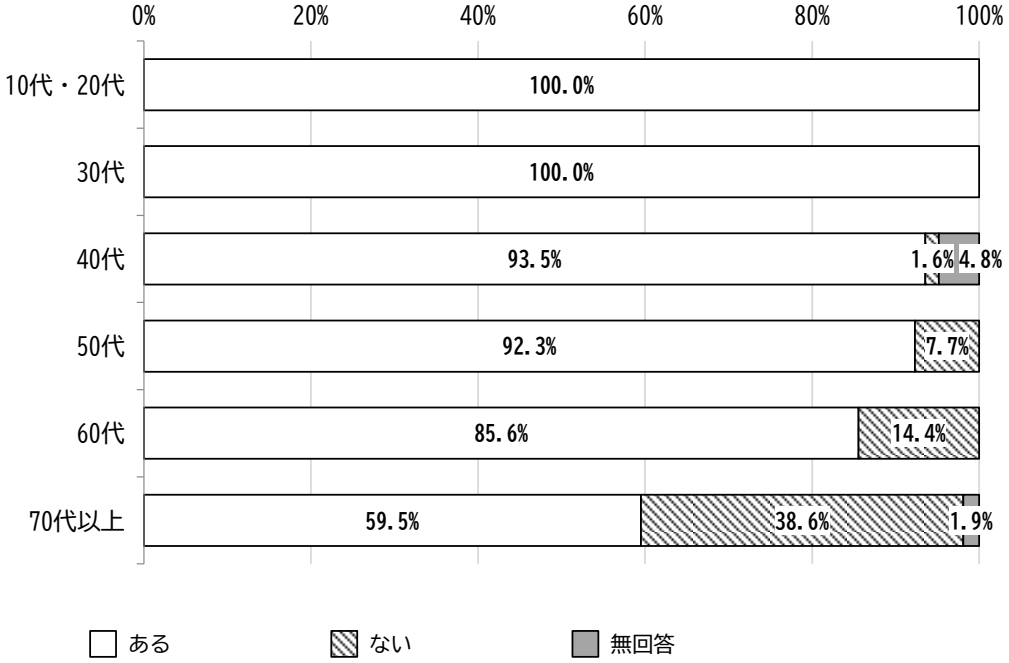
問２２－１　あなたは、普段インターネットを使える環境（パソコンやスマートフォンなど）がありますか。

【インターネットを使える環境】



インターネットを使用できる環境については、「ある」（79.6%）、「ない」（18.9%）と「ある」と回答した方が「ない」を大きく上回っており、８割近い市民がインターネットを使用できる環境にあることが分かる。

【年代別】

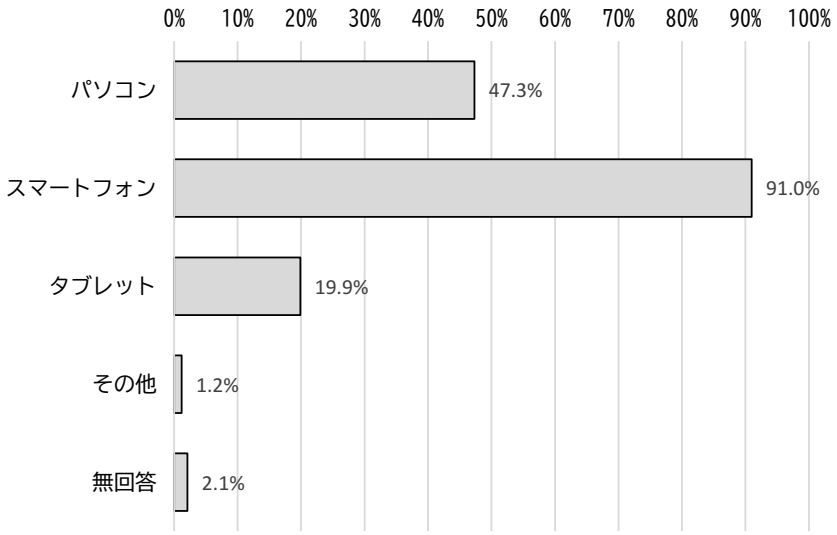


年代別にみると、60 代までは「ある」と回答した方が８割を超えており、幅広い世代でインターネットを使用できる環境が整っていることが分かる。

一方、年代が上がるにつれて、インターネットを使用できる環境がない人の割合が高くなる傾向となっており、70 代以上では「ない」（38.6%）が他の世代より突出して高いため、デジタル化を推進していく中でも高齢者への配慮が必要である。

問２２－２　（問２２-1 で「１．ある」と回答した方）
主にどのような機器を使用していますか。

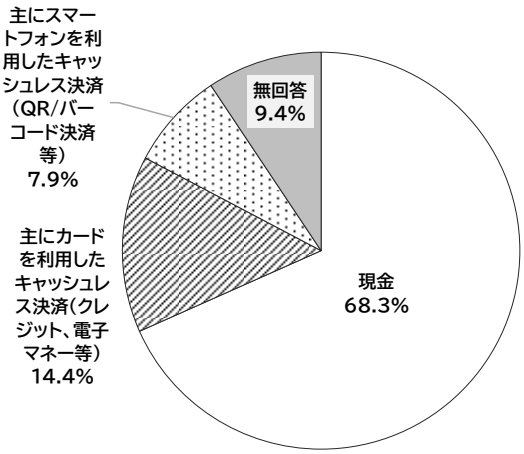
【使用している機器】



使用している機器については、「スマートフォン」（91.0%）が最も高く、次いで「パソコン」（47.3%）、「タブレット」（19.9%）となっており、インターネットを使える環境にある人の９割が「スマートフォン」を使用していることが分かる。

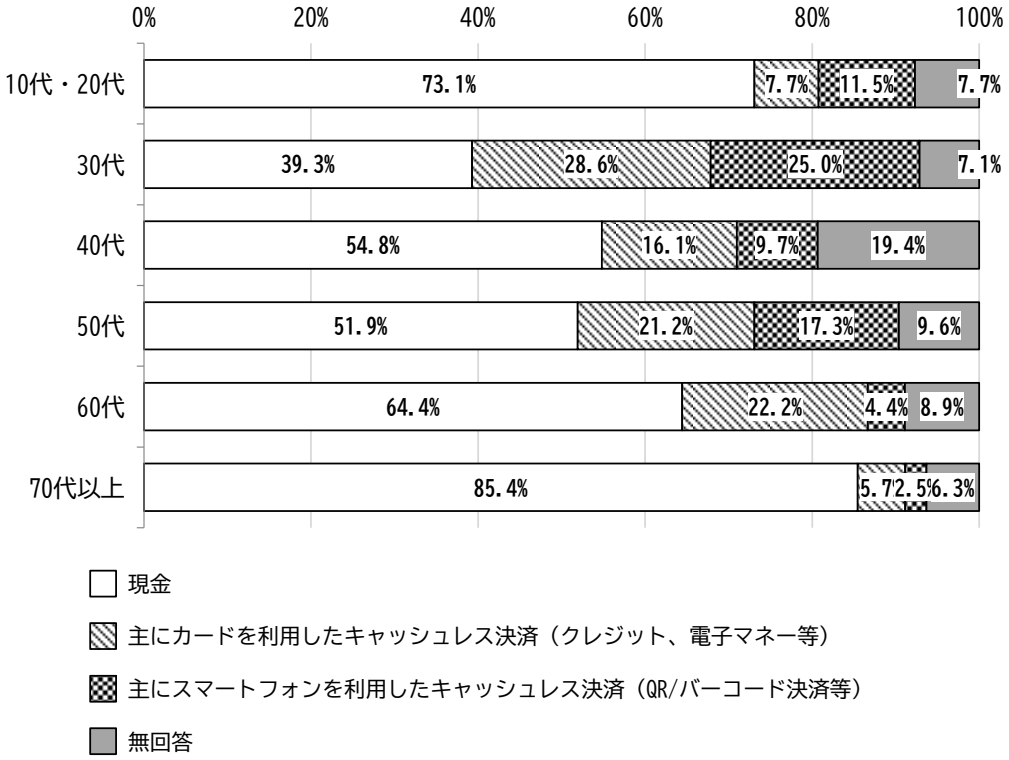
問２３　あなたが、店舗等で買い物をする際の、主な支払方法は何ですか。

【買い物をする際の支払い方法】



買い物をする際の主な支払方法については、「現金」（68.3%）が最も高く、次いで「主にカードを利用したキャッシュレス決済（クレジット、電子マネー等）」（14.4%）となっており、７割弱の市民が「現金」を使用していることが分かる。

【年代別】

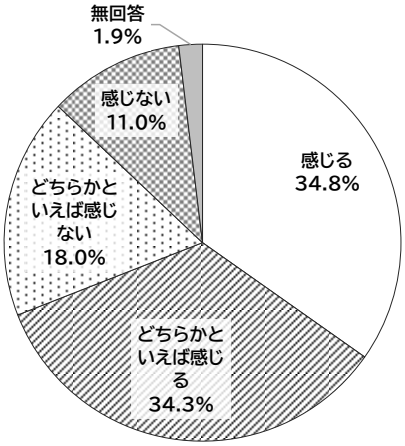


年代別にみると、30 代からは年代が上がるにつれ、「現金」を使用している割合が高く、70 代以上（85.4%）では 8 割を超えて高くなっている。

また、「現金」以外の支払方法を利用している方の割合をみると、30 代が突出しており、5 割を超えている。

問２４－１　あなたは、デジタルサービスが進んでいく中で、情報格差（インターネットやデジタル技術を使用している人との差）を感じますか。

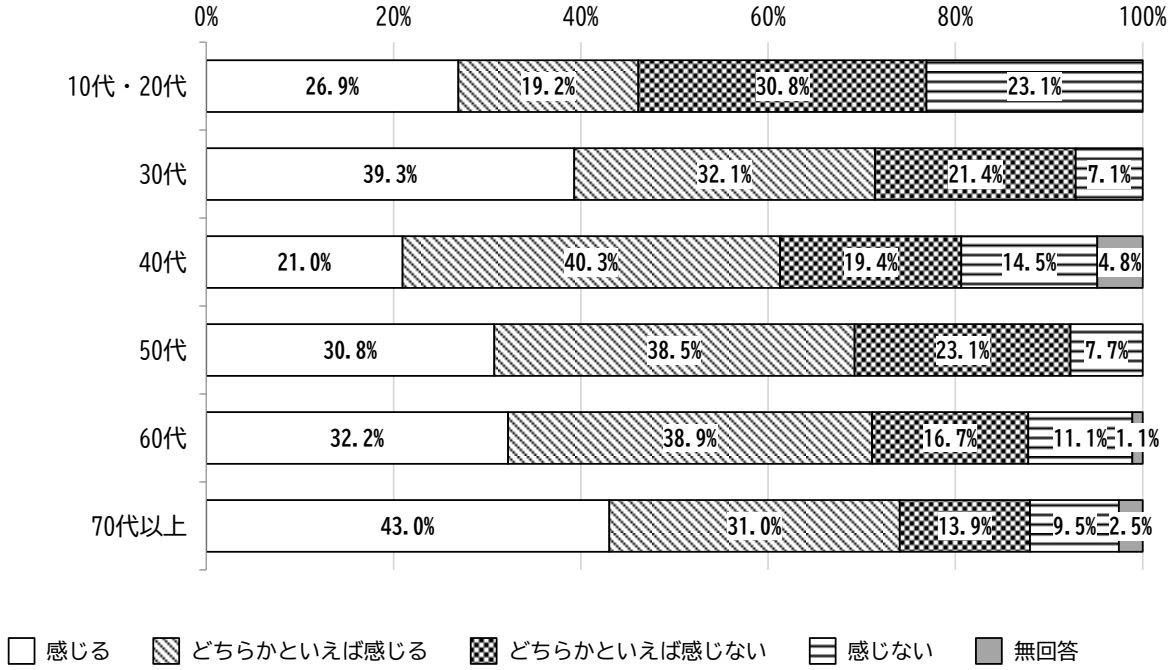
【情報格差】



情報格差を感じるかについては、「感じる」（34.8%）が最も高く、次いで「どちらかといえば感じる」（34.3%）となっている。

「感じる」、「どちらかといえば感じる」を合わせた『格差を感じる』層は 69.1%となっており、7 割近い人が情報格差を感じていることが分かる。

【年代別】

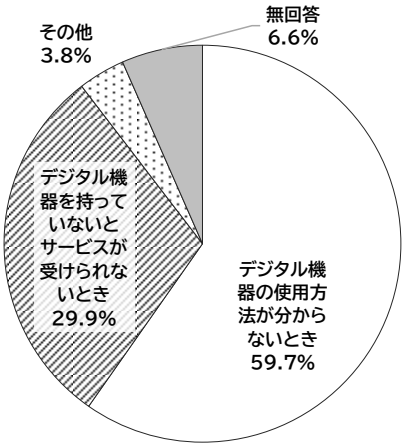


年代別にみると、10 代・20 代では『格差を感じない』層（53.9%）が高くなっているが、30 代以降では『格差を感じる』割合が 6 割を超えて高くなっている。

高齢者の孤立を防ぐ、また災害時に迅速な行動を促すためにも情報格差を埋める対策が必要である。

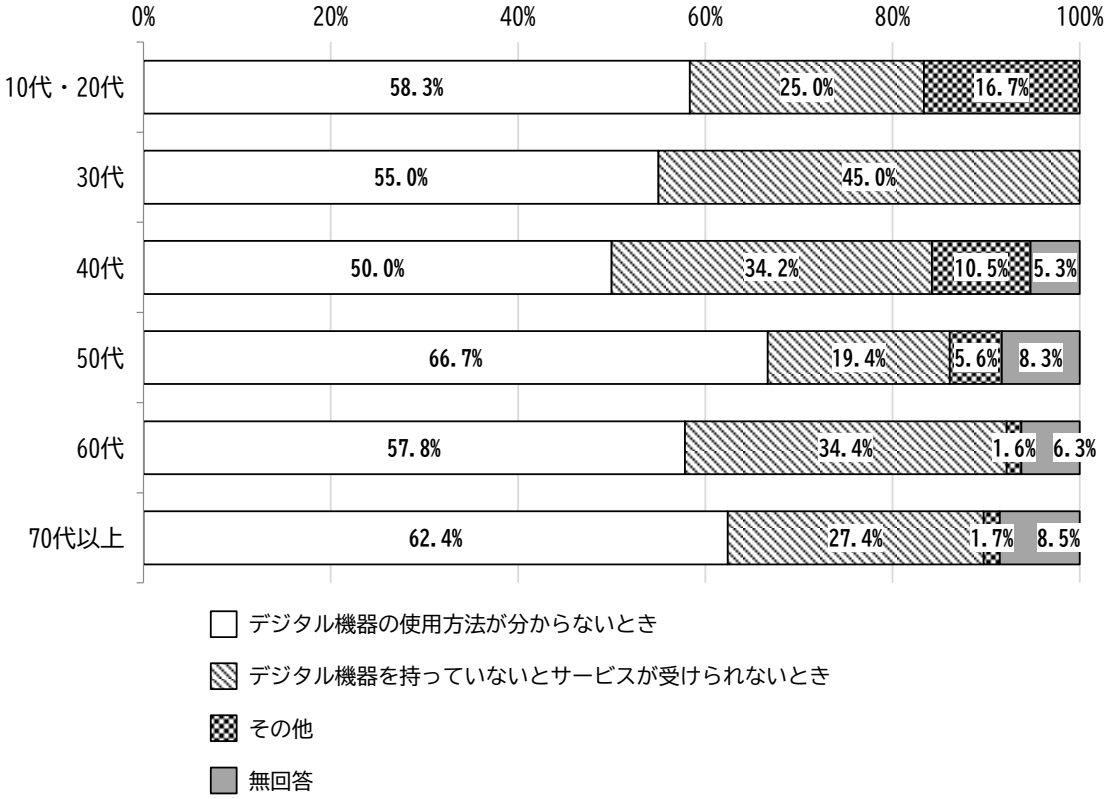
問２４－２　（問２４-1 で「１．感じる」「２．どちらかといえば感じる」と回答した方）
どのようなときに感じますか。

【情報格差を感じる時】



情報格差をいつ感じるかについては、「デジタル機器の使用方法が分からないとき」（59.7%）、「デジタル機器を持っていないとサービスが受けられないとき」（29.9%）となっており、「デジタル機器の使用方法が分からないとき」が約６割を占めている。

【年代別】



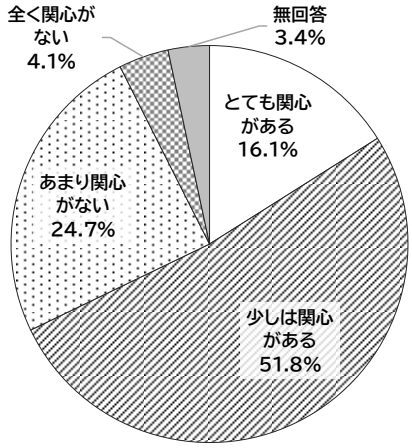
年代別にみると、どの年代も「デジタル機器の使用方法が分からないとき」が５割を超えて高くなっている。高齢者を中心に、全世代に向けたデジタル機器関連の講座や分かりやすい説明など、誰もが諦めることなく平等にサービスを受けられるような取組が必要である。

５．市民と行政との協働のまちづくりについて

（１）まちづくりに関する市民と行政の役割分担について

問２５　あなたは、市政（荒尾市が行っているまちづくり）全般について関心をお持ちですか。【主なもの１つ】

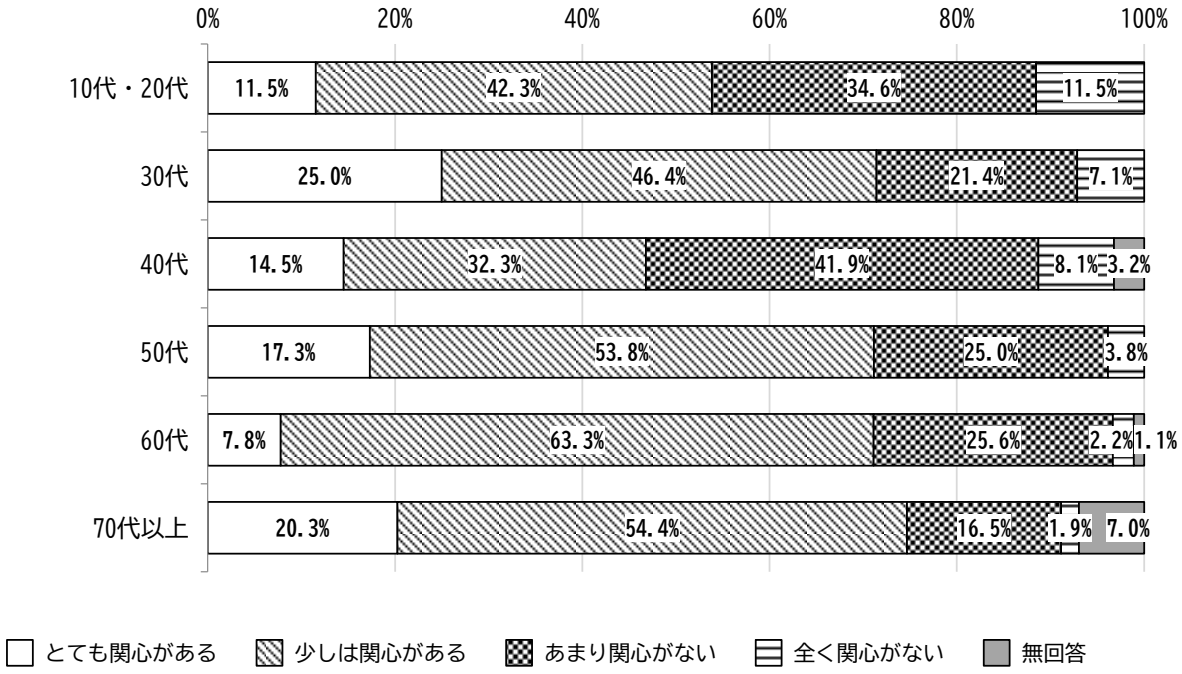
【市政への関心度】



市政への関心度をみると、「少しは関心がある」（51.8%）が最も高く、次いで「あまり関心がない」（24.7%）、「とても関心がある」（16.1%）となっている。

「とても関心がある」、「少しは関心がある」を合わせた『関心』層（67.9%）は、「あまり関心がない」、「全く関心がない」を合わせた『無関心』層（28.8%）を大きく上回っている。

【年代別】

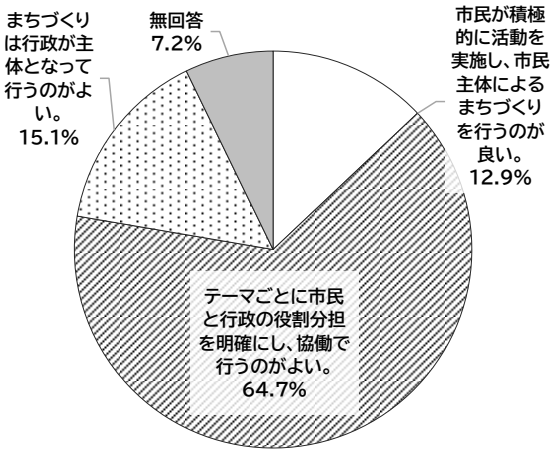


年代別にみると、子育て世代の 30 代及び 50 代以上は市政への関心度が高くなる傾向がある。

一方 40 代は『無関心』層（50.0%）が過半数を占めており、他の年代に比べて市政への関心が低いことが分かる。

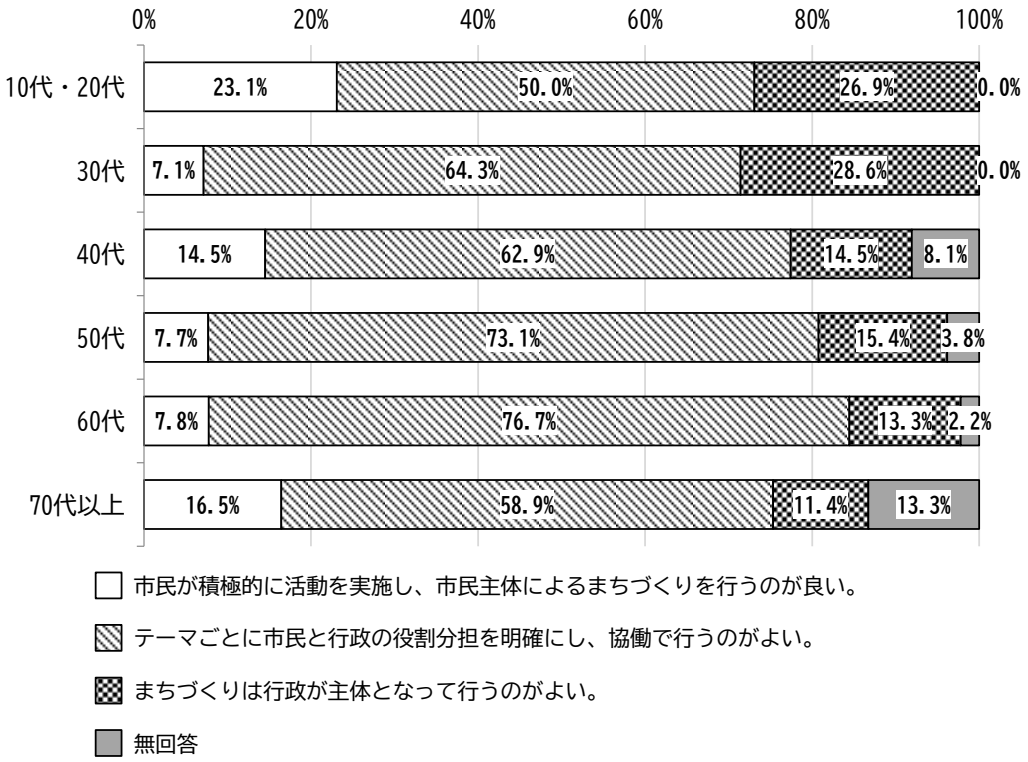
問２６　あなたは、これからのまちづくりを進める上で、市民と行政がどのように役割分担すれば良いと思いますか。【主なもの１つ】

【市民と行政の役割分担】



市民と行政の役割分担をみると、「テーマごとに市民と行政の役割分担を明確にし、協働で行うのがよい」（64.7%）が最も高く、次いで「行政主体」（15.1%）、「市民主体」（12.9%）となっている。

【年代別】



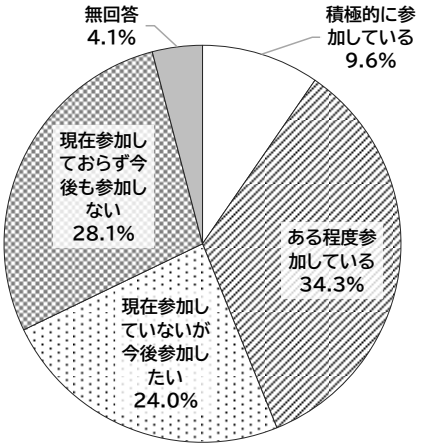
年代別にみると、すべての世代において「テーマごとに市民と行政の役割分担を明確にし、協働で行うのがよい」と回答している割合が高く、協働のまちづくりを望んでいることが分かる。

一方、10 代・20 代では行政主体のまちづくりを望んでいる人が２割以上おり、若い人たちのまちづくりへの積極性が伺える。

（２）地域活動への参加

問２７－１　あなたは、地域活動（地域の行事や清掃活動、見守り活動など）に参加していますか。【主なもの１つ】

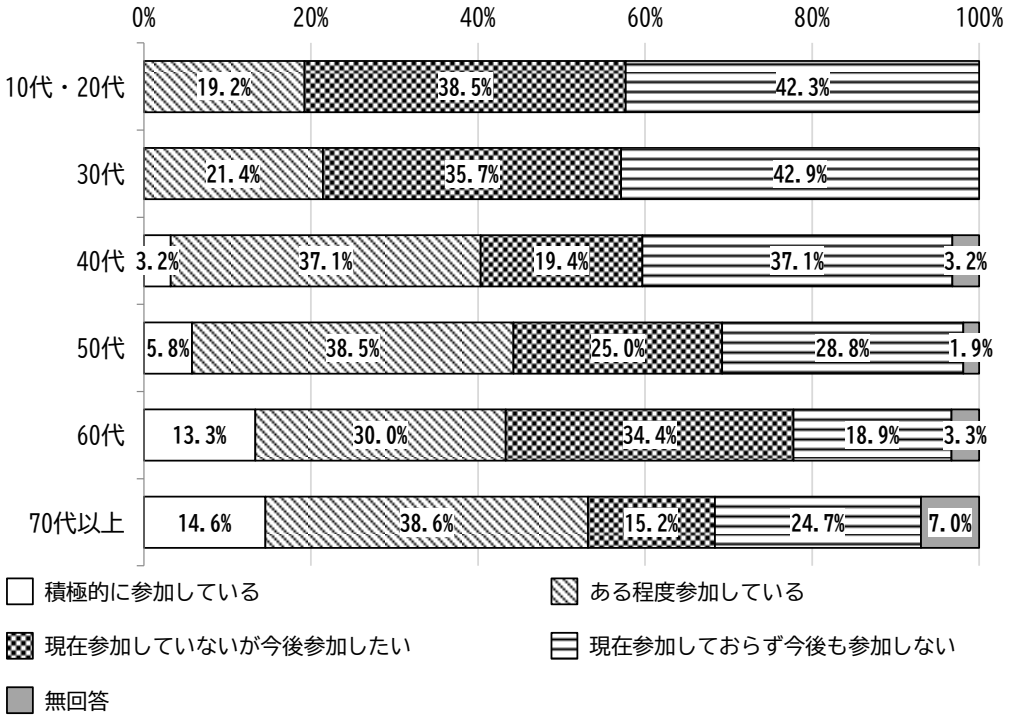
【地域活動への参加状況】



地域活動への参加状況は、「ある程度参加している」（34.3%）が最も高く、次いで「現在参加しておらず今後も参加しない」（28.1%）、「現在参加していないが今後参加したい」（24.0%）となっている。

また、「積極的に参加している」、「ある程度参加している」を合わせた『参加』層は約４割（43.9％）となっており、前回（43.1%）とほぼ同様となっている。

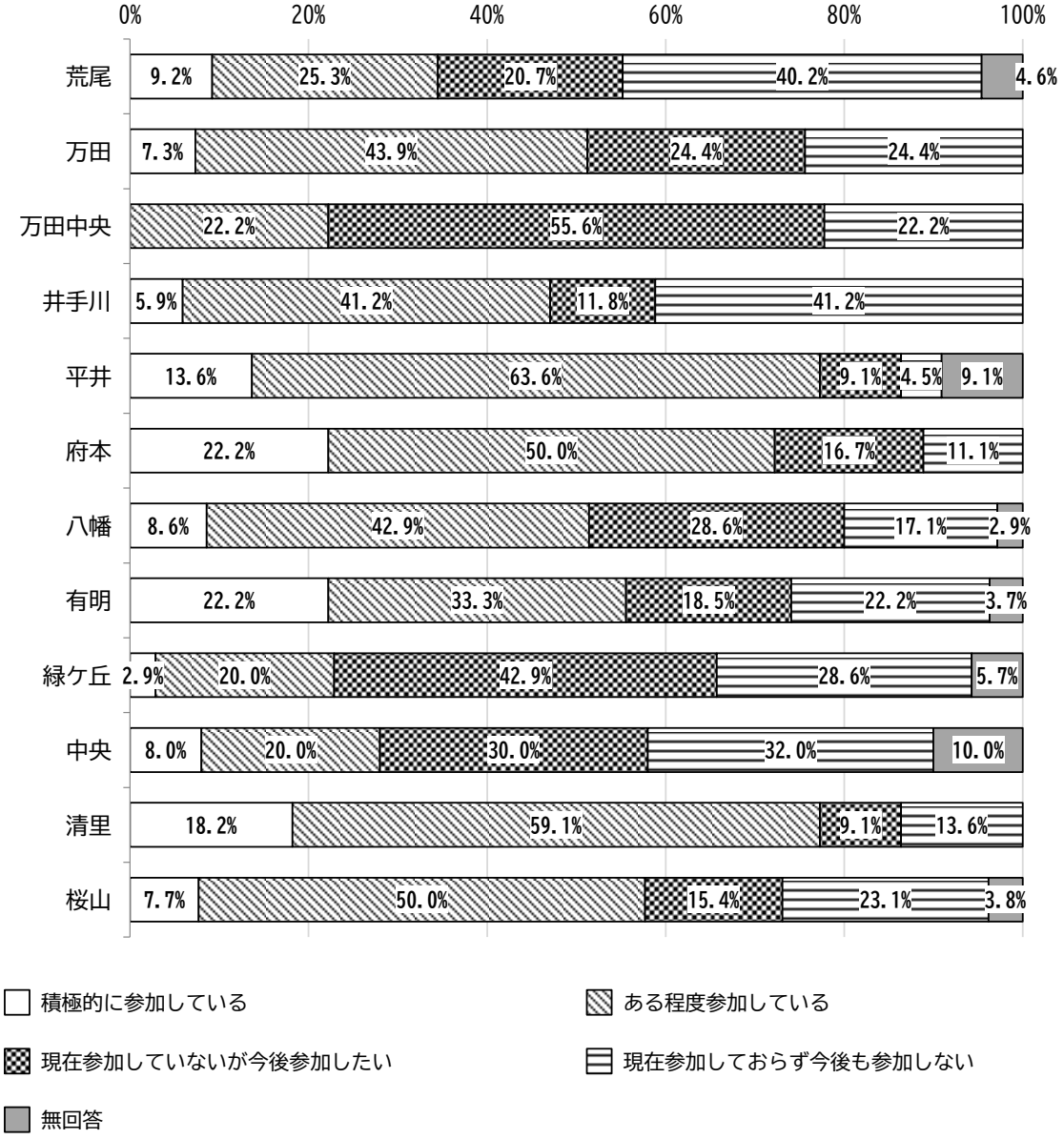
【年代別】



地域活動への参加状況を年代別にみると、年齢が高くなるにつれ『参加』層の割合が増える傾向にあり、70 代以上（53.2%）では５割を超えている。

一方、30 代以下の若年層においては「現在参加しておらず今後もしない」の割合が４割と選択肢の中で最も高くなっている。地域でも高齢化や担い手不足は、課題として挙がっているが、地域活動を継続していくための新しい仕組みづくりや人材の発掘・育成が必要だと考える。

【１２地区別】

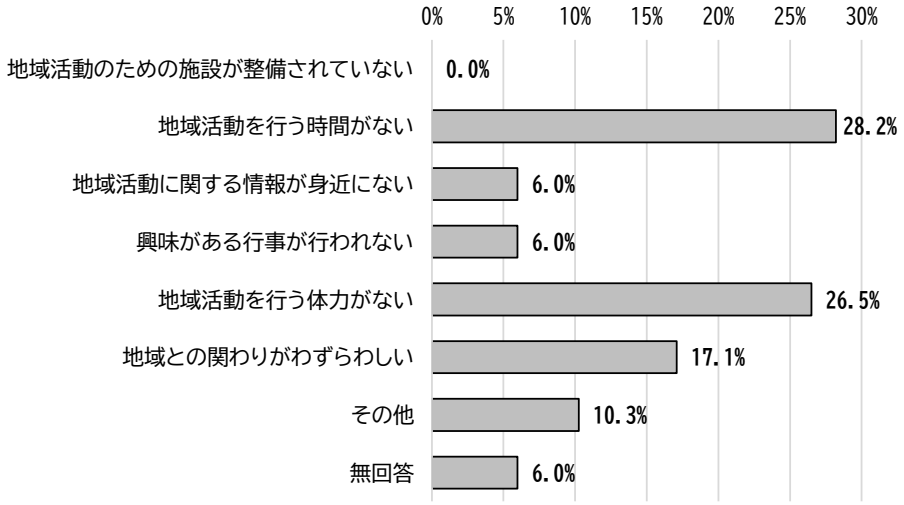


地区別にみると、『参加』層では「平井地区」「府本地区」「清里地区」で７割と高くなっている一方、「万田中央地区」「緑ケ丘地区」「中央地区」では３割を切っており、他の地区と比べて低くなっている。

また、「荒尾地区」「井手川地区」では「現在参加しておらず今後もしない」の割合が４割と他の地区に比べて高くなっており、地域によって参加不参加の差が大きいことも課題である。

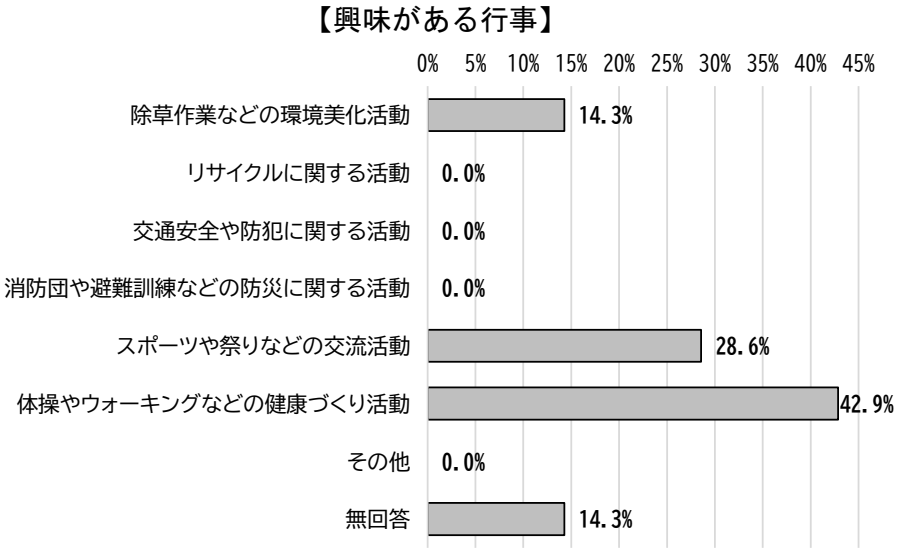
問２７－２　（問２４-１で「４．現在参加しておらず今後も参加しない」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【地域活動に参加しない理由】



地域活動に参加しない理由は、「地域活動を行う時間がない」（28.2%）が最も高く、次いで「地域活動を行う体力がない」（26.5%）、「地域との関わりがわずらわしい」（17.1%）となっていることから、共働き世帯の増加により、日常生活に時間的余裕がなくなっていることや高齢化に伴い活動する体力がなくなっていることが背景にあると考えられる。

問２７－３　（問２４-２で「４．興味がある行事が行われない」と回答した方）
どのような行事であれば参加できそうですか。【主なもの１つ】



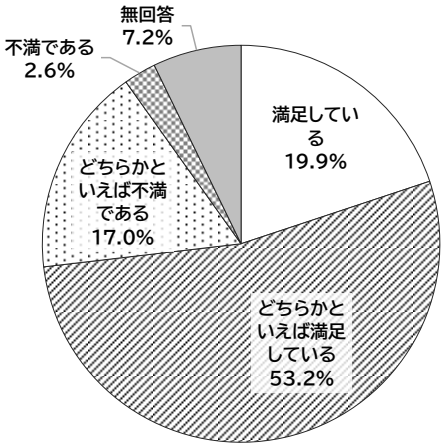
興味がある行事が行われないと回答した方が参加できそうな行事として、「体操やウォーキングなどの健康づくり活動」（42.9%）が最も高く、次いで「スポーツや祭りなどの交流活動」（28.6%）、「除草作業などの環境美化活動」（14.3%）となっている。地域コミュニティの維持に必要不可欠な行事に参加したいと思う人は少ないことが分かる。一方で、ニーズのある交流活動や健康づくり活動については求められていると言えるため、幅広い年代を対象とした気軽に参加できる行事を行う等が必要と考えられる。

６．荒尾市の住みやすさについて

（１）荒尾市の住みやすさ

問２８　あなたは、荒尾市での暮らしについてどのように思いますか。

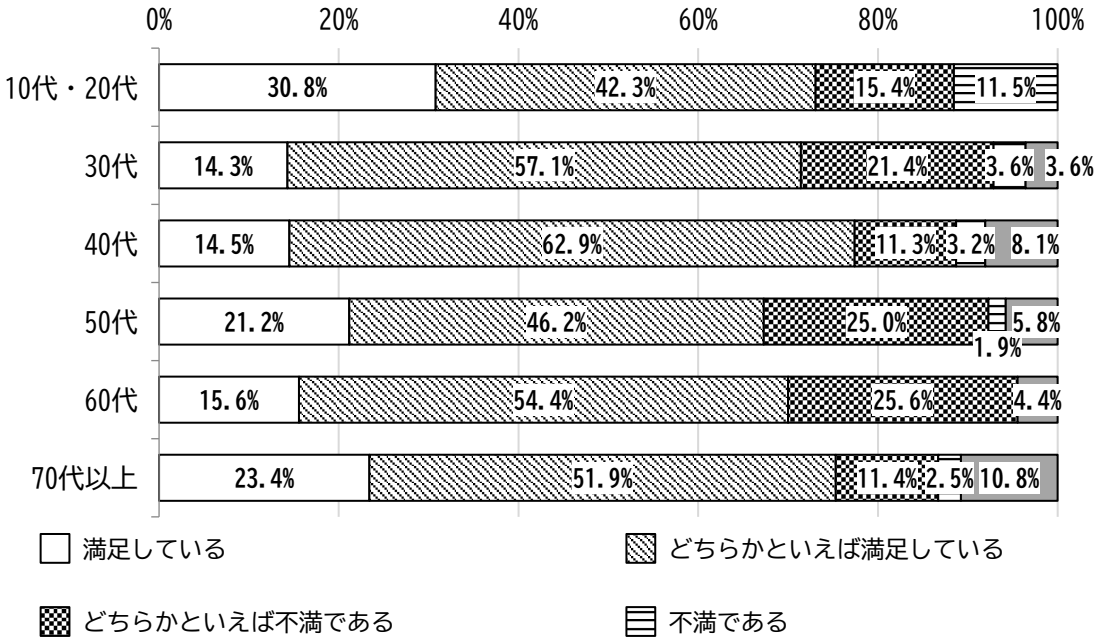
【暮らしに関する満足度】



荒尾市での暮らしの満足度は、「どちらかといえば満足している」（53.2%）が最も高く、次いで「満足している」（19.9%）、「どちらかといえば不満である」（17.0%）となっている。

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』層は 73.1%であり、前回（73.5%）と同様の結果であった。

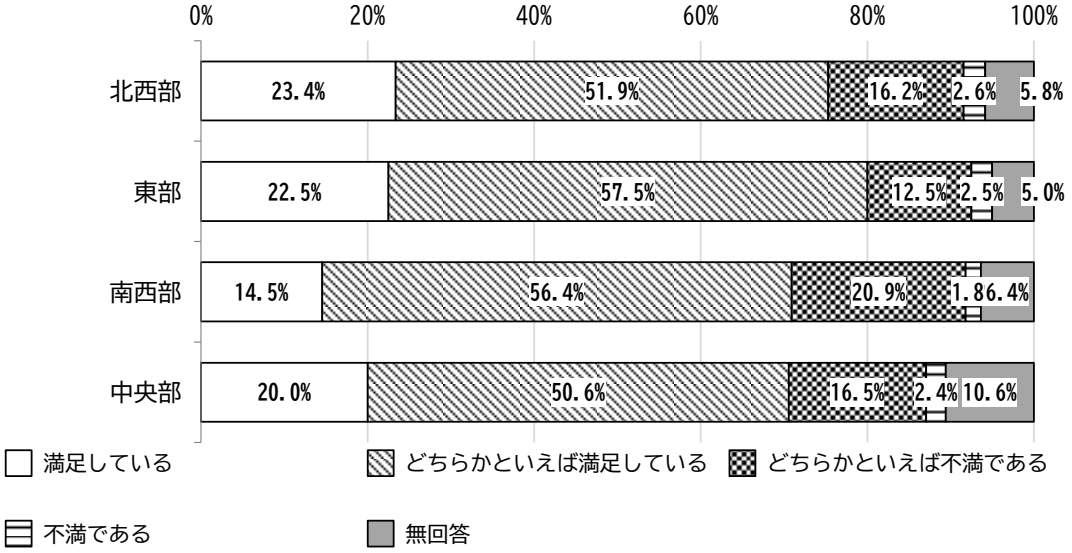
【年代別】



荒尾市での暮らしの満足度を年代別にみると、どの年代も「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』層が 7 割前後となっており、市民の満足度が高いことが分かる。

一方、30 代、50 代～60 代では「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた『不満足』層が 2 割を超えており、他の年代よりやや高くなっている。

【居住地区別】

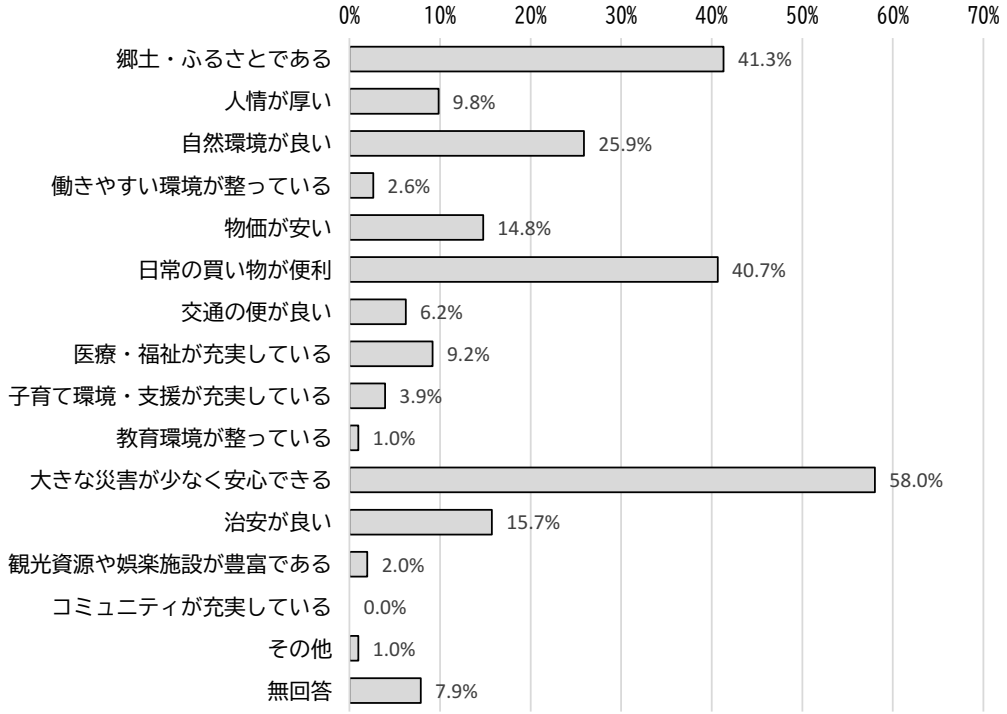


【居住地区】 北西部 荒尾・万田・万田中央・井手川 東　部 平井・府本
南西部 八幡・有明・清里・桜山 中央部 緑ケ丘・中央

荒尾市での暮らしの満足度を居住地区別にみると、『満足』層は東部が 80.0%で最も高く、『不満』層は南西部が 22.7%となっており、他の地区より高くなっている。

（問２８で「１．満足している」「２．どちらかといえば満足している」と回答した方）
その理由はなぜですか。【あてはまるもの３つまで】

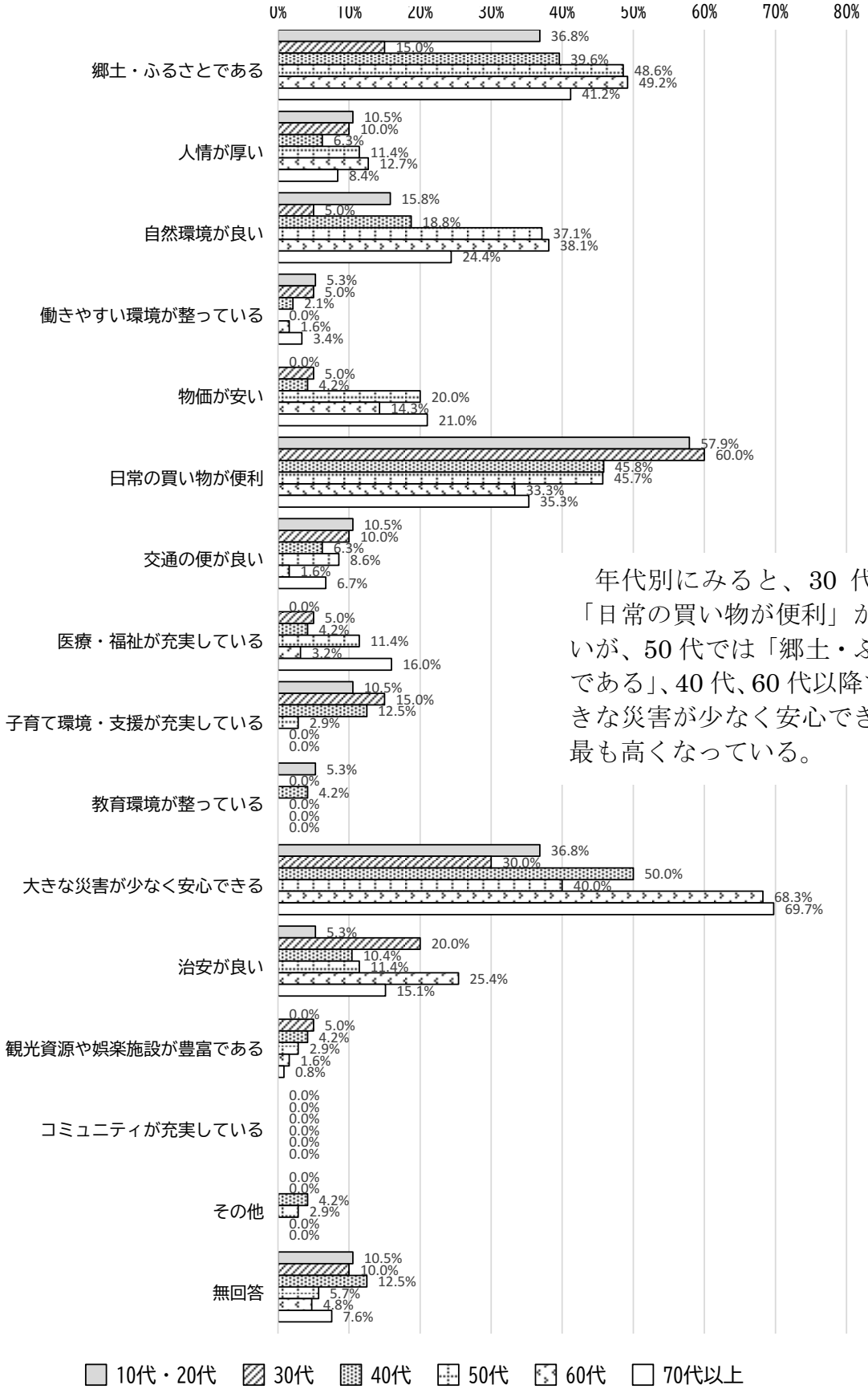
【暮らしに満足している理由】



荒尾市での暮らしに満足している理由は、「大きな災害が少なく安心できる」（58.0%）が最も高く、次いで「郷土・ふるさとである」（41.3%）、「日常の買い物が便利」（40.7%）となっている。

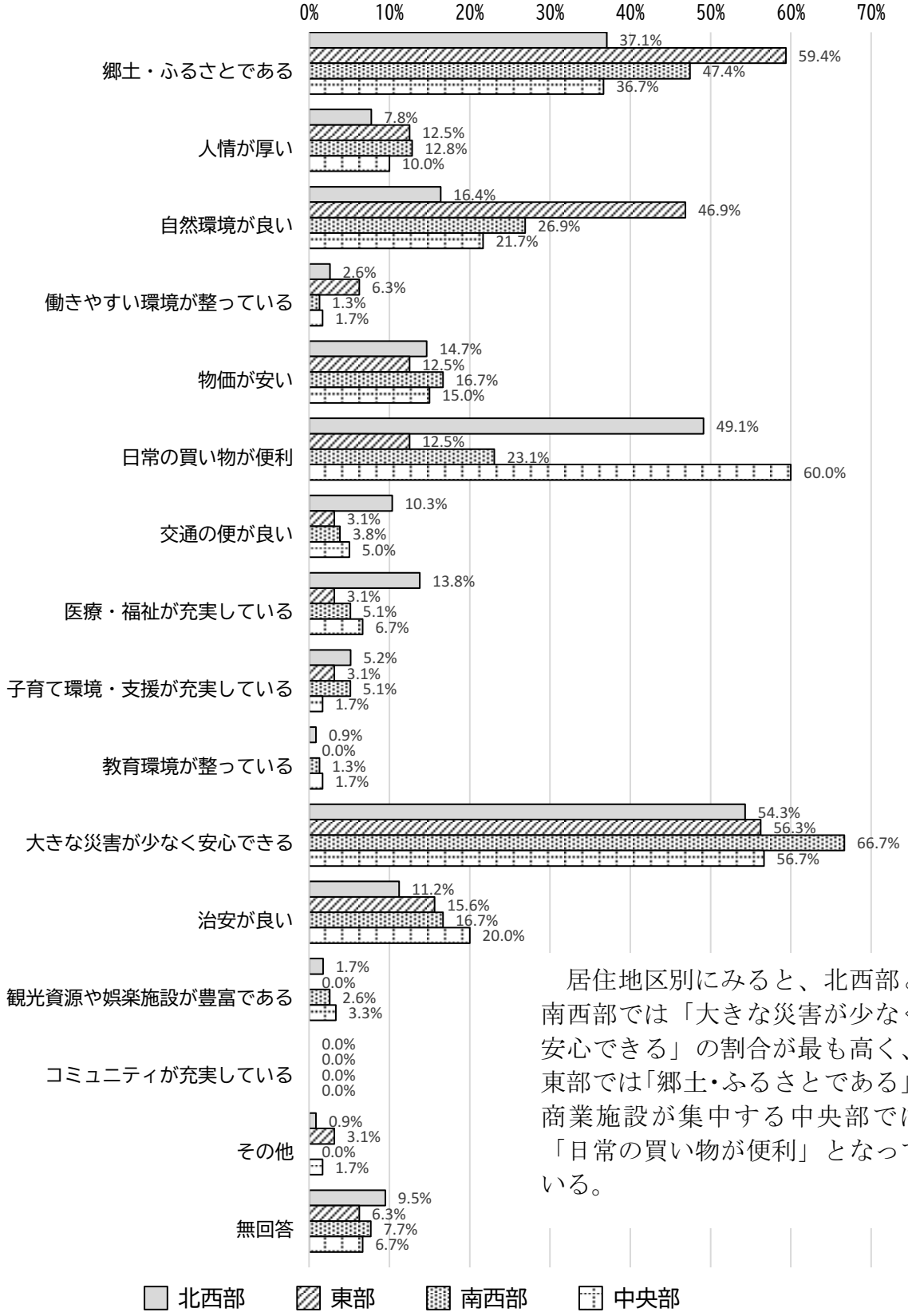
これらの項目は例年上位となっており、本市の強みとして、移住・定住の取組みへとつなげていく必要がある。

【年代別】



年代別にみると、30 代までは「日常の買い物が便利」が最も高いが、50 代では「郷土・ふるさとである」、40 代、60 代以降では「大きな災害が少なく安心できる」が最も高くなっている。

【居住地区別】

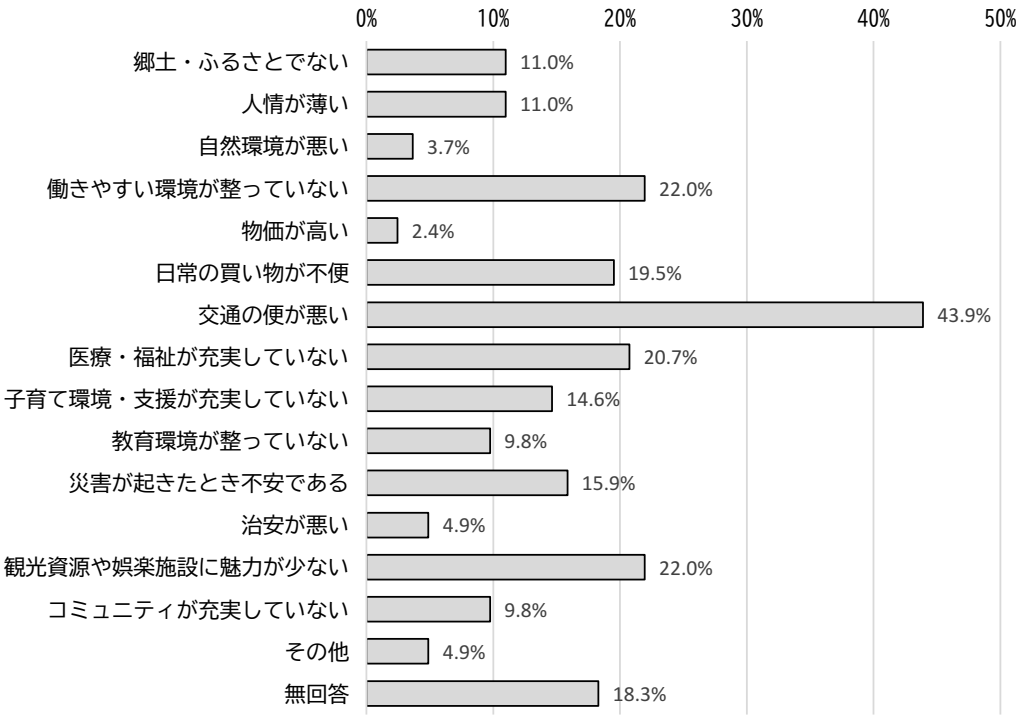


居住地区別にみると、北西部と南西部では「大きな災害が少なく安心できる」の割合が最も高く、東部では「郷土・ふるさとである」、商業施設が集中する中央部では「日常の買い物が便利」となっている。

【居住地区】　北西部　荒尾・万田・万田中央・井手川　東　部　平井・府本
南西部　八幡・有明・清里・桜山　中央部　緑ケ丘・中央

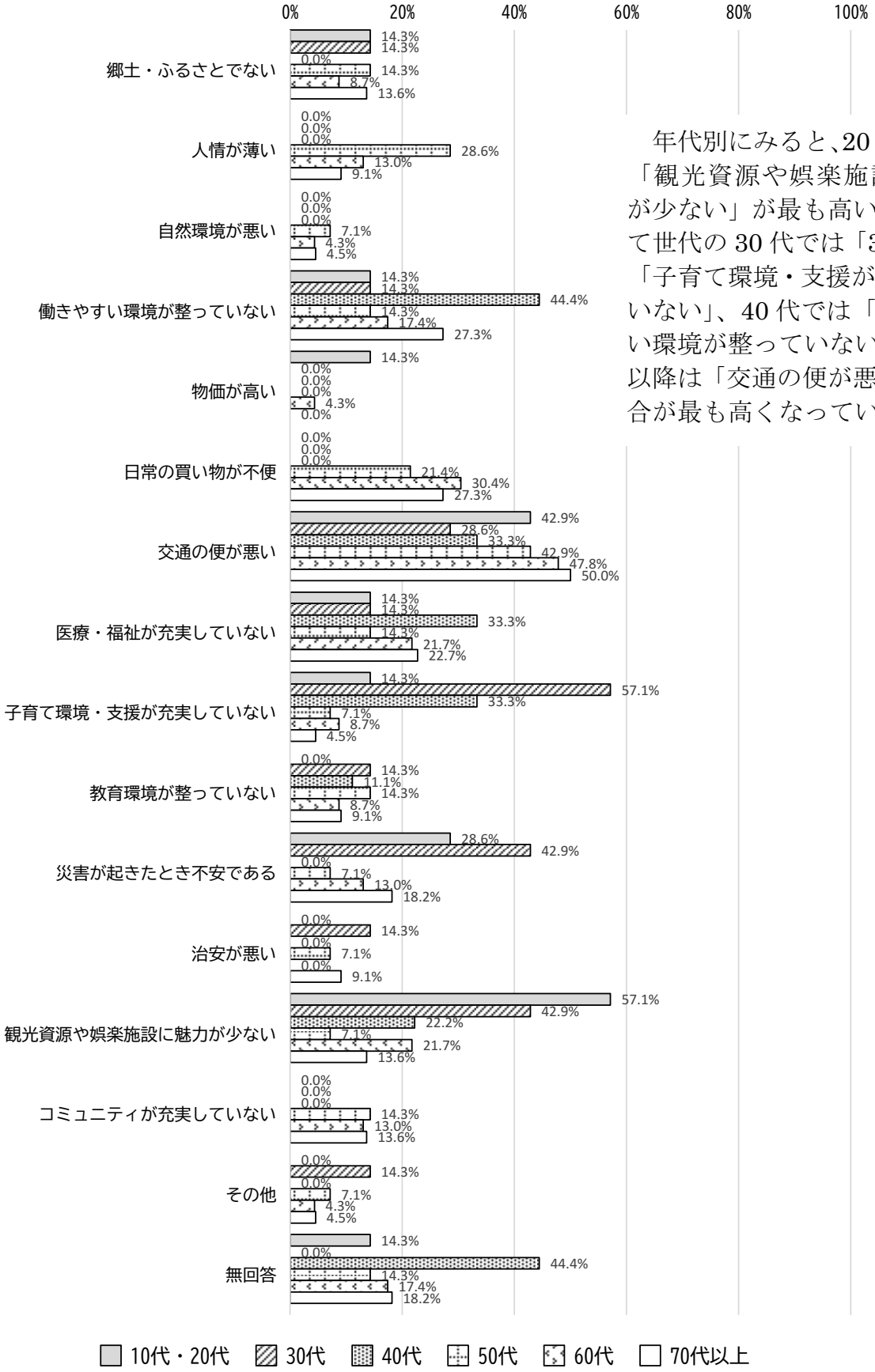
（問２８で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）
その理由はなぜですか。【あてはまるもの３つまで】

【暮らしに不満である理由】



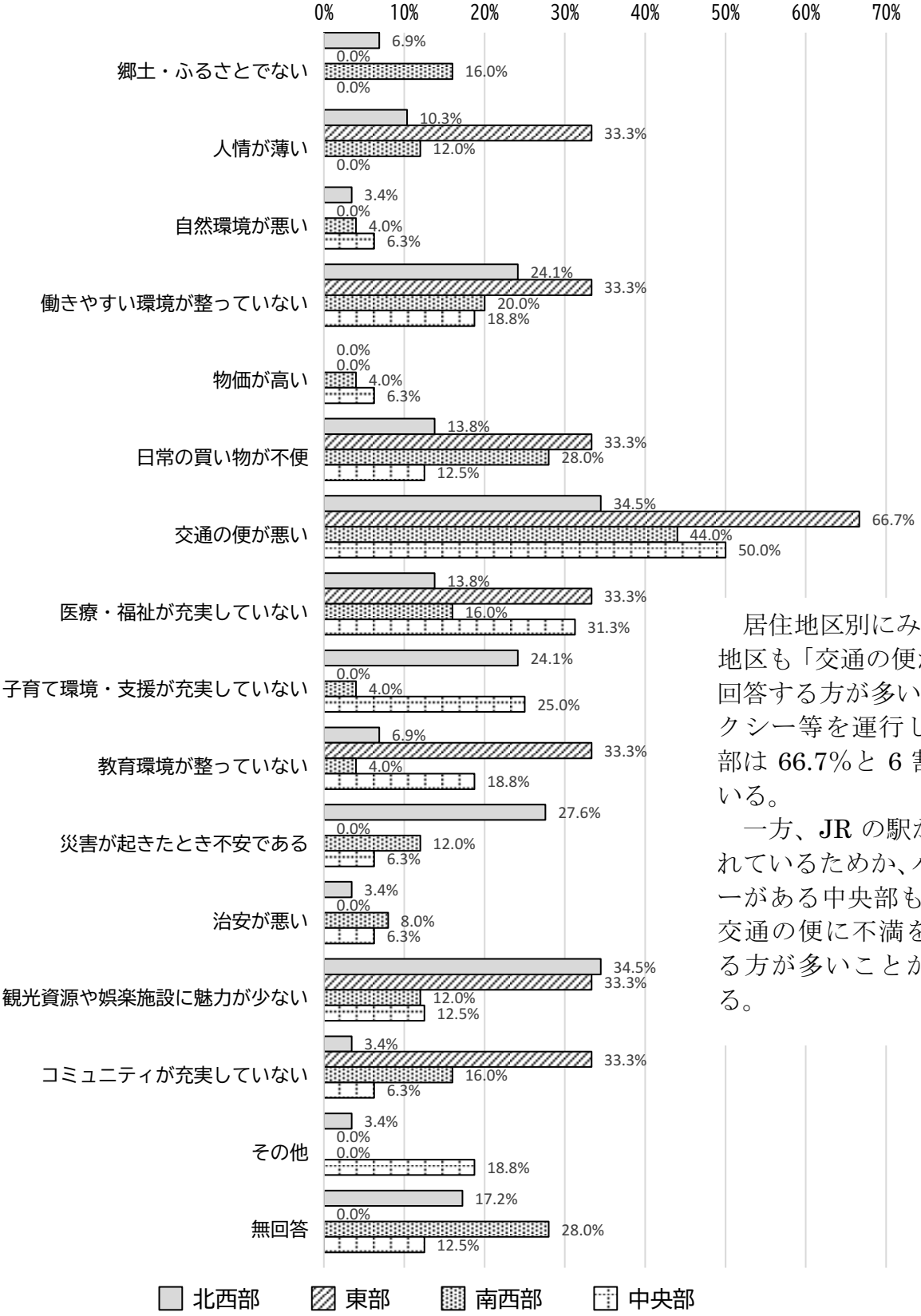
荒尾市での暮らしに満足していない理由は、「交通の便が悪い」（43.9%）が最も高く、次いで「働きやすい環境が整っていない」「観光資源や娯楽施設に魅力が少ない」（ともに 22.0%）となっており、前回同様の傾向であった。

【年代別】



年代別にみると、20 代までは「観光資源や娯楽施設に魅力が少ない」が最も高いが、子育て世代の 30 代では「30 代では「子育て環境・支援が充実していない」、40 代では「働きやすい環境が整っていない」、50 代以降は「交通の便が悪い」の割合が最も高くなっている。

【居住地区別】



居住地区別にみると、どの地区も「交通の便が悪い」と回答する方が多いが、乗合タクシー等を運行している東部は 66.7%と 6 割を超えている。

一方、JR の駅からやや離れているためか、バスセンターがある中央部も 50.0%と交通の便に不満を持っている方が多いことがうかがえる。

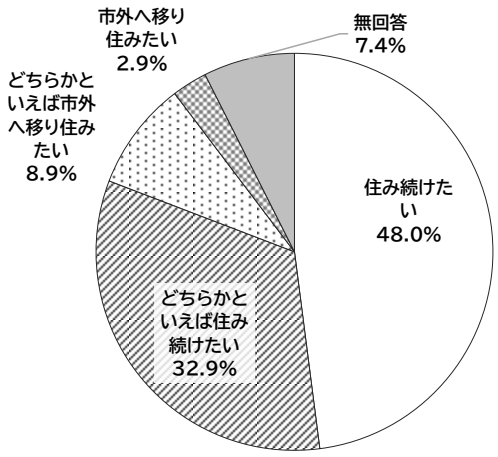
【居住地区】

北西部	荒尾・万田・万田中央・井手川	東　部	平井・府本
南西部	八幡・有明・清里・桜山	中央部	緑ケ丘・中央

（２）荒尾市への定住意向

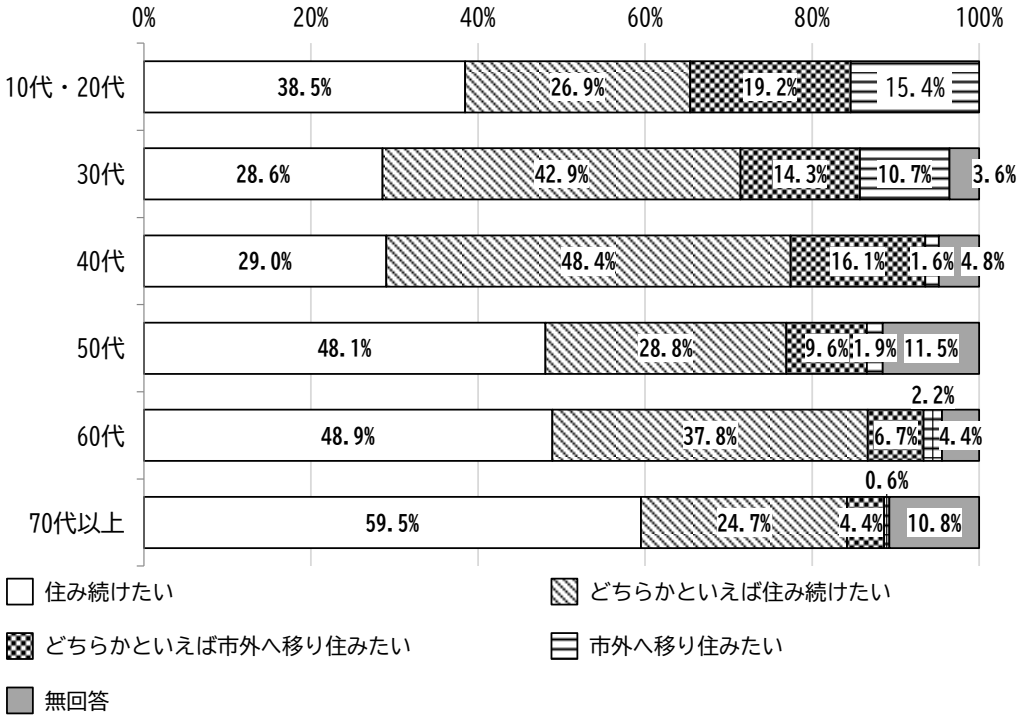
問２９－１　あなたは、これからも荒尾市に住み続けたいと思いますか。

【定住意向】



荒尾市への定住意向は、「住み続けたい」（48.0%）が最も高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」（32.9%）となっており、これらを合わせた『定住意向がある』層は 80.9%と、前回（85.7%）と同様 8 割を超えている。

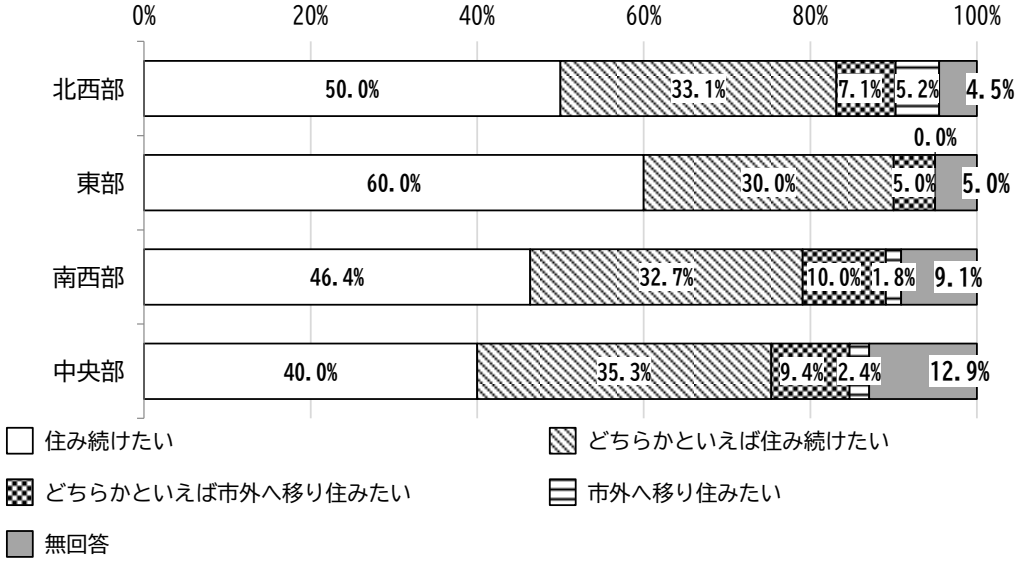
【年代別】



年代別にみると、高齢になるほど定住意向が高くなる傾向にあり、60 代以上では 8 割を超えている。

20 代までは定住意向が低く、「どちらかといえば市外へ移り住みたい」と「市外へ移り住みたい」を合わせた『定住意向がない』層の割合が 34.6%と他の年代より高い。

【居住地区別】

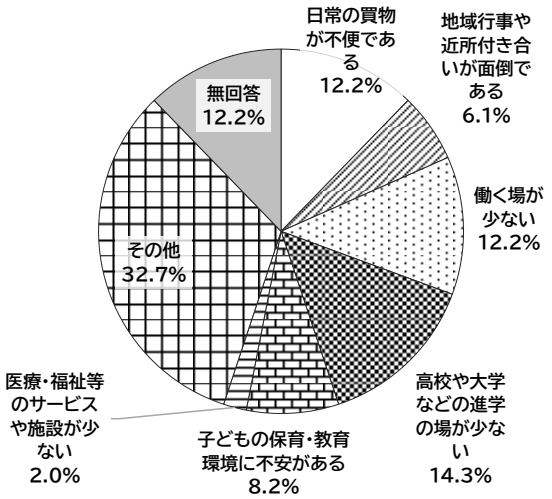


【居住地区】 北西部 荒尾・万田・万田中央・井手川 東　部 平井・府本
南西部 八幡・有明・清里・桜山 中央部 緑ケ丘・中央

居住地区別にみると、前回までは東部、南西部は「住み続けたい」の割合が北西部、中央部よりやや高くなっていたが、今回は北西部、東部の定住意向が８割を超えており、南西部、中央部より高くなっている。

問２９－２　（問 26-1 で「３．どちらかといえば市外へ移り住みたい」「４．市外へ移り住みたい」と回答した方）その理由は何ですか。【主なもの１つ】

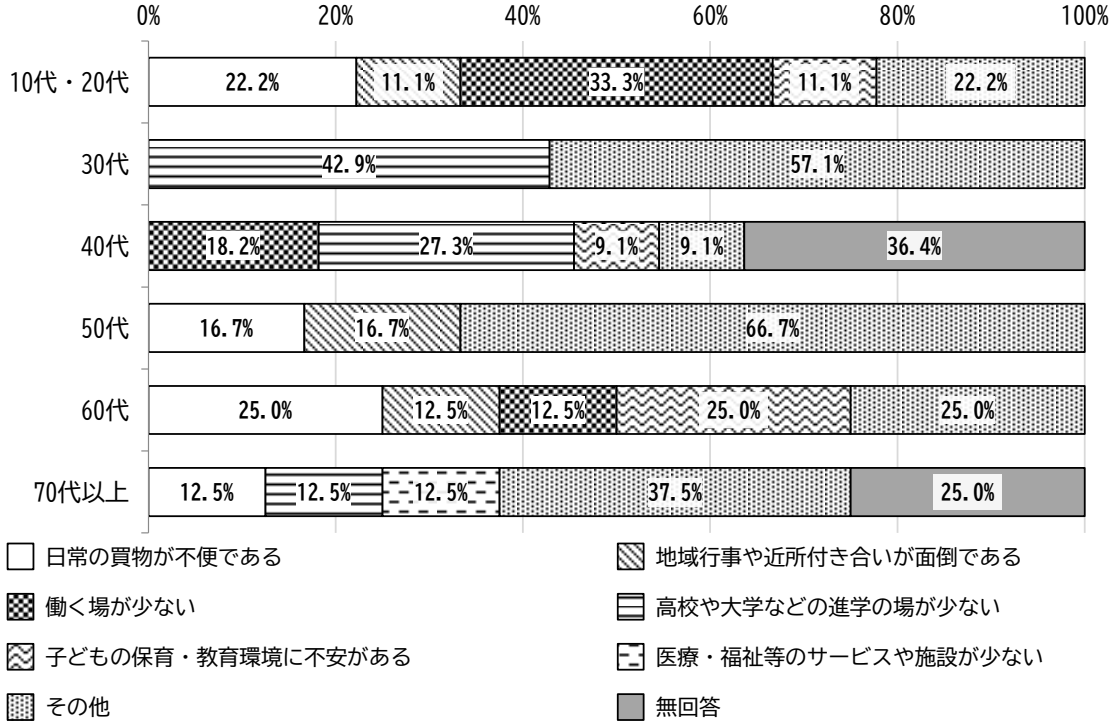
【市外に移り住みたい理由】



市外へ移り住みたい理由は「その他」（32.7%）が最も高く、主な理由としては、仕事や家庭の都合、交通の便が悪い、出身地に戻りたい等が挙げられた。

次いで「高校や大学などの進学の場が少ない」（14.3%）、「日常の買物が不便である」「働く場が少ない」（ともに 12.2%）となっている。

【年代別】



年代別にみると、10 代・20 代は「働く場所が少ない」の割合が著しく高く、30 代、40 代は「高校や大学などの進学の場が少ない」の割合が比較的高くなっている。このことから、若年層については、雇用や教育の受け皿に不満があることがうかがえるため、就職・進学を理由とした転出が懸念される。

７．自由意見

問３０　最後に、荒尾市の今後のまちづくりなどについて、ご意見・ご要望がありましたら、テーマと内容をお書きください。

合計 103 件のご意見をいただいた。以下に、主な意見を分野ごとに整理する。

【保健・医療・福祉分野】

○障がい者や介護で必要とする者は、自ら情報収集して自分が提供してもらえるサービスを選択することすら難しい。それに加えデジタル化が進むとより困難になることが想定される。そのような者たちへのサービスや支援を分かりやすく示していただきたい。またそのような者たちを支援する家族をサポートしてくれる場所の提供をお願いしたい。
○復興プロジェクトが終わった後は教育関係や医療関係にも目を向けて欲しい。
○ひとり親家庭。生活の為に残業して収入が上がったら、扶養手当が減った。子供と一緒に旅行や外食を楽しもうと頑張った結果がこれ。収入の上限はいつの時代の金額なのか。
○荒尾市は、給食費無償化や中学三年までの医療費無償化もあり子育てしやすいと感じる。ここ何年間かは、特に行政の方の努力をとても感じている。小児を診てくれる専門の病院がもっと増えれば休日や夜間も安心。荒尾市は小児科が少ない。
○子供が障がいをもっている。保育園や幼稚園に心理士が訪問してくれるようになって早期に発達障害が分かったり、療育やリハビリを受けれるようになった。ただ、親同士の交流の場がない。地域の障がいに対する情報も分からない。不安を持ちながら生活している人も多いと思う。交流の場や少し愚痴を言える場所、共感してもらえるところがあると安心も増えると思う。

【産業・観光分野】

○大都市に行って働かなくてよいような、働き先が多くあって欲しい。魅力がある企業の誘致等。
○福岡の博多駅でやっているように冬はクリスマスマーケット的な感じでイルミネーションも出店もすべてがしっかりこだわって海外っぽいテーマで１２月の毎週土日に開催するなどして欲しい。シティモールの外など元々人が集まりやすい場所だと 12 月毎週しても人が集まりやすいかなと思う。あとは中洲ジャズみたいに街全体で協力して数々所でのイベントも街が楽しくなると思う。
○構想は雄大ですが若人が少なすぎる。なぜ働く場が少ない。地理的に福岡、熊本市の方へ又、都会へと流れていく。
○荒尾全体にだれでも利用できる移動販売車を数多く展開できると独居者や病気で動けない人でも、気軽に利用できる。そういうシステムを作って欲しい。
○有明海にロープウェイか高架橋若しくは海底トンネルの設置で流入人口の増加による市の活性化推進。
○ぜひ企業の誘致に力を入れてもらいたい。荒尾には外から見た時は魅力が少ないグリーンランド以外の観光地が無く活気がない、例えば、今ブームのキャンプ場などを設備するとか花公園などを作るなど活気のあるまちを目指して欲しい。

○観光などで手取り早く金儲けをする傾向が地方自治体にはあると思う。時間はかかるが、教育にお金をかけ人材を育て地域に貢献できるようにしていくことが大切ではないかと思う。ゆめタウンの図書館はそのことが実践されているように感じている。
○将来的に荒尾と長崎（島原）を結ぶレインボーブリッジ的、観光名所構想が欲しい。
○ワンコイン（￥500）で利用できる喫茶店やコミュニティーセンター入浴施設が複数あるといい。大きな施設を作るのではなく小規模な施設があちこちにあると良い。
○娯楽施設に加えて大型ショッピングセンターの拡張による市外からの買い物客の収集を図る。

【子育て・教育分野】

○色々な事を経験し、体感すると先々の進学または就職などにもつながっていくと思うので、行事等でそのような場が沢山あればと思う。スポーツにおいても、もっと身近で簡単に遊ぶ事の出来る環境があればと度々感じる。
○子供の遊び場がなさすぎる。前にあったとこはつぶれたし、お金がかかった。明石市の市長さんみたいに子ども中心に考えて欲しい。子どもが一番世の中で大切。
○0 歳児～2 歳児の保育料が負担（若く給与が低いため余計に）に感じる。子育て全般費用がかかりすぎる。子どもをつれてのあそび場がもう少し充実して欲しい。
○子育てに関する補助金等がもう少しあると助かる。
○先生方の労働環境が厳し過ぎではないか。教員採用試験受験者の減少が心配。
○地域性なのか、教育に対する考えが低い人が多い気がする。小さい頃は、内容はどうでも良いから安く長く預かってくれれば良い、小学校は給食が無料だから良いとか、教育をサービスの一つだと思っている様な気がしてならない。それよりも、子どもを産みやすいよう出産に対してのサポートをした方が少子化対策にもなると思う。

【スポーツ・文化・生涯学習分野】

○全国的に見て、ようやく図書館が整備されたが遅すぎる。市内の公園設備が他市と比べて、不備がある。
○スポーツ施設を充実させ地域とのコミュニティを増やし移住者の増加も図る。
○市民プールと駐車場の往来道路に横断歩道の設置と手押し信号機の設置で交通事故防止の推進。
○市民プールのスタンドの塗装で美化推進。
○市民プール歩行通路の補修（暑くて素足で歩くのが難しい）。
○競馬場跡地に温水プールの設置（可能ならば屋内温水プール）。
○公園などの環境整備を行って欲しい。運動公園などをリニューアルして欲しい。
○市民体育館が古すぎ。新しく充実した設備があればもっと大きな大会や交流戦が出来て色んな屋内スポーツの技術向上ができていくのではないかと思う。
○スケートボードができる場所を作って欲しい。土地は充分にあると思うので未来のオリンピック選手を輩出するつもりでパークを作って頂きたい。
○子連れでいける大型の公園、トイレ付きがあったら良い。休みの日に公園目当てに市外にでているから。

【交通安全・防災・防犯分野】

○道路の電灯を増やして欲しい。夜歩くのに暗い。
○市民病院通りに街灯の設置（増設）で防犯防止の強化
○場所によっては木や草が生い茂っており、子供の通学等大変危険な状態である。
○街灯が少なすぎる。防犯上・交通安全上、もっと LED の街灯を増やして欲しい。道路のセンターライン等、線が消えかかっているところが多い。早急の対応が必要。
○毎年、大雨の特に同じ場所が水につかり車で通りづらい。竹が道路に倒れている。
○災害や緊急時に安心して避難できる避難ビル(シェルター)のような建物が、少しずつ整備されたらいいのになと思っている。

【都市基盤・定住環境・公共交通分野】

○荒尾駅を魅力的な場所にして欲しい。例えば、アーケードを作り、喫茶店やおみやげ広場食料品売り場（小さくても良い）小さな本屋など。バスの時刻を、もう少し増やして欲しい。
○主要な所だけ花や植木の手入れをしてあるが、道路・道沿いの草が伸び放題になっている。どこの道を通ってもきれいな荒尾市になって欲しい。
○下水工事を進めて欲しい。衛生面を整えて欲しい。
○道路周辺の環境整備を市で管理して欲しい。
○JR の本数も減り空港へ行く為の西鉄バスもなくなり、今後の移動に大変不安を感じる。
○車がないと生活しにくい。
○市民にとって、暮らし易い環境づくり。
○増永川（浦川）の生活排水規制による浄化で蛍が住む川とする。
○増永川（浦川）沿いの定期的な除草で美観の確保・推進（付近住民、ボランティア等による）美観の確保で市民は元より、外来者の評価が上がる。
○増永川（浦川）沿いにウォーキングロードとミニ公園の設置老若男女がくつろげる憩いの場を設ける事で市民間の繋がりが出来、犯罪防止の一助となる。
○歩行者道路の段差をなくして、高齢者及び障がい者が安心して歩けるようにする。
○運動公園付近の歩行者通路の拡幅で交通事故防止を図る。
○老朽化している新生公民館の建て替えと駐車場の確保（入口の坂は、高齢者にキツク・危ない)。
○荒尾駅に東側改札口とエレベーター若しくは、動く歩道の設置高齢者及び身体障がい者に優しい南新地との連絡口とする。
○産交バスの小型化で経費削減。
○市民病院通りの無電柱化。電気事故防止と美観の推進。
○高齢化社会等で、空家が多くなってきている。家屋、小屋も老朽化し草木等も荒れはてている。
○ＪＲ荒尾駅にエレベーターの設置が無くバリアフリーになっていないため高齢者・障がい者は利用しにくい。
○誰でも安価（￥200～300 程度）で利用できる市内循環バスの運用（コースがいくつかある)。
○路線が少ない。駅のまわりが何もない。
○熊本幹線道路までの構想の早朝実現をお願いしたい。

○自分の住んでいる所は１年に 1～2 回、又それ以上の水害で道路まで水が上がってくる。山手の方から一度に流れてくる。
○市営住宅、アパート等を人口が減少している校区に作り、人を増やし子供がいる家庭には支援し、小学校の廃校をふせぐ特に市外からの転入者、子供がいる家庭を呼び込む。
○荒尾市は他の自治体に比べ、家賃が高い。
○免許証を返納した方に、便利な交通手段を充実させてほしい。

【協働分野】

○年齢層、男女各々違う人々がそれぞれの意見を持ち寄り、意見をかわしながらより良い生活ができる様に話し合う機会が必要。意見を出し合うことが重要。
○活気ある荒尾市にしたい。市民、行政みんなで盛り上げたい。

【市政全般・その他の分野】

○出生率の低下、若年層の流出、そこに行かなければ味わえないエンタメ、ワークケース、福祉、それらは都市部にかなうものではない。では、どうするか。居住地にこだわらない、またはリスクレスな地方であるからこそ出来うるサブスクライブおよびサブスクリプションがあると思う。
○行政等のパトロールを見かけるが、まだ不足している。
○プレミアム付商品券の販売があったが、アプリのみ販売で、出来ない人もいるのに不公平ではないか。
○あらお広報紙の紙質・色刷りの見直しで経費削減。
○市の活性化策として市長・市会議員の定年制の条例化。市長 : 3 期、市会議員 : 2 期、70 歳。ともに年齢に達した時点で次点者・落選者が繰り上げされる。
○市会議員の定数見直しと各議員の議員月間活動報告の公表＊議員活動の活性化と、見える市議会により荒尾市を活性化する。
○市長及び市会議員の中間評価の実施。1 年に 1 回、有権者によるアンケート調査で眠らない荒尾市の実現。
○朝、蛇口をひねると塩素臭が漂う。原因究明し、改善して欲しい。
○何か困った事があった場合どこへ行って相談したら良いか分からない。
○若い世代（20～40 代）が暮らしやすいまち、永住したくなる荒尾市づくり。
○デジタル化が多方面で進むのは喜ばしい事だが、それを受け入れるにあたり年代で格差が出ることはないか。例えば、今回の荒尾ペイだが、使用している方の中に高齢の方が少ない気がする。そのあたりを検証してもらいたい。
○アンケートを取るだけで終わらず、広報などで結果を公表して欲しい。街づくりに参加できそうなヒントが見つけられるかもしれない。
○現在、市民病院の立て替えや給食センターの新設など新しい事にチャレンジしている所が良い。子どもの医療費助成や図書館のリニューアルなど環境が整っており素敵。子供のスポーツや公園作りなど活動ができる場所を作って欲しい。
○市民にサービスが少ない。
○夏祭りの時、大牟田では大蛇山で賑わう。長く愛されるキャラクター作り、音楽を作り若者が集う祭りを催し、荒尾市で盛り上がって欲しい。

〇いつ頃、何が完成予定とか時々、情報を広報あらおで知らせて欲しい。スマートシティにものすごく興味があるので何がいつ完成するのか知りたい。ネットを見ても何が何だかわからないので、もっとわかりやすくして欲しい。
〇教養、文化、医療があまりにも少ない。産業（会社数）が少ない。買い物が不便。市議が地域に根ざした活動が見えない。
〇各家庭でゴミを袋に入れてゴミ出ししているか。庭先で燃やして近所に迷惑かけていないか（火事になりかけたこともある）。ゴミの出し方、処理の仕方に困っている。荒尾市民に再教育をお願いしたい。
〇時間とお金の無駄（税金だ）。ネット社会に紙は不要。役所に来た方にタブレットでアンケートして欲しい。
〇70 年以上荒尾で暮らしているが災害も少なくとても暮らしやすい。毎月広報を詳しく読んでいるが、色々工夫されている。今いる子供たちが私の年になった時「荒尾出身です」と胸を張って言える市に育って欲しい。そういう意味からもこういうアンケートは効果的と思う。
〇野良猫の糞公害。無責任な餌やりを止めて欲しい。
〇道の駅について、市民の税金を使っているにも関わらず、市民にしっかりとした説明がされていないと思う。あれこそ税金の無駄遣いだと思う。
〇各地区で色んな祭りがあれば、見て回りたい。

第３章 調査票

あなた自身のことについてお尋ねします

■ 当てはまるものに○をつけてください。

性　別	１．男　　２．女 ※男女別の傾向を調査する項目があるため、ご自身が自認される性別でご回答ください。
年　齢	１．１８歳未満　２．１８歳～２９歳　３．３０代　４．４０代 ５．５０代　６．６０代　７．７０代以上
居住地区	１．荒尾　２．万田　３．万田中央　４．井手川 ５．平井　６．府本　７．八幡　８．有明 ９．緑ケ丘　１０．中央　１１．清里　１２．桜山 【わからない方は】　お住まいの行政区（町名）等を記入してください。 （　　）
通勤・通学先	１．荒尾市内　２．大牟田市　３．玉名市 ４．長洲町　５．熊本市　６．その他（　　） ７．通勤・通学はしていない
荒尾市での居住年数	１．１年未満　２．１～３年未満　３．３～５年未満 ４．５～１０年未満　５．１０～２０年未満　６．２０年以上
移住の有無	１．生まれてからずっと荒尾市に居住している ２．一度、荒尾市から転出し、再び荒尾市に戻ってきた（Ｕターン） ３．荒尾市以外から移住してきた（Ｉターン） **上記で「２」または「３」と回答した方（荒尾市外での居住経験がある方）にお伺いします。** **ａ．荒尾市への移住の目的・きっかけは何ですか。【１つのみ】** １．自分や家族の仕事（就職・転勤など）　２．自分や家族の進学 ３．自分や家族の結婚　４．親や子、祖父母との同居・近居 ５．よりよい生活環境を求めて（　　） ６．その他（　　） **ｂ．転居先を荒尾市に決めた理由は何ですか。【３つまで】** １．希望の仕事があった　２．職場に近い ３．希望の住居があった　４．生活環境が良い（利便性が高い） ５．光熱費、家賃など生活費が安い　６．自然環境が良い ７．家族や友人が近くにいる　８．教育環境が良い ９．行政のサービスが充実している（例：　　） １０．出身地である　１１．その他（　　）

健康づくりについて

問１　あなたは、普段朝食を食べていますか。

１．毎日食べる	２．ほとんど毎日食べる
３．あまり食べない	４．全く食べない

問２　あなたは、食事をとるときに栄養のバランスを考えて食べていますか。

１．よく考えている	２．時々考えている	３．全く考えていない

問３　あなたは、日常的に１回３０分以上の汗ばむ程度の運動をしていますか。

１．週３回以上行っている	２．週２回行っている	３．週１回程度行っている
４．月１～２回程度行っている	５．全くしていない	

問４－１　あなたは、どれくらいの間隔で健康診断や人間ドックを受けていますか。

１．毎年受けている	２．２年に１回程度受けている
３．３年に１回程度受けている	４．５年に１回程度受けている
５．受けていない	

問４－２（問４－１で「５．受けていない」と回答した方）
その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【理由】	１．元気であり必要ないと思うから	２．忙しくて受ける時間がないから
	３．自覚症状が出てからでも遅くないと思うから	４．費用負担が大きいから
	５．時期や方法が分からないから	６．面倒だから
	７．定期的に医療機関を受診しているから	８．受けても意味がないと思うから
	９．その他（　　）	

問５－１　あなたは、荒尾市の保健サービスや医療体制についてどのように思いますか。
（注）「保健サービス」とは、母子健診や成人向けの健康相談などを指します。

１．満足している	２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満である	４．不満である

問５－２（問５－１で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）
その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【理由】	１．緊急時の医療体制が整っていないから	２．医療機関の数が少ないから
	３．市内で受けられる診療科目が少ないから	４．気軽に相談できる機関が少ないから
	５．医療に関する情報発信が少ないから	
	６．保健サービスに関する情報発信が少ないから	
	７．その他（　　）	

結婚・出産・子育てについて

問６　あなたは、結婚していますか。

１．結婚している	２．独身（未婚）	３．独身（死別・離別）

問７－１　現在の子どもの有無に関わらず、あなたの希望する（希望していた）子どもの人数は何人くらいですか。
また、実際の子どもの人数は何人ですか。

希望する（希望していた）子どもの人数	人	実際の子どもの人数	人

問７－２（問７－１で「希望する（希望していた）子どもの人数」より「実際の子どもの人数」の方が少ない方）
「実際の子どもの人数」の方が少ない理由として、どのようなことが考えられると思いますか。【３つまで】

【考えられること】	１．子育てや教育にお金がかかりすぎるから ２．自分や夫婦の生活を大切にしたいから ３．育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから ４．夫（妻）の家事・育児への協力が得られないから ５．夫（妻）が望まないから　６．ほしいけれどもできないから ７．健康上の理由から　８．高年齢で産むことに不安があるから（女性のみ） ９．これから出産する予定である １０．その他（　　）

問７－３（問７－２で「１．子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した方）
最も経済的負担に感じる年代はどれですか。【主なもの１つ】

【年代】	１．就学前 ２．小学生、中学生 ３．高校生 ４．短大生、大学生、専門学校生

問８　あなたは、荒尾市の「子育て世代包括支援センター（すこやか未来課保健センター）」が妊娠期から子育て期の支援を行っていることを知っていますか。

１．よく知っている	２．ある程度知っている	３．知らない

問９－１　あなたは、荒尾市で子育てをしたいと思いますか。

１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う
３．どちらかといえばそう思わない	４．そう思わない

問９－２（問９－１で「３．どちらかといえばそう思わない」「４．そう思わない」と回答した方）その理由はなぜですか。【２つまで】

【理由】	１．自然環境が良くないから　２．犯罪や事故が多く危険だから
	３．近所づきあいや地域活動があまりないから
	４．公園や児童館など子どもが遊ぶ場所が少ないから
	５．子育て支援サービスが充分でないから　６．子どもの教育環境が充分でないから
	７．家族や親戚、友人など、相談できる人や支援してくれる人が近くにいないから
	８．その他（　　）

生活全般について

問１０　あなたや、あなたの家族（荒尾市に居住の方のみ）の給与について、前年と比べて、改善していると感じますか。

１．改善していると感じる	２．改善していると感じない

問１１－１　あなたは、荒尾市における労働環境について、どのように思いますか。

１．満足している	２．どちらかといえば満足している	
３．どちらかといえば不満である	４．不満である	５．わからない

問１１－２（問１１－１で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）その理由はなぜですか。【いくつでも】

【理由】	１．働く場所が少ない　２．希望する職種が少ない
	３．就労先の会社の情報が少ない　４．待遇が良くない
	５．その他（　　）

問１２　あなたは、この１年間で路線バス、乗合タクシー、おもやいタクシーのいずれかを利用しましたか。

１．はい	２．いいえ

問１３　荒尾市の公共交通（電車、路線バス、乗合タクシー、おもやいタクシーなど）の利便性について、どのように思いますか。

１．満足している	２．どちらかといえば満足している	
３．どちらかといえば不満である	４．不満である	５．ほとんど利用しない

問１４　荒尾市の街並み（道路の植栽などの景観）について、どのように思いますか。

１．美しいと思う	２．どちらかといえば美しいと思う
３．どちらかといえば美しいと思わない	４．美しいと思わない

問１５　荒尾市の地域資源である、ラムサール条約湿地の「荒尾干潟」について、親しみやすいと感じますか。

１．親しみやすい	２．どちらかといえば親しみやすい
３．どちらかといえば親しみにくい	４．親しみにくい

問１６-１　荒尾市の文化・教養に関する環境について、どのように思いますか。

１．満足している	２．どちらかといえば満足している	
３．どちらかといえば不満である	４．不満である	５．わからない

問１６-２（問１６-１で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【理由】	１．文化・教養のための施設が整備されていない	
	２．文化・教養に関する行事が少ない	３．文化・教養に関する情報が身近にない
	４．興味がある行事が行われない	５．その他（　　）

問１７-１　荒尾市のスポーツに関する環境について、どのように思いますか。

１．満足している	２．どちらかといえば満足している	
３．どちらかといえば不満である	４．不満である	５．わからない

問１７-２（問１７-１で「３．どちらかといえば不満である」「４．不満である」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【理由】	１．スポーツのための施設が整備されていない	
	２．スポーツに関する行事が少ない	３．スポーツに関する情報が身近にない
	４．興味がある行事が行われない	５．その他（　　）

問１８　防犯や防災の観点から、あなたのお住まいの地域は安全だと思いますか。

１．安全だと思う	２．どちらかといえば安全だと思う
３．どちらかといえば安全だと思わない	４．安全だと思わない

問１９　あなたは、普段から性別や障がいの有無などに関わらず相手を尊重して接していると思いますか。

１．尊重している	２．どちらかといえば尊重している
３．どちらかといえば尊重していない	４．尊重していない

問２０　あなたは、障がい者への理解や関心があると思いますか。

１．理解や関心がある	２．どちらかといえば理解や関心がある
３．どちらかといえば理解や関心がない	４．理解や関心がない

問２１　あなたは、日常生活において、家族以外の人と交流がありますか。

１．毎日交流がある	２．週に数回交流がある
３．月に数回交流がある	４．全く交流がない

問２２-１　あなたは、普段インターネットを使える環境（パソコンやスマートフォンなど）がありますか。

１．ある	２．ない

問２２-２（問２２-１で「１．ある」と回答した方）
主にどのような機器を使用していますか。（複数回答可）

１．パソコン	２．スマートフォン
３．タブレット	４．その他（　　）

問２３　あなたが、店舗等で買い物をする際の、主な支払方法は何ですか。

１．現金　　２．主にカードを利用したキャッシュレス決済（クレジット、電子マネー等）
３．主にスマートフォンを利用したキャッシュレス決済（QR/バーコード決済等）

問２４-１　あなたは、デジタルサービスが進んでいく中で、情報格差（インターネットやデジタル技術を使用している人との差）を感じますか。

１．感じる	２．どちらかといえば感じる
３．どちらかといえば感じない	４．感じない

問２４-２（問２４-１で「１．感じる」「２．どちらかといえば感じる」と回答した方）
どのようなときに感じますか。

１．デジタル機器の使用方法が分からないとき
２．デジタル機器を持っていないとサービスが受けられないとき
３．その他（　　）

市民と行政との協働のまちづくりについて

問２５　あなたは、市政（荒尾市が行っているまちづくり）全般について関心をお持ちですか。【主なもの１つ】

１．とても関心がある	２．少しは関心がある
３．あまり関心がない	４．全く関心がない

問２６　あなたは、これからのまちづくりを進める上で、市民と行政がどのように連携すればよいと思いますか。【主なもの１つ】

１．市民が積極的に活動を実施し、市民主体によるまちづくりを行うのがよい。
２．テーマごとに市民と行政の役割分担を明確にし、協働で行うのがよい。
３．まちづくりは行政が主体となって行うのがよい。

問２７−１　あなたは、地域活動（地域の行事や清掃活動、見守り活動など）に参加していますか。【主なもの１つ】

１．積極的に参加している	２．ある程度参加している
３．現在参加していないが今後参加したい	４．現在参加しておらず今後も参加しない

問２７−２（問２７−１で「４．現在参加しておらず今後も参加しない」と回答した方）その理由はなぜですか。【主なもの１つ】

【理由】	１．地域活動のための施設が整備されていない	
	２．地域活動を行う時間がない	３．地域活動に関する情報が身近にない
	４．興味がある行事が行われない	５．地域活動を行う体力がない
	６．地域との関わりがわずらわしい	７．その他（　　）

問２７−３（問２７−２で「４．興味がある行事が行われない」と回答した方）どのような行事であれば参加できそうですか。【主なもの１つ】

【理由】	１．除草作業などの環境美化活動	２．リサイクルに関する活動
	３．交通安全や防犯に関する活動	４．消防団や避難訓練などの防災に関する活動
	５．スポーツや祭りなどの交流活動	６．体操やウォーキングなどの健康づくり活動
	７．その他（　　）	

荒尾市の住みやすさについて

問２８　あなたは、荒尾市での暮らしについてどのように思いますか。あなたの考え方に近いものを１つ選んで番号に○をつけ、その理由をお答えください。

１．満足している ２．どちらかといえば満足している	３．どちらかといえば不満である ４．不満である

「１」または「２」と回答された方

その理由について、**当てはまるもの３つまで○**をつけてください。

１．郷土・ふるさとである
２．人情が厚い
３．自然環境が良い
４．働きやすい環境が整っている
５．物価が安い
６．日常の買い物が便利
７．交通の便が良い
８．医療・福祉が充実している
９．子育て環境・支援が充実している
１０．教育環境が整っている
１１．大きな災害が少なく安心できる
１２．治安が良い
１３．観光資源や娯楽施設が豊富である
１４．コミュニティが充実している
１５．その他（　　）

「３」または「４」と回答された方

その理由について、**当てはまるもの３つまで○**をつけてください。

１．郷土・ふるさとでない
２．人情が薄い
３．自然環境が悪い
４．働きやすい環境が整っていない
５．物価が高い
６．日常の買い物が不便
７．交通の便が悪い
８．医療・福祉が充実していない
９．子育て環境・支援が充実していない
１０．教育環境が整っていない
１１．災害が起きたとき不安である
１２．治安が悪い
１３．観光資源や娯楽施設に魅力が少ない
１４．コミュニティが充実していない
１５．その他（　　）

問２９－１　あなたは、これからも荒尾市に住み続けたいと思いますか。

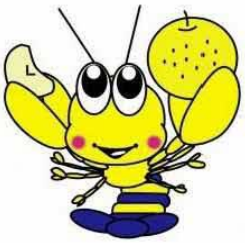
１．住み続けたい	２．どちらかといえば住み続けたい
３．どちらかといえば市外へ移り住みたい	４．市外へ移り住みたい

問２９－２（問２９－１で「３．どちらかといえば市外へ移り住みたい」「４．市外へ移り住みたい」と回答した方）その理由は何ですか。【主なもの１つ】

【理由】

１．日常の買い物が不便である
２．地域行事や近所付き合いが面倒である
３．働く場が少ない
４．高校や大学などの進学の場が少ない
５．子どもの保育・教育環境に不安がある
６．医療・福祉等のサービスや施設が少ない
７．その他（　　）

問３０　最後に、荒尾市の今後のまちづくりなどについて、ご意見やご要望などがありましたら、テーマと内容をお書きください。

【テーマ】 について
【内　容】

ご協力ありがとうございました。